【歴史文化学】

講義コード	科目名		単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態						
M630001	歴史学英語論文実習	実習	1	後期	火3	ERICSON, Kjell David		歴史文化学1
6631003	日本史学	特殊講義	2	前期	月4	吉川　真司		歴史文化学2
6631001	日本史学	特殊講義	2	前期	火2	谷川　穣		歴史文化学3
6631002	日本史学	特殊講義	2	後期	火4	三宅　正浩		歴史文化学4
6631016	日本史学	特殊講義	2	前期	木2	吉江　崇		歴史文化学5
6631017	日本史学	特殊講義	2	後期	木2	吉江　崇		歴史文化学6
6631014	日本史学	特殊講義	2	前期	木3	熊谷　隆之		歴史文化学7
6631015	日本史学	特殊講義	2	後期	木3	熊谷　隆之		歴史文化学8
6631004	日本史学	特殊講義	2	前期	月2	岩城　卓二		歴史文化学9
6631005	日本史学	特殊講義	2	後期	月2	岩城　卓二		歴史文化学10
6631008	日本史学	特殊講義	2	後期	月3	岩崎　奈緒子		歴史文化学11
6631012	日本史学	特殊講義	2	前期	水2	髙木　博志		歴史文化学12
6631013	日本史学	特殊講義	2	後期	水2	髙木　博志		歴史文化学13
6631006	日本史学	特殊講義	2	前期	火4	福家　崇洋		歴史文化学14
6631007	日本史学	特殊講義	2	後期	月4	市　大樹		歴史文化学15
6631009	日本史学	特殊講義	2	後期	木4	仁木　宏		歴史文化学16
6631010	日本史学	特殊講義	2	前期	集中	能川　泰治		歴史文化学17
6631011	日本史学	特殊講義	2	前期	木4	東谷　智		歴史文化学18
6631018	日本史学	特殊講義	2	後期	火4	藤目　ゆき		歴史文化学19
6631019	日本史学	特殊講義	2	後期	金2	人見　佐知子		歴史文化学20
6631020	日本史学	特殊講義	2	後期	月4	西山　伸		歴史文化学21
6631021	日本史学	特殊講義	2	前期	集中	梶原　義実		歴史文化学22
6631022	日本史学	特殊講義	2	前期	木2	クナウト・ティル		歴史文化学23
6631023	日本史学	特殊講義	2	後期	木2	クナウト・ティル		歴史文化学24
6631024	日本史学	特殊講義	2	後期	金2	山本　雅和		歴史文化学25
M292002	日本史学	演習	4	通年	水3	吉川　真司		歴史文化学26
M292003	日本史学	演習	4	通年	火5	上島　享		歴史文化学27
M292004	日本史学	演習	4	通年	金4	谷川　穣		歴史文化学28
M292001	日本史学	演習	4	通年	水5	三宅　正浩		歴史文化学29
6731001	東洋史学	特殊講義	2	前期	火4	吉本　道雅		歴史文化学30
6731002	東洋史学	特殊講義	2	後期	火4	吉本　道雅		歴史文化学31
6731003	東洋史学	特殊講義	2	前期	月4	中砂　明徳		歴史文化学32
6731004	東洋史学	特殊講義	2	後期	月4	中砂　明徳		歴史文化学33
6731007	東洋史学	特殊講義	2	前期	水2	小野寺　史郎		歴史文化学34
6731009	東洋史学	特殊講義	2	前期	木5	箱田　恵子		歴史文化学35
6731010	東洋史学	特殊講義	2	前期	集中	須藤　瑞代		歴史文化学36
6731011	東洋史学	特殊講義	2	前期	水2	辻　正博		歴史文化学37
6731012	東洋史学	特殊講義	2	後期	水2	辻　正博		歴史文化学38
6731013	東洋史学	特殊講義	2	前期	火1	矢木　毅		歴史文化学39
6731014	東洋史学	特殊講義	2	後期	火1	矢木　毅		歴史文化学40
6731018	東洋史学	特殊講義	2	前期	水4	承　志		歴史文化学41
6731019	東洋史学	特殊講義	2	後期	水4	承　志		歴史文化学42
6731021	東洋史学	特殊講義	2	前期	水3	太田　出		歴史文化学43
6731022	東洋史学	特殊講義	2	後期	水3	太田　出		歴史文化学44
6731023	東洋史学	特殊講義	2	前期	月2	宮宅　潔		歴史文化学45
6731024	東洋史学	特殊講義	2	後期	月2	宮宅　潔		歴史文化学46
6731025	東洋史学	特殊講義	2	前期	月4	村上　衛		歴史文化学47
6731026	東洋史学	特殊講義	2	後期	月4	村上　衛		歴史文化学48
6731027	東洋史学	特殊講義	2	前期	水1	古松　崇志		歴史文化学49
6731028	東洋史学	特殊講義	2	後期	水1	古松　崇志		歴史文化学50
6741001	東洋史学	演習I	2	前期	金3	吉本　道雅		歴史文化学51
6741002	東洋史学	演習I	2	後期	金3	吉本　道雅		歴史文化学52
6743001	東洋史学	演習II	2	前期	火5	中砂　明徳		歴史文化学53
6743002	東洋史学	演習II	2	後期	火5	中砂　明徳		歴史文化学54
6749001	東洋史学	演習	2	前期	月2	石川　禎浩		歴史文化学55
6749002	東洋史学	演習	2	後期	月2	石川　禎浩		歴史文化学56
6749003	東洋史学	演習	2	後期	水2	小野寺　史郎		歴史文化学57
M303001	東洋史学	演習	2	前期	金5	吉本　道雅		歴史文化学58
M303002	東洋史学	演習	2	後期	金5	吉本　道雅		歴史文化学59
M303003	東洋史学	演習	2	前期	金2	中砂　明徳		歴史文化学60
M303004	東洋史学	演習	2	後期	金2	中砂　明徳		歴史文化学61
6831004	西南アジア史学	特殊講義	2	前期	木3	仁子　寿晴		歴史文化学62
6831005	西南アジア史学	特殊講義	2	前期	月3	山口　元樹		歴史文化学63
6831006	西南アジア史学	特殊講義	2	前期	火4	岩本　佳子		歴史文化学64
6831011	西南アジア史学	特殊講義	2	後期	火4	岩本　佳子		歴史文化学65
6831007	西南アジア史学	特殊講義	2	後期	水2	帯谷　知可		歴史文化学66
6831009	西南アジア史学	特殊講義	2	前期	集中	野田　仁		歴史文化学67
6842001	西南アジア史学	演習II	4	通年	火2	磯貝　健一		歴史文化学68
6842002	西南アジア史学	演習II	4	通年	水3	岩本　佳子		歴史文化学69

講義コード	科目名		単位	開講期	曜時限	担当者	備考	シラバス連番
	専修・科目	講義形態						
6844001	西南アジア史学	演習II	2	前期	金3	伊藤 隆郎		歴史文化学70
6844002	西南アジア史学	演習II	2	後期	金3	伊藤 隆郎		歴史文化学71
6850001	西南アジア史学	講読	4	通年	金1	今松 泰		歴史文化学72
6851001	西南アジア史学	講読	2	前期	水2	東長 靖		歴史文化学73
6851002	西南アジア史学	講読	2	前期	月2	磯貝 健一		歴史文化学74
6851003	西南アジア史学	講読	2	後期	月2	稲葉 穣		歴史文化学75
9604001	西南アジア史学	語学	4	通年	木3	西尾 哲夫	大学院共通科目	歴史文化学76
9608001	西南アジア史学	語学	4	通年	金2	杉山 雅樹	大学院共通科目	歴史文化学77
9616001	西南アジア史学	語学	4	通年	月4	山口 周子	大学院共通科目	歴史文化学78
9620001	西南アジア史学	語学	4	通年	金1	森 若葉	大学院共通科目	歴史文化学79
9633001	西南アジア史学	語学	4	通年	金4,金5	虫賀 幹華	大学院共通科目	歴史文化学80
9639001	西南アジア史学	語学	2	前期	火3	手島 勲矢	大学院共通科目	歴史文化学81
9640001	西南アジア史学	語学	2	後期	火3	手島 勲矢	大学院共通科目	歴史文化学82
6931002	西洋史学	特殊講義	2	後期	月3	安平 弦司		歴史文化学83
6931003	西洋史学	特殊講義	2	後期	木2	草生 久嗣		歴史文化学84
6931004	西洋史学	特殊講義	2	後期	火5	阿部 俊大		歴史文化学85
6931005	西洋史学	特殊講義	2	前期	火4	竹下 哲文		歴史文化学86
6931006	西洋史学	特殊講義	2	後期	火4	竹下 哲文		歴史文化学87
6931007	西洋史学	特殊講義	2	前期	月2	伊藤 順二		歴史文化学88
6931008	西洋史学	特殊講義	2	後期	月2	伊藤 順二		歴史文化学89
6931009	西洋史学	特殊講義	2	後期	火4	衣笠 太朗		歴史文化学90
6931001	西洋史学	特殊講義	2	前期	金3	佐藤 公美		歴史文化学91
6931010	西洋史学	特殊講義	2	後期	金3	佐藤 公美		歴史文化学92
6931011	西洋史学	特殊講義	2	前期	水4	小関 隆		歴史文化学93
6931012	西洋史学	特殊講義	2	後期	水4	小関 隆		歴史文化学94
6931014	西洋史学	特殊講義	2	前期	水3	藤原 辰史		歴史文化学95
6931015	西洋史学	特殊講義	2	後期	水3	藤原 辰史		歴史文化学96
6931016	西洋史学	特殊講義	2	前期	月4	岸本 廣大		歴史文化学97
6931017	西洋史学	特殊講義	2	後期	月4	桑山 由文		歴史文化学98
6931018	西洋史学	特殊講義	2	前期	火3	金澤 周作		歴史文化学99
6931019	西洋史学	特殊講義	2	後期	火3	金澤 周作		歴史文化学100
6971001	西洋史学	演習 I	2	前期	金5	藤井 崇		歴史文化学101
6971002	西洋史学	演習 I	2	後期	金5	藤井 崇		歴史文化学102
6972001	西洋史学	演習 II	2	前期	金5	佐藤 公美		歴史文化学103
6972002	西洋史学	演習 II	2	後期	金5	佐藤 公美		歴史文化学104
6973001	西洋史学	演習III	2	前期	金5	小山 哲,安平 弦司		歴史文化学105
6973002	西洋史学	演習III	2	後期	金5	小山 哲,安平 弦司		歴史文化学106
6974001	西洋史学	演習IV	2	前期	金5	金澤 周作		歴史文化学107
6974002	西洋史学	演習IV	2	後期	金5	金澤 周作		歴史文化学108
6961001	西洋史学	講読	2	前期	火4	小山 哲	ポーランド書講読	歴史文化学109
M322001	西洋史学	演習	4	通年	金3	小山 哲,金澤 周作,安平 弦司		歴史文化学110
7031001	考古学	特殊講義	2	前期	金2	吉井 秀夫		歴史文化学111
7031002	考古学	特殊講義	2	後期	水3	吉井 秀夫		歴史文化学112
7031003	考古学	特殊講義	2	後期	金2	山本 雅和		歴史文化学113
7031004	考古学	特殊講義	2	前期	集中	梶原 義実		歴史文化学114
7031005	考古学	特殊講義	2	前期	水3	村上 由美子		歴史文化学115
7031006	考古学	特殊講義	2	前期	月4	杉山 淳司		歴史文化学116
7031009	考古学	特殊講義	2	前期	金3	下垣 仁志		歴史文化学117
7031010	考古学	特殊講義	2	後期	金3	下垣 仁志		歴史文化学118
7031011	考古学	特殊講義	2	後期	木2	中久保 辰夫		歴史文化学119
7031012	考古学	特殊講義	2	後期	月5	吉井 秀夫,下垣 仁志,FORTE, Erika		歴史文化学120
7031015	考古学	特殊講義	2	後期	月3	千葉 豊,伊藤 淳史		歴史文化学121
7031018	考古学	特殊講義	2	前期	火2	向井 佑介		歴史文化学122
7031019	考古学	特殊講義	2	後期	火2	向井 佑介		歴史文化学123
7042001	考古学	演習II	4	通年	金4	下垣 仁志		歴史文化学124
M334001	考古学	演習IV	4	通年	木1	千葉 豊,吉井 秀夫,下垣 仁志		歴史文化学125

歴史文化学1

科目ナンバリング	G-LET42 8M630 PJ38										
授業科目名 <英訳>	歴史学英語論文実習 English for Historians					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　特定講師 ERICSON, Kjell David				
配当学年	1回生以上	単位数	1	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火3	授業形態	実習	使用言語	日本語
題目	English for Historians/歴史学英語論文実習										

[授業の概要・目的]

現在、本研究科に籍を置く大学院生たちの多くが、外国語、とくに英語での研究成果の発信を通じて、日本を越えた広い範囲の研究者たちと学術的な交流を深め、学問の発展に寄与したいと、以前にもまして強く望むようになっている。それゆえ、もし体系的に英語論文の作成手順を学ぶことが出来るのであれば、学術活動の幅は大きく広がるに違いない。この実習では、学会報告用の原稿と留学用の研究計画書の作成からはじめ、最終的に学術雑誌用の投稿論文の書き方を実践的に学んでいく。

受講生の要望に応じて、授業中の議論は日本語か英語で行う。

[到達目標]

・英語での口頭報告を準備し、プレゼンテーションすることができるようになる。
・希望留学先に提出し得る英語での研究計画書を作成することができるようになる。
・英文学術雑誌への投稿に必要な、英文作成と推敲の手順を身に着けることができる。

[授業計画と内容]

授業計画については、以下のような内容が想定される：

Week 1: Introduction
Week 2: The Craft of History Writing
Week 3: Identifying Your Research Goals
Weeks 4-6: Preparing a Research Proposal with Peer Review Feedback
Week 7: Mini-presentation of Research Proposals
Weeks 8-11: Working on a Longer Paper Topic
Weeks 12-14: Developing Presentations and Peer Review Feedback on Papers
Week 15: Final Presentations

(フィードバックについては、授業中に指示する。)

歴史学英語論文実習(2)へ続く↓↓↓

歴史学英語論文実習(2)

[履修要件]

大学院生のみ。ただし、受講者個々人の進度に応じた指導を可能とするために、受講者数の上限は8名とする。

[成績評価の方法・観点]

授業中の議論への参加、提出物、発表にもとづき、到達目標に示した諸点をふまえて総合的に評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

・受講生には作成した文書の提出や口頭報告が求められるため、そのための準備を授業時間外に行うことが必要である。

（その他（オフィスアワー等））

オフィス・アワーを毎週設ける。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学2

科目ナンバリング	G-LET23 66631 LJ38										
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　吉川　真司				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	月4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	行基四十九院の研究										

[授業の概要・目的]

日本古代の律令体制を研究する上では、制度史研究が生み出してきた幻影を打ち払うためにも、政治・社会・文化の実態を捉えていくことが肝要である。その際に有効な視角の一つとして、寺院史研究を挙げることができる。仏教は律令体制のイデオロギー的基軸であり、寺院・僧尼については多彩な実態的史料が残されている。

そこで本講義では、古代を代表する民間布教僧・行基が建立した寺院（いわゆる四十九院）について、文献史学・考古学・歴史地理学の方法による総合的検討を行なう。彼の宗教活動の特質を明らかにするとともに、それを支えた地域社会の実相を見きわめ、律令体制とその時代を深く理解する一助としたい。

[到達目標]

日本古代史に関する基本的事項と研究方法を深く理解する。

[授業計画と内容]

基本的に下記のように講義を進めていく予定である。ただし、理解度に応じて詳しい説明を加えたり、新しい発見を紹介したりすることもあるため、それぞれの内容・回数については柔軟に考えることにする。なお、これらの週数には休日に実施する現地見学を含み、その際には平常授業を振り替える。

01～02週　イントロダクション
03～14週　行基四十九院の個別的検討：下記寺院について1～2週ずつ講じる。
　　：生馬院、石凝院、大野寺、狭山池院、昆陽池院、菩提院、菅原寺
15週　総括と展望

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

学期末レポートの内容によって評価する。レポートの評価はオリジナリティを重視し、素点（100点満点）の絶対評価で評点する。

日本史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

日本史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

参考文献や配付資料に基づき、講義内容の理解を深める。

（その他（オフィスアワー等））

現地見学を行なうので、学生教育研究災害傷害保険に必ず加入しておくこと。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学3

科目ナンバリング	G-LET23 66631 LJ38										
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　谷川　穣				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	明治期の国民教化再考										

[授業の概要・目的]

かつて政治学者の藤田省三は、戦前期の天皇制国家を「無比の教化国家」と評した。イデオロギー政策が全国に張り巡らされた様子をそう見なせるとしても、その「教化」の成果とは何であるのか、何をもって成功したと言えるのかは、実は一筋縄ではいかない非常な難題でありつづけている。本講義は、近代日本における国民教化政策を、明治初期に遡って改めてとらえなおし、昭和期に及ぶその政策の構造を宗教や教育との関わりとともに実証的に把握することを目指す。

[到達目標]

明治期を中心に大正・昭和期へ至る国民教化政策の系譜をたどることで、近代日本社会の形成・変容の歴史に対する理解をより深め、視野を広げられるようになる。また多様な史料を用いて実証的に論じる歴史学の手法を習得するとともに、歴史研究の対象と自己との関係がいかにあるべきかを、重層的に考えられるようになる。さらに、講義内容を批判的に再考することで、自らの問題意識を反映した論文作成の基礎能力を得ることができる。

[授業計画と内容]

第1回はイントロダクション、最終回は「まとめ」。以下のトピックを受講生の理解度も勘案しつつ各1～2回講じる予定であるが、受講生の理解に応じて折々組み替えることもある。
・「御一新」と「宣教〈使〉」
・教部省と神仏合同教化政策
・大教院体制下の僧侶と教員
・自由民権運動と「徳育不十分」論
・国語教科書を通じた国体思想の普及
・「教育勅語」への／からの道
・宗教教育禁止訓令とその実際
・地方改良と感化救済
・「児童の世紀」の希望と隘路

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

期末のレポート（70%）と授業中に実施予定の小レポート（30%）で総合的に判断する。
レポートにおいては、自らの見解を論理的、ないし歴史学の手法に即して実証的に論じることができているかを評価基準とする。

[教科書]

授業に際してはハンドアウト・史料プリントを配布する予定である。

日本史学(特殊講義) (2)へ続く↓↓↓

日本史学(特殊講義) (2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

受講生が各自の興味関心にしたがって独力で考え実践する。ただし授業において参考文献も示すので、適宜それを読み、自らの考えを深めるよすがとしてもらえればと思う。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学4

科目ナンバリング	G-LET23 66631 LJ38										
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　三宅　正浩				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	近世武家社会研究										

[授業の概要・目的]

近年の日本近世政治史研究は、史料批判をしつつ、一次史料にもとづいて政治過程を描き出す手法が求められる段階に到達している。従来の通説的理解を一次史料を駆使して塗り替えつつ、新たな方法論と論点を獲得する過程を示すことで、日本近世史研究の基礎的方法と面白さを示したい。
担当者は、主に武家文書（書状・日記・法令などの一次史料と編纂史料などの二次史料）を用いて、近世前期の政治史を研究している。特に、大名家の政治構造や幕藩関係に着目しつつ、近世国家が如何なる過程を経て形成され、その結果として如何なる構造・特質を有することになったのかを中長期的に考えているところである。
今年度は、近世国家の構造・特質を意識しつつ、譜代大名と旗本について、近世成立期を中心に分析をおこなう。
授業では、具体的な史料を示し、その解釈を説明しながら論じていくことになる。知識ではなく、授業を通して示される研究手法をこそ学んでもらいたい。

[到達目標]

近世の史料、特に前期の政治史・武家社会に関する史料を読み解くための基礎的能力を向上させ、発展的に応用する視角と方法論を獲得する。期末には、自己の課題にもとづいて様々な史料をとりあげて読み込み、レポートを作成できるようにする。

[授業計画と内容]

※以下に示したテーマ・回数・順番については固定したものではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況、また、担当者の研究進展状況や学界動向に伴い、変更がありうる。

１.導入―近世大名をどう捉えるか―【２週】
２.譜代大名・旗本研究の先行研究と課題【２週】
３.近世国家における譜代大名・旗本の位置づけについての分析【５週】
４.個別事例からみる譜代大名【５週】
５.まとめと総括【１週】

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

期末レポートで評価する

日本史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

日本史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中にプリントを配付する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

参考文献を読むほか、関連する学術文献を各自で収集して読む。また、自身の課題を設定して史料を収集・分析し、レポートを作成する。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学5

科目ナンバリング	G-LET23 66631 LJ38										
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	国際高等教育院 教授　　吉江　崇				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	日本古代宮廷社会の研究										

[授業の概要・目的]

日本古代における宮廷社会の特質について把握し、その様相や変遷がその後の歴史にどのような影響を与えたかについて理解することを目的とする。今期は、天皇制とも密接に関わる年号制定のあり方に焦点をあて、年号の制定に不可欠な知識や時代認識の変容を検討する。このような作業を通じて、日本古代史の様相やその変遷に関して、理解を深めることを目指す。

[到達目標]

日本における古代史の様相について具体的な知識を獲得するとともに、その研究方法を習得することで、日本の歴史の発展とその内容について、自らの視点から考察・説明できるようになる。

[授業計画と内容]

日本古代の律令国家は、前代に存在した大王と諸氏族・人民との重層的な関係性を、律令法に依拠しながら合理化し、固定化した国家といえる。その頂点には官僚機構を介して国家統治を行う天皇が存在し、天皇の周辺には官僚機構と有機的に関係する宮廷社会が展開した。今期は、年号制定のあり方に焦点をあてながら、宮廷社会における知識の内実や時代認識の変遷について検討する。まずは天皇制と年号との関係性を整理し、年号を日本の古代国家の歴史の中に位置付ける。次いで、陣定としての年号定がどのように成立したかを考察し、年号の制定過程が定式化していく意義を明らかにする。最後に、年号定の中に登場する年号勘文や難陳といったものを取り上げ、年号の制定に不可欠な知識や時代認識の変遷を検討する。
授業の予定は以下の通りであるが、講義の進み具合などを勘案して、各回のテーマや回数を変更することがある。

イントロダクション（第１回）
１　問題の所在―年号と天皇制―（第２回～第３回）
２　陣定としての年号定の成立（第４回～第７回）
３　年号勘文の典拠と文人貴族の知識（第８回～第１０回）
４　年号難陳にみる宮廷社会の時代認識（第１１回～第１３回）
総　括（第１４回）
《期末試験》
フィードバック（第１５回）

[履修要件]

日本史に関する基礎知識があることが望ましい。

日本史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業時間内で実施する小テスト（１０点×２回）と学期末に課す期末レポート（８０点）の合計素点（１００点満点）で成績評価する。小テストは、授業内容の理解度から評点し、期末レポートは、問題設定の仕方、実証性・論理性、結論の説得力などの観点から、到達目標に即して評点する。

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業前は、授業の進行を確認の上、授業内容を想定して予習を行い、授業後は、授業で配布したプリントをもとに、復習を行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

授業は講義形式で行う。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学6

科目ナンバリング	G-LET23 66631 LJ38										
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義） Japanese History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	国際高等教育院 教授　　吉江　崇				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	日本古代宮廷社会の研究										

[授業の概要・目的]

日本古代における宮廷社会の特質について把握し、その様相や変遷がその後の歴史にどのような影響を与えたかについて理解することを目的とする。今期は、古代国家の政務のあり方に焦点をあてながら、平安時代における政務の変容と宮廷社会の様相との関係性について検討する。このような作業を通じて、日本古代史の様相やその変遷に関して、理解を深めることを目指す。

[到達目標]

日本における古代史の様相について具体的な知識を獲得するとともに、その研究方法を習得することで、日本の歴史の発展とその内容について、自らの視点から考察・説明できるようになる。

[授業計画と内容]

日本古代の律令国家は、前代に存在した大王と諸氏族・人民との重層的な関係性を、律令法に依拠しながら合理化し、固定化した国家といえる。その頂点には官僚機構を介して国家統治を行う天皇が存在し、天皇の周辺には官僚機構と有機的に関係する宮廷社会が展開した。今期は、古代国家の政務のあり方に焦点をあてながら、平安時代における政務の変容と宮廷社会の様相との関係性について検討する。まずは政務を支えた官僚制について整理し、律令国家における政務の特質を確認する。次いで、「政」と「定」の二つの系統で構成される政務のあり方を素描し、それぞれがどのように変質していったのかを考察する。最後に、政務における法秩序と先例・故実との相互補完関係を検討し、それを踏まえて、平安時代における政治意志の決定方法を概観する。
授業の予定は以下の通りであるが、講義の進み具合などを勘案して、各回のテーマや回数を変更することがある。

イントロダクション（第１回）
１　問題の所在―政務と官僚制―（第２回～第３回）
２　「政」と「定」の変容（第４回～第７回）
３　法秩序と先例・故実（第８回～第１０回）
４　摂関期における政治意志の決定方法（第１１回～第１３回）
総　括（第１４回）
《期末試験》
フィードバック（第１５回）

[履修要件]

日本史に関する基礎知識があることが望ましい。

日本史学(特殊講義）(2)へ続く↓↓↓

日本史学(特殊講義）(2)

[成績評価の方法・観点]

授業時間内で実施する小テスト（１０点×２回）と学期末に課す期末レポート（８０点）の合計素点（１００点満点）で成績評価する。小テストは、授業内容の理解度から評点し、期末レポートは、問題設定の仕方、実証性・論理性、結論の説得力などの観点から、到達目標に即して評点する。

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業前は、授業の進行を確認の上、授業内容を想定して予習を行い、授業後は、授業で配布したプリントをもとに、復習を行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

授業は講義形式で行う。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学7

科目ナンバリング	G-LET23 66631 LJ38										
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　熊谷　隆之				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	木3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	日本中世の西国と東国										

[授業の概要・目的]

今期は、日本中世史のうち、院政～鎌倉期の「西国」と「東国」をテーマに、研究の方法論に重きをおきながら、理解を深めることを目指す。

[到達目標]

日本中世史に関する認識を深めるとともに、その研究方法を理解する。
また、古文書や古記録などの文献史料を読み込むことで、読解力を習得する。

[授業計画と内容]

第１回　古代の五畿七道と北陸道
第２回　平氏政権と「六波羅幕府」
第３回　中世都市・京都
第４回　武家地・六波羅
第５回　平氏政権と畿内近国
第６回　治承・寿永の内乱
第７回　寿永二年一〇月宣旨
第８回　国地頭の設置と停廃（１）
第９回　国地頭の設置と停廃（２）
第10回　関東知行国
第11回　承久の乱
第12回　六波羅管国の形成
第13回　鎌倉幕府支配の西国と東国（１）
第14回　鎌倉幕府支配の西国と東国（２）
第15回　学習到達度の評価

[履修要件]

日本史に関する基礎知識と一定の漢文読解力があることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

学期末に到達目標に即した定期試験を課し、その内容で成績評価する。定期試験は到達目標の達成度に基づき、100点満点で評価する。

日本史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

日本史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業前は、授業の進行状況を確認のうえで予習を行い、授業後は、授業で配布したプリントをもとに、復習を行うとともに、参考文献にも必ず目を通しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学8

科目ナンバリング	G-LET23 66631 LJ38										
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　熊谷　隆之				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	伊賀国の古代・中世史										

[授業の概要・目的]

今期は、伊賀国の古代・中世史を題材に、研究の方法論に重きをおきながら、理解を深めることを目指す。

[到達目標]

伊賀国の古代・中世史に関する認識を深めるとともに、政治史・地域史の分析方法を理解する。
また、古文書や古記録などの文献史料を読み込むことで、読解力を習得する。#160

[授業計画と内容]

講義形式で、おおむね以下のような流れで進める。

第１回　伊賀国の地勢とその歴史
第２回　東大寺領の誕生前史
第３回　東大寺領の誕生（１）
第４回　東大寺領の誕生（２）
第５回　東大寺領の誕生（３）
第６回　東大寺領の誕生（４）
第７回　東大寺領の誕生（５）
第８回　摂関期における伊賀国の荘園公領
第９回　天喜事件と東大寺領玉滝・黒田荘の確立
第10回　伊勢・伊賀平氏の濫觴
第11回　伊勢平氏の雄飛と伊賀平氏
第12回　保元・平治の乱と伊勢・伊賀国
第13回　治承・寿永の内乱と伊勢・伊賀平氏の乱
第14回　鎌倉幕府の成立と三日平氏の乱
第15回　学習到達度の評価

[履修要件]

日本史に関する基礎知識と一定の漢文読解力があることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

学期末に到達目標に即した定期試験を課し、その内容で成績評価する。定期試験は到達目標の達成度に基づき、100点満点で評価する。

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

日本史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

日本史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業前は、授業の進行状況を確認のうえで予習を行い、授業後は、配布したプリントをもとに、復習を行うとともに、参考文献にも目を通しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学9

科目ナンバリング	G-LET23 66631 LJ38										
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 教授　　岩城　卓二				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	月2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	18世紀近世社会論										

[授業の概要・目的]

18世紀とはどのような社会であったのか。石見銀山を支配するために陣屋が置かれた大森町を対象に、「成熟」した近世社会の諸相と、19世紀初頭までも含め「変質」過程について、掛屋を務めた熊谷家を中心に考えていく。授業は講義形式であるが、史料を読み込みという歴史学にとって必要な基礎的力を習得することを目的とする。そのため受講生は事前に配布する史料を読み込んで授業に臨むという姿勢が必要である。

[到達目標]

近世史研究に必要な史料読解能力と、歴史像を構築する手法を習得する。

[授業計画と内容]

1，石見銀山と銀山附幕領(1回)
2，熊谷家の歴史(3回)
3，掛屋一件(7回)
4，幕領支配の変質(3回)
5，まとめと総括(1回)
＊なお、上記のテーマ・回数・順番は、担当者の講義方針と受講者の理解状況、担当者の研究進捗状況・学界動向によって変更がありうる。
フィードバックの方法は別途連絡。

[履修要件]

一定の漢文読解力を必要とする。

[成績評価の方法・観点]

授業の理解度を確かめる期末レポート

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示する史料の精読。

（その他（オフィスアワー等））

授業中に指示する。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学10

科目ナンバリング	G-LET23 66631 LJ38										
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 教授　　岩城　卓二				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	19世紀近世社会論										

[授業の概要・目的]

近代への移行がはじまる19世紀とはどのような社会であったのか。石見国西部に配置された幕領飛び地において銅山師を務めた堀家を対象に、近世社会の制度的疲労に対してどのような施策が講じられ、どのような社会が構築されていったのかについて、考えていく。授業は講義形式であるが、史料を読み込みという歴史学にとって必要な基礎的力を習得することを目的とする。そのため受講生は事前に配布する史料を読み込んで授業に臨むという姿勢が必要である。

[到達目標]

近世史研究に必要な史料読解能力と、歴史像を構築する手法を習得する。

[授業計画と内容]

1，石見銀山附幕領の飛び地(2回)
2，銅山師堀家の歴史(2回)
3，堀家による「取締」の展開(6回)
4，長州戦争という「危機」(4回)
5，まとめと総括(1回)
＊なお、上記のテーマ・回数・順番は、担当者の講義方針と受講者の理解状況、担当者の研究進捗状況・学界動向によって変更がありうる。
フィードバックの方法は別途連絡。

[履修要件]

一定の漢文読解力を必要とする。

[成績評価の方法・観点]

授業の理解度を確かめる期末レポート

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示する史料の精読。

（その他（オフィスアワー等））

授業中に指示する。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学11

科目ナンバリング	G-LET23 66631 LJ38										
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	総合博物館　教授　　岩崎　奈緒子				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	近世後期の対外認識　11										

[授業の概要・目的]

日本における植民地主義の起源をさぐる。

[到達目標]

近世後期の世界認識の特質を学び、近代への移行を内在的に考察できる視角を得る。

[授業計画と内容]

以下の各項目について講述する。各項目には、【　】で指示した週数を充てる。各項目の講義の順序は固定したものではなく、担当者の講義方針と受講者の背景や理解の状況に応じて、講義担当者が適切に決める。

１．研究史と本講義の視座【2週】
２．最上徳内のアイヌ描写の特質～松前広長との比較から～【4週】
　　最上徳内「蝦夷国風俗人情之沙汰」・「渡島筆記」
　　松前広長「松前志」
３．第一次蝦夷地幕領化政策の特質【２週】
４．本多利明の進歩史観～西川如見・新井白石との比較から～【6週】
　　本多利明「経世秘策」「西域物語」
　　西川如見「華夷通商考」
　　新井白石「采覧異言」「西洋紀聞」「蝦夷志」
５．フィードバック【１週】

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

学期末のレポート

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に予習・復習すべきポイントを指示する。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学12

科目ナンバリング	G-LET23 66631 LJ38										
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 教授　　高木　博志				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	近代天皇制と伝統文化										

[授業の概要・目的]

「近代天皇制と伝統文化」と題する本講義においては、近代国民国家とともに成立した近代天皇制（天皇をいただく国家の制度）が、同時に、前近代以来の文化を再構築した「伝統文化」を不可欠としたことを論じる。

　ここでいう「伝統文化」とは、前近代に起原しながらも、近代において欧米/中国との関係性において形成されてきたものである。大嘗祭・陵墓・国花としての桜・古社寺・文化財・古都・郷土愛などを俎上に上げる。また近代天皇制の伝統文化によって、第一次世界大戦後に先進国のなかで少数となった君主制を存続できる大きな原因となったこと、20世紀に地方城下町では藩主に帰依した地方の郷土愛が天皇を重んじる愛国心に包摂されそれが社会の大きな基盤となったこと、そして天皇制における「伝統文化」が極めて現代的な政治課題であること、を論じる。近代天皇制の特質として、記紀神話に基づく、天照大神の血統に代々の天皇が存在する神学についても明らかにする。

[到達目標]

注のある形式の論文が作成できる。「近代天皇制と伝統文化」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。

[授業計画と内容]

・近代天皇制と「史実と神話」
・19世紀の大嘗祭
・20世紀の大嘗祭
・19世紀の陵墓
・20世紀の陵墓
・伝統文化の創造と近代天皇制
・皇室の神仏分離と泉涌寺
・近代皇室の仏教信仰
・奈良女高師の修学旅行と奈良・京都
・奈良女高師の修学旅行と伊勢・東京
・桜の近代―弘前・京都
・桜の近代―帝国
・郷土愛と愛国心をつなぐもの
・20世紀の日本の文化財保護と伝統文化
・現地保存の歴史と課題

以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。フィードバックについては授業中に指示する。

日本史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

日本史学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。レポート作成について指導する。授業で指示。平常点も加味する（5パーセント以下）。 100点満点。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
高木博志 『近代天皇制の文化史的研究―天皇就任儀礼・年中行事・文化財』（校倉書房、1997年）
高木博志 『近代天皇制と古都』（岩波書店、2006年）

[授業外学修（予習・復習）等]

「近代天皇制と伝統文化」に関わる巡見を希望者と行う。

（その他（オフィスアワー等））

レポートの内容について個別相談に応じる。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学13

科目ナンバリング	G-LET23 66631 LJ38										
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 教授　　高木　博志				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	「京都らしさ」の近代と遊廓・花街										

[授業の概要・目的]

近代京都のイメージとして、貴族文化・国風文化、町衆・桃山文化とともに、現代では「もてなし」の文化が流布する。平安朝の貴族文化が日清・日露戦争期に、織豊・桃山・寛永文化が大正期の「帝国」の時代に顕彰されることには歴史的背景があった。また大正期に南蛮憧憬とともに、〈合わせ鏡〉のように祇園や舞妓が「京都らしさ」の表象となることには、文学・美術・学術・映画など総合的な時代思潮があった。後半には、華やかな京都イメージの実態として、大衆社会状況下で全国一、芸娼妓の人口比が多い府県であった京都の売買春観光や遊廓の立地について明らかにする。また娼妓の性病快癒や年季明けへの願いに向き合う、民衆宗教・金光教の布教に迫る。民衆史の方法として、京都や姫路の教師が娼妓の悩み・願いを書き留めた「祈念帳」を分析する。

[到達目標]

注のある形式の論文が作成できる。「「京都らしさ」の近代と遊廓・花街」について、授業とフィールドの両面から、理解を深める。

[授業計画と内容]

・明治維新と京都
・1883年の岩倉具視の「京都皇宮保存に関する意見書」と「伝統文化」
・1895年の平安遷都千百年紀念祭と平安時代
・1907年、与謝野寛・木下杢太郎・北原白秋・吉井勇『五足の靴』
・1917年、入江波光による延命寺「キリシタン墓碑」の発見
・1920年、茨木・千提寺・ザビエル画像の発見
・大正期、南蛮ブームと南蛮文化研究
・「祇園もの」の文学
・鴨川・東山の周縁性―性・差別・死
・近代京都の花街・遊廓
・大衆社会と売買春の盛行
・民衆宗教としての金光教
・金光教と歌舞伎・映画（マキノ省三・尾上松之助・中村鴈治郎ら）
・金光教と遊廓・花街布教
・民衆の肉声に迫る「祈念帳」の史料性

以上のテーマを授業でとりあげる。内容は変更することがある。フィードバックについては授業中に指示する。

日本史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

日本史学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

講義にかかわる自由研究のレポートによる。注のある形式。レポート作成について指導する。授業で指示。平常点も加味する（5パーセント以下）。100点満点。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
高木博志 『近代天皇制と古都』（岩波書店、2006年）
高木博志ほか 『京都の歴史を歩く』（岩波書店、2016年）

[授業外学修（予習・復習）等]

「「京都らしさ」の近代と遊廓・花街」に関わる巡見を希望者と行う。

（その他（オフィスアワー等））

レポートの内容について個別相談に応じる。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学14

科目ナンバリング	G-LET23 66631 LJ38										
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 准教授　福家　崇洋				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	日本社会運動史										

[授業の概要・目的]

明治期から敗戦後までの日本社会運動史について講義を行う。本講義の目的は、近現代日本の社会運動について通史的な知識を提示することである。あわせて、日本史・日本思想史において社会運動とその思想がはたした役割を理解することを目指す。本講義への参加によって、日本近現代史を複合的・重層的にとらえる視点を育んでくれるとありがたい。

[到達目標]

日本近現代史における社会運動の意義を理解し、基本的な知識を習得することができる。

[授業計画と内容]

1 ガイダンス
2 自由民権運動
3 「初期社会主義」と労働運動
4 アジア主義と対外硬運動
5 2つの戦争と「大正デモクラシー」
6 コミンテルンの結成と日本社会主義運動
7 国家改造運動
8 無産政党と社会民主主義の形成
9 総力戦とクーデター未遂事件
10 満洲事変と「転向」　　国家社会主義の台頭
11 昭和維新運動　　テロと叛乱未遂
12 天皇機関説事件と宗教運動
13 反ファシズム統一戦線
14 占領下の民主化運動
15 まとめ

なお、COVID19の状況や授業の進行速度により内容が変更する可能性があります。

[履修要件]

特になし

日本史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

授業中の小レポート（40点）と期末レポート（40点）、平常点（20点）等により総合的に判断する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
山口輝臣・福家崇洋 『思想史講義　明治篇Ⅰ』（ちくま新書、2022年）
山口輝臣・福家崇洋 『思想史講義　明治篇Ⅱ』（ちくま新書、2023年）
山口輝臣・福家崇洋 『思想史講義　大正篇』（ちくま新書、2022年）
山口輝臣・福家崇洋 『思想史講義　戦前昭和篇』（ちくま新書、2022年）

[授業外学修（予習・復習）等]

各回の受講内容に関する事前学習や、興味を持ったテーマについて自ら掘り下げていく事後学習を行うこと。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学15

科目ナンバリング	G-LET23 66631 LJ38										
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	大阪大学文学研究科　教授 市　大樹				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	東アジアのなかの日本古代宮都（その2）										

[授業の概要・目的]

日本古代史の史料は限られているが、発掘調査を通じて、新たな知見が次々と明らかにされつつある。本講義では、既存の文献史料に加え、新たな考古資料も積極的に活用しながら、飛鳥・奈良時代を中心に宮都の展開過程を跡づけ、日本古代国家の形成・展開過程に迫ってみたい。その際、日本古代史を一国史にとどめるのではなく、東アジア史の文脈のなかに位置づけるように注意したい。

[到達目標]

①資料の取り扱い方法を習得する。②日本古代史の主要な論点を理解する。③東アジア史の文脈で、日本古代史像をイメージできるようになる。

[授業計画と内容]

基本的に下記のように講義を進める予定である。ただし、受講者の理解状況に応じて詳しく説明したり、新たな知見を紹介することなどもあるため、各テーマの内容などについては柔軟に考えることにする。

１、イントロダクション―古代宮都の概観―
２～３、大宝遣唐使のみた唐長安城
４～６、藤原廃都と平城遷都の歩み
７～８、遷都当初における平城宮・京の姿
９～10、交通体系の再編成
11～12、「彷徨の5年間」
13～14、奈良時代後半の平城宮
15、授業全体のまとめ

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

期末のレポート（70%）と授業中に実施予定の小レポート（30%）で総合的に判断する。

日本史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

日本史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する
プリントを配布して授業をおこなう。

[参考書等]

（参考書）
川尻秋生他 『シリーズ古代史をひらく　古代の都』（岩波書店，2019年）ISBN:9784000284967
必要に応じて授業中に紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で言及した参考文献を図書館などで見てみる。飛鳥などの遺跡を訪れてみる。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学16

科目ナンバリング	G-LET23 66631 LJ38										
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	大阪公立大学大学院文学研究科 教授 仁木　宏				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	日本中世都市史の構造										

[授業の概要・目的]

日本の中世都市にかかわる従来の研究を前提に、中世都市史の全体構造を提示する。

講師（仁木）は、1980年代以降、京都、宗教都市（寺内町、「山の寺」）、港町、城下町など、中世都市全般について研究してきた。文献史料にもとづきつつ、空間のあり方から都市の性格を分析する手法を採用している。考古学や建築史学の成果に学び、歴史地理学的な手法に多く拠っている。また地域社会における都市の位置づけ、守護や戦国期地域権力・統一政権と都市とのかかわりについても関心をもって研究を進めてきた。本講義では、こうした研究史の結論として「日本中世都市史」がどのように構想できるのかを概観する。

具体的には、まず1980年代までの中世都市研究の成果や論点を確認する。ついで講師が注目してきた都市類型を時期ごとにふりかえるなかで、日本中世都市の特色を明らかにする。都市の社会構造は、権力・領主と都市との相互関係、ならびに住民組織のあり方に規定される。それらはまた、各都市の空間構造に反映される、と考える。

中世史研究の課題と都市史研究のかかわりにも言及する。中世史研究、中世・近世移行期研究における都市史研究の重要性についても理解してほしい。

[到達目標]

授業で示された具体的な研究事例を学び、その内容を批判的に検証することで、修士論文執筆に必要な能力が修得できるようになる。つまり、歴史学の基礎をなす実証の方法、先行学説に対する向き合い方、自説を論理的に構成する能力などを獲得することができる。

[授業計画と内容]

基本的に以下のプランに従って講義を進める。

第１回　日本中世都市史研究の成果と論点①；豊田武、林屋辰三郎、脇田晴子など
第２回　日本中世都市史研究の成果と論点②；佐々木銀弥、網野善彦など
第３回　寺内町①；中世都市を「復元」する
第４回　寺内町②；「寺の論理」と「町（まち）の論理」
第５回　京都①；都市共同体
第６回　京都②；権力と都市
第７回　京都③；首都論
第８回　京都④；洛中洛外
第９回　城下町①；「楽市令」批判
第10回　城下町②；発展段階と多様性
第11回　城下町③；地域権力・統一権力と地域社会
第12回　港町；流通・交通の変化と都市
第13回　「山の寺」；宗教と都市
第14回　（総括）日本中世都市史の構造
第15回　フィードバック

日本史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

日本史学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

学期末のレポート（５０％）と授業のさいに実施予定の小レポート（５０％）。
レポートにおいて、自らの見解を論理的あるいは実証的に論じることができているのかを評価基準とする。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
仁木　宏『空間・公・共同体　－中世都市から近世都市へ－』（青木書店，1997年）ISBN:4-250-97021-3
仁木　宏『戦国時代、村と町のかたち』（山川出版社，2004年）ISBN:9784634542600
仁木　宏『京都の都市共同体と権力』（思文閣出版，2010年）ISBN:978-4-7842-1518-8
その他については、適宜、授業で指示をする。

（関連ＵＲＬ）

https://researchmap.jp/read0181614(講師の研究情報を示すリサーチマップ。「書籍等出版物」「論文」のページ参照。)

[授業外学修（予習・復習）等]

・事前に配布する史資料を読んだ上で、授業にのぞむこと。
・授業終了後は、授業内容を批判的に検討すること。

（その他（オフィスアワー等））

・質問などがあれば、メールにて連絡をすること。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学17

科目ナンバリング	G-LET23 66631 LJ38										
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	金沢大学人間社会研究域　教授 能川　泰治				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	大阪城の近現代史　－近代都市史研究として－										

[授業の概要・目的]

大阪城を建てたのは誰か。この問いに対しては、誰もが豊臣秀吉を思い浮かべるであろう。そのこと自体は誤りではない。それでは、現在の大阪城天守閣はいつ誰が建てたのか。そして、現在の壮大な石垣と濠はいつ築かれたものなのか。そこに秀吉の築いた大坂城の痕跡は残されているのか。現在の大阪城に関する、これらの基本的な問いに対して正確に答えられる人は、意外に少ないように思われる。本講義はこれらの重要論点を、単なる近現代の城郭史としてではなく、近代都市史研究の視点で、当時の国内外の政治・社会の動向をふまえながら語ることを課題とする。

[到達目標]

幕末維新から戦後にかけての日本の近現代史について、近代都市史研究の視点で理解を深める。そして、史料の収集・解読方法をはじめとする歴史学の手法を習得し、歴史遺産の保存と活用についての考え方を深化させる。さらに、講義内容を批判的に再考することで自らの論文作成能力を養う。

[授業計画と内容]

「大阪城の近現代史」というテーマで、幕末維新期から高度経済成長期にかけての都市史について、下記のような内容で講義する。

第1回　開講ガイダンス
第2回　近代都市史研究の現状と課題
第3回　基礎知識習得のための序論
第4回　幕末維新期の大阪城
第5回　陸軍史料にみる大阪城
第6回　大阪城天守閣復興（その1）
第7回　大阪城天守閣復興（その2）
第8回　大阪城天守閣復興（その3）
第9回　十五年戦争と大阪城（その1）
第10回　十五年戦争と大阪城（その2）
第11回　戦後の大阪城復興（その1）
第12回　戦後の大阪城復興（その2）
第13回　戦後の大阪城における「豊臣の城」の発見（その1）
第14回　戦後の大阪城における「豊臣の城」の発見（その2）
第15回　フィードバック

[履修要件]

特になし

日本史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートで評価する。レポートの評価基準については、教室で開示する。

[教科書]

使用しない
毎回の授業で史資料のプリントを配布して解説する。

[参考書等]

（参考書）
岡本良一 『大坂城』（岩波新書，1970）ISBN:978-4004131038
渡辺　武 『図説　再見大阪城』（大阪都市協会，1983）
木下直之 『わたしの城下町』（筑摩書房，2007）ISBN:978-4480098931

[授業外学修（予習・復習）等]

授業は短期間の集中講義形式で行うので、上記3点の参考書のうちいずれか一つだけでも事前に目を通すと、講義内容が理解しやすくなると思われる。
集中講義終了後に大阪城公園と天守閣を各自で実地見学するのが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

集中講義のため、オフィスアワーを特に設けることはしない。質問等があれば各回の授業終了後に適宜受け付ける。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学18

科目ナンバリング	G-LET23 66631 LJ38										
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	甲南大学文学部　教授 東谷　智				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	木4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	江戸時代の支配の仕組み										

[授業の概要・目的]

本講義では、江戸時代の藩と大名を素材として、支配の仕組みについて論じる。

参勤交代を行う大名は国元と江戸を往復し、両所に拠点を持つ。江戸と国元、それぞれの拠点での藩政機構のあり方や役割について論じることで、江戸時代の領主について理解を深めたい。講義では、武家文書や地方文書を具体的に示しながら、大名や藩の世界に分け入っていくことから、京都大学総合博物館所蔵の古文書を実験する機会を設けたい。

また大名の儀礼を取り扱うことから、大名御殿の指図（設計図）なども用いるとともに、二条城二の丸御殿の見学など学外講義も行い、空間的把握にも留意したい。

[到達目標]

藩と大名について基礎的な知見を得ると共に、史料の基本的な分析が出来るようになることを目指す。

[授業計画と内容]

1. ガイダンス
2. 大名の姿
3. 大名の家族と交際
4. 大名の官位と役職
5. 江戸の大名屋敷
6. 江戸城における儀礼
7. 国元における城下町
8. 国元の屋敷と儀礼
9. 家臣団
10. 番方と役方
11. 藩政機構
12. 行政の仕組み
13. 機構改編と藩政改革
14. 支配の広がり
15. まとめ

[履修要件]

特になし

日本史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

日本史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点　40%
期末レポート　60%

[教科書]

授業中に指示する
レジュメを適宜配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

史料を読む講義を受講することを心懸けて下さい。
期末レポートでは、具体的に史料を分析してもらう課題を出します。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学19

科目ナンバリング	G-LET23 66631 LJ38										
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義） Japanese History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	大阪大学人間科学研究科　教授 藤目　ゆき				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	占領軍被害の研究										

[授業の概要・目的]

連合国占領期は闇の深い時代である。占領期は戦争と軍国主義からの解放と民主化という明るい側面がしきりに強調され、日本占領こそ輝かしい「占領の成功モデル」だといった言説が今も流布されている。だが占領期は、連合国占領軍が絶大な権力を行使し、その事故や犯罪のために市民が殺傷されてすら闇にられてしまう恐ろしい時代でもあった。本講義では、一九五〇年代後半におこなわれた調達庁労働組合による大規模調査資料をはじめ、長い歳月埋もれてきた史料を用いて、占領軍人身被害の角度から占領史を再考する。

[到達目標]

(1)「8・15終戦」論や「占領の成功モデル」といった言説の虚構性を理解する。

(2)占領初期から日本の非軍事化・民主化に背反し、日本をアジアの「反共防波堤」として再建する方向へ向かう統治が始まっていることを理解する。

(3)朝鮮戦争期に日本が「国連軍」の基地となり、日本が戦域に入いったことによって各地に人身被害が発生していたことを理解する。

[授業計画と内容]

各1～3回で以下のテーマとそれに関連する事項について学びます（全15回）。

１．研究の意義と方法
２．日本軍武器弾薬処理に伴う人身被害
３．占領軍労務動員と労働災害死傷
４．暴行・傷害・殺人
５．軍事演習被害・朝鮮戦争被害
６．占領軍人身被害補償運動の歴史的意義

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（コメントシートやミニ・レポートの提出、授業中のディスカッションへの積極的参加など）60点、期末レポート40点で評価する。

日本史学(特殊講義）(2)へ続く↓↓↓

日本史学(特殊講義）(2)

[教科書]

藤目ゆき 『占領軍被害の研究』（六花出版、2021年）ISBN:ISBN978-4-86617-157-9
授業中に配布するレジュメと資料、スクリーンに映す資料に沿って授業を進めます。

[参考書等]

（参考書）
『占領軍による人身被害調査資料集 編集復刻版』（六花出版、2021年）
その他の参考文献については、授業中に適宜指示します。

[授業外学修（予習・復習）等]

参考書も含めて，授業中に適宜指示します。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学20

科目ナンバリング	G-LET23 66631 LJ38										
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	近畿大学文芸学部　准教授 人見　佐知子				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	金2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	遊廓・性売買（買売春）の近現代史										

[授業の概要・目的]

本講義では、一次史料を読み解きながら女性史やジェンダー史の視座から近代日本の性売買や遊廓・公娼制度の歴史を考えていく。性売買は社会構造の歴史的性格と不可分なので、性売買の歴史を考えることは近代社会の歴史的特質についての理解を深めることにもつながる。また、近代日本の公娼制度と深く関係する日本軍「慰安婦」問題や、現代の性売買をめぐる諸問題についても考えたい。

[到達目標]

近代日本の性売買の歴史を理解するとともに、近代社会の歴史的特質について考察を深める。また、一次史料を読み解く方法や、女性史・ジェンダー史の射程についても理解を得る。さらに、歴史の理解をふまえて現代社会の諸問題を考察する視座を養う。

[授業計画と内容]

1〜2　ガイダンス：用語の説明と近代日本の性売買研究の動向について
3〜5　娼妓と近代日本の公娼制度：娼妓の手紙を読む
6〜8　性売買の拡大とその背景：芸娼妓周旋業者の経営史料を読む
9〜10　廃娼運動の展開と性売買の変容：貸座敷経営者の史料を読む
11〜13　戦時下の性：日本軍「慰安婦」問題を中心に
14　戦後〜現代へ
15　まとめ
※受講生の問題関心や理解度によって内容や構成を変更する可能性があります。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業中の小レポート（30点）と期末レポート（70点）により総合的に判断する。

[教科書]

使用しない
レジュメプリントもしくはPDFファイルを配布予定

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に紹介する参考文献を適宜読み、予習・復習をおこなうこと。

（その他（オフィスアワー等））

初回授業時にメールアドレスを示すので、それで連絡すること。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET23 66631 LJ38										
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	大学文書館　教授　　西山　伸				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	「京都大学百二十五年史」を読む　2										

[授業の概要・目的]

1897年に創立された京都大学は、2022年に創立百二十五周年を迎えた。その間、1947年までは京都帝国大学、2004年までは京都大学、以後は国立大学法人京都大学と位置づけを変化させながら研究教育活動を行ってきた。その軌跡を一次資料に基づいて考察することによって、近現代日本史・高等教育史のなかで京都大学がいかなる存在であったのかを検証することを本講義の目的とする。今年度は、戦後改革から現在までを対象とする。

[到達目標]

現代日本における高等教育の概要を把握し、一次資料に基づいて京都大学の歴史を理解する。合わせて日本現代史資料を読み込む能力を養う。

[授業計画と内容]

1　ガイダンス
2　戦後高等教育改革
3　新制京都大学の発足
4　京都大学における一般教育
5　占領期の学生
6　高度経済成長下の拡大
7　京大紛争（1）
8　京大紛争（2）
9　諸問題への対応と学生生活
10　教育・研究体制の再編
11　大学改革（1）
12　大学改革（2）
13　国立大学法人京都大学の発足
14　京都大学の現在
15　まとめ（フィードバック）

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

毎回の授業終了時に提出するコメントとレポート試験により評価する。その割合はコメント30%、レポート70%とする。

[教科書]

使用しない

日本史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

日本史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

（参考書）
京都大学百二十五年史編集委員会編 『京都大学百二十五年史』（京都大学学術出版会、2022年）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で提示する参考文献、一次資料の典拠などを各自調べること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET23 66631 LJ38										
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	名古屋大学人文学研究科　教授 梶原　義実				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	古代寺院の考古学										

[授業の概要・目的]

飛鳥時代に日本に仏教が導入されたことは、日本の古代社会の変革の大きな要因となった。本講義では、古代寺院の立地や遺構、出土瓦やその生産組織等の考古学的分析から、とくに地域社会において、古代寺院の造営がどのようなインパクトを与えたのかについて考察することを目的とする。

[到達目標]

考古学からみた古代寺院についての知識を取得することを目標とするとともに、授業の内容はもとより、講義者の研究のあり方が、自身の研究姿勢を考えるなんらかの手掛かりになることを期待している。

[授業計画と内容]

基本的に以下の計画に沿って講義を進める。ただし、授業の進度や受講生の興味。理解度によって、適宜変更もあり得る。

第１回　イントロダクション：本講義における視座
第２回～第８回　国分寺造瓦組織に関する研究
　第２回：国分寺の考古学的研究史と問題の所在
　第３回：国分寺瓦の展開に関する事例研究（１）西海道
　第４回：国分寺瓦の展開に関する事例研究（２）東海道
　第５回：国分寺瓦の展開に関する事例研究（３）山陽道・山陰道・南海道
　第６回：国分寺瓦の展開に関する事例研究（４）東山道・北陸道
　第７回：国分寺の造営に関する考察（１）ー造営の進捗状況ー
　第８回：国分寺の造営に関する考察（２）ー造瓦組織の編成ー
第９回～第14回　古代寺院に関する景観論的研究
　第９回：古代寺院の立地研究と問題の所在
　第10回：古代寺院の立地に関する事例研究（１）畿内以東
　第11回：古代寺院の立地に関する事例研究（２）畿内以西
　第11回：古代寺院の選地傾向についての考察
　第12回：霊峰信仰・水源祭祀と古代寺院
　第13回：古墳・祖先信仰と古代寺院
　第14回：古代寺院をめぐる景観構成
第15回（補論）　日本考古学をめぐる現状と課題への私見

[履修要件]

特になし

日本史学(特殊講義) (2)へ続く↓↓↓

日本史学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

レポートによって評価する（100%）。レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

日本考古学一般や、歴史考古学についての諸文献を読んでおくことが望ましい。また、遺跡や博物館に足を運び、本授業で扱う古代瓦などを含め、考古遺物を直接みておくことを推奨する。

（その他（オフィスアワー等））

下記メールアドレスまで連絡してください。
kajiwara.yoshimitsu.j1@f.mail.nagoya-u.ac.jp

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学23

科目ナンバリング	G-LET23 66631 LJ38										
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 准教授　KNAUDT，Till				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	２０世紀日本技術社会史										

[授業の概要・目的]

特殊講義の目的は、社会、政治、テクノロジーが相互に関連していることを学生に紹介することである。特に、社会変革のために技術がどのように考案されたか、また、政治思想や社会がどのように技術を構築したかに焦点を当てる。

[到達目標]

技術の社会史・思想史の基本をなす日本近代社会における資本主義構造の立場がどのように形成されたかを理解し，その視点から歴史を吟味し，考察することができるようになる。

[授業計画と内容]

第1回　オリエンテーション
第2回　現在の技術観
第3回～第4回　技術社会史の理論的基礎
第一部　帝国
第5回　鉄筋コンクリートと近代のアジア
第6回　情報通信と帝国
第7回　飛行機と戦争
第二部　戦後日本
第8回　鉄道と労働
第9回　家電と女性
第10回　車と家族
第三部　情報化社会の日本
第11回　エネルギーと環境
第12回　コンピュータと子供
第13回　ロボットと国民
第14回　まとめ
≪期末試験≫
第15回　フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

討論への積極的な参加（10点）、報告（１回、40点）、試験（50点）により評価する。４回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

日本史学(特殊講義) (2)へ続く↓↓↓

日本史学(特殊講義) (2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎週、課題論文を読んで授業の準備をする。多くは英語で行われるので、週に3時間程度は準備に必要である。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET23 66631 LJ38										
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 准教授 KNAUDT, Till				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	日本の左翼のグローバルヒストリー										

[授業の概要・目的]

日本の左翼は、社会変革の過程において、社会的・思想的な影響力を持つ存在であった。本講演では、20世紀の革命と反革命、帝国主義と脱植民地化、冷戦といったグローバルな文脈の中で、日本の左翼がどのように発展してきたかを概観することを目的としている。

[到達目標]

グローバルヒストリーの枠組みを使って、日本の左翼の政治の立場がどのように形成されたかを理解し，その視点から社会運動・思想史を吟味し，考察することができるようになる。

[授業計画と内容]

第１回　オリエンテーション
第２回　「レフト」というのは何か
第３回　ヨーロッパの資本主義と社会主義
第４回　ロシアの帝国と日本のアナキスト
第５回　帝大セツルメント
第６回　インターナショナルと日本の共産主義
第７回　帝国とレフト
第８回　脱植民地化と戦後のレフト
第９回　女性労働運動
第１０回　国鉄労働組
第１１回　べ平連
第１２回　１９６８の第三世界反帝国主義
第１３回　日本のヒッピーとカリフォルニア
第１４回　まとめ
≪期末試験≫
第１５回　フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

討論への積極的な参加（10点）、報告（１回、40点）、試験（50点）により評価する。４回以上授業を欠席した場合には、単位を認めない。

日本史学(特殊講義) (2)へ続く↓↓↓

日本史学(特殊講義) (2)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎週、課題論文を読んで授業の準備をする。多くは英語で行われるので、週に3時間程度は準備に必要である。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学25

科目ナンバリング	G-LET23 66631 LJ38										
授業科目名 <英訳>	日本史学(特殊講義) Japanese History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	京都産業大学文化学部　客員教授 山本　雅和				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	金2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	世界遺産を掘る！（「古都京都の文化財」の考古学）										

[授業の概要・目的]

平安遷都から明治維新まで千年以上日本の都であった京都には、数多くの文化財があります。その中でも各時代を物語る代表的な文化遺産として、17件の寺院・神社・城郭が、世界遺産「古都京都の文化財」に選定されました。
授業では、世界遺産「古都京都の文化財」を対象として、考古学による遺跡の研究法を紹介するとともに、文化財保護の意義および整備・活用について学習します。

[到達目標]

世界遺産「古都京都の文化財」についての知識を得る。
史跡・名勝を対象とする考古学的研究法の実践を理解する。
文化財の保護と整備・活用の具体例を学習する。

[授業計画と内容]

第１回　ガイダンス・「古都京都の文化財」についての意識調査
第２回　概説「古都京都の文化財」
第３回　上賀茂神社（賀茂別雷神社）・下鴨神社（賀茂御祖神社）
第４回　延暦寺
第５回　東寺（教王護国寺）
第６回　仁和寺
第７回　醍醐寺
第８回　平等院
第９回　天龍寺
第10回　金閣寺（鹿苑寺）
第11回　銀閣寺（慈照寺）
第12回　西本願寺（本願寺）
第13回　二条城
第14回　「古都京都の文化財」の整備・活用
第15回　まとめ

[履修要件]

特になし

日本史学(特殊講義) (2)へ続く↓↓↓

日本史学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

平常点評価　：30%（授業内容についての質問・感想、小レポートなど）
期末レポート：70%

[教科書]

各回の授業で資料を配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で取り上げる「古都京都の文化財」の寺院・神社・城郭を訪問して、授業内容を復習するとともに現状を検分してください。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学26

科目ナンバリング	G-LET23 7M292 SJ38										
授業科目名 <英訳>	日本史学(演習) Japanese History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　吉川　真司				
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	水3	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	貞観格の研究										

[授業の概要・目的]

『類聚三代格』に収められた貞観格を年代順に精読し、奈良平安時代史への理解を深めるとともに、古代史研究法について考える。

貞観格は貞観十一年(869)に撰進された法令集で、弘仁十一年(820)から貞観十年までの詔勅・論奏・太政官符を官司別に編成し、これに雑格・臨時格を付して全十二巻とする。律令体制の変容を考える上で重要な史料であり、現在は大部分が『類聚三代格』に内容別に分類されて伝わっている。本演習では、貞観格の法令を年代順に精読していく。

[到達目標]

日本古代史の基本史料に関する高い読解力を得る。

[授業計画と内容]

第1回：イントロダクション

貞観格の概要を説明し、各出席者の担当部分を決定する。

第2回～第29回：『類聚三代格』所収貞観格法令の精読

『類聚三代格』所収の貞観格法令を精読し、内容について討論する。記事の内容と担当者の習熟度によって進度は大きく異なってくるため、毎回の予定を示すことはできないが、おおむね毎週一通を基本とする。担当者は研究史を把握し、関係史料を網羅した上で、適切な解釈と評価をなすことが求められる。他の出席者も必ず予習・発言しなければならず、沈黙に終始する者は参加資格を失う。

第30回　まとめ

精読の成果をまとめ、残された課題や疑問点について全員で議論する。切りのよいところまで読了できなかった場合、この回を補充に充てることもある。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点評価を行なう。報告(50点)と討論参加状況(50点)を勘案する。

[教科書]

『新訂増補国史大系　類聚三代格』（吉川弘文館）（必ず購入すること）

[参考書等]

（参考書）

特になし

日本史学(演習)(2)へ続く↓↓↓

日本史学(演習)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

次回読み進める法令を読んでおく。

（その他（オフィスアワー等））

特になし

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学27

科目ナンバリング	G-LET23 7M292 SJ38										
授業科目名 <英訳>	日本史学(演習) Japanese History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　上島　享				
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	火5	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	日本中世寺社史料の研究										

[授業の概要・目的]

日本中世の寺社史料を精読し、史料読解力を習得するとともに、中世史研究の方法を学び、政治・社会経済・宗教・文化など多様な視角から日本中世社会の特質を考える。

[到達目標]

・中世史料を正確に読解する能力を習得する。
・具体的な史料から議論・論理を構築する能力を獲得する。

[授業計画と内容]

第１回　イントロダクション
　授業の進め方と準備・発表の方法を周知する。また、出席者の担当部分を決定する。

第２～２９回　中世寺社史料の精読
　出席者はそれぞれの担当箇所を翻刻し、内容を精査したうえで、発表し、それにもとづき全員で議論をする。

第３０回　まとめ
　精読の成果をまとめ、そこから導きだされる研究課題について全員で議論する。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点による。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

・事前に史料を読み、自らの解釈をもって、授業に臨むこと。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学28

科目ナンバリング	G-LET23 7M292 SJ38										
授業科目名 <英訳>	日本史学(演習) Japanese History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　谷川　穣				
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	金4	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	日本近代史への接近と展開										

[授業の概要・目的]

明治期の政治・社会に関する文書群を精読し、その内容の正確な把握とそこから析出される論点を深める研究発表を行う。この取り組みを通じて、史料の深い読解を起点として近代日本の形成と展開の諸相を考察・討議すること、単なる言説分析や制度形成のトレースにとどまらず、探索した関連史料とあわせて論点を深く掘り下げていくこと、さらにその基礎となる手稿史料の解読能力を高めていくこと、これらを主たる目的とする。

[到達目標]

史料に基づいた実証的な分析を通じて、近代日本の諸側面を歴史学的に深く考察するとともに、明晰な研究発表および討議ができるようになる。

[授業計画と内容]

第1回はガイダンスと担当の決定、第2回～第30回は参加者による報告。
報告者は単に担当史料の内容やその背景を説明するにとどまらず、論点に関わる先行研究を十分に把握、紹介したうえで、史料の精読にもとづく研究発表を行う。報告者および出席者の十分な予習と積極的な発言、議論により進めてゆく。担当教員は、あくまで補助的な役割を担うにすぎない。

[履修要件]

日本近代史の通史的・専門的知識を有することを前提とする。

[成績評価の方法・観点]

平常点（毎回の研究報告と議論への積極的参加、70%）、および期末レポート（30%）。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する。報告予定者は、自身の報告の一週間前に必ず適切な参考文献（予習用の必読文献）を指定すること。

[授業外学修（予習・復習）等]

受講生が各自独力で考え実践する。大学院生なら当然であろう。

（その他（オフィスアワー等））

討議の場では、史料に基づいた丁寧な問い、日本近代史の先行研究を踏まえた問い、そして近代社会を深く考えるための根源的な問いを積極的に発する者こそ、尊重される。十分な予習をもとに、拙くとも多くのクエスチョンを携えて出席すること。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学29

科目ナンバリング	G-LET23 7M292 SJ38										
授業科目名 <英訳>	日本史学(演習) Japanese History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　三宅　正浩				
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	水5	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	近世の武家文書を読む										

[授業の概要・目的]

近世の武家文書を輪読する。活字史料を用いる場合もあるが、概ねくずし字で書かれた原文書を読む予定である。当時の政治・社会状況をふまえ、近世武家文書の史料的性格を把握しつつ、読解に必要な知識を取捨選択し、前後関係や史料の文章構造を把握する能力が問われることになる。そうした作業を通して、武家文書に限らない近世の諸史料を正確に読み解いて研究に用いる視角や方法論を学ぶことになる。研究の基礎であり根幹であるところの史料読解能力に磨きをかけつつ、近世国家・社会がいかなる特質を有するのかを見極めるための方法論を獲得することを目指す。

[到達目標]

近世史料を正確に読むだけでなく、関連史料を探す能力、問題を見いだして展開していく能力を獲得する。

[授業計画と内容]

第１回目 導入
　扱う史料の概要、参考文献の紹介も含めて報告準備方法について説明し、報告箇所の分担を決める。

第２回目～29回目　史料の精読に基づく個別報告
　各自で担当箇所を解読・分析し、報告を行い、参加者全員で討議する。

第30回目　まとめ
　成果をまとめ、残された課題や疑問点について確認する。

[履修要件]

近世の古文書のくずし字を読解する能力を有すること。

[成績評価の方法・観点]

担当部分の個人報告を中心に総合的に評価する。

[教科書]

史料は、授業時に配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示する他、自身で判断して為すべき事を遂行すること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学30

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38										
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　吉本　道雅				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	史記研究序説										

[授業の概要・目的]

史書には二つの側面がある。第一は、史料としての側面であり、この場合は史書に保存された情報が問題となる。第二は、著作としての側面であり、これは史書そのものが問題となる。『史記』についても、この二つの側面に対応した研究がそれぞれ可能である。本講義では、『史記』の著作として側面に重点を置き、その編次を手掛かりに、『史記』の歴史認識について考えてみたい。

[到達目標]

中国古代史研究の最新の知見、および史料の批判的分析の方法論を習得する。

[授業計画と内容]

以下の項目を逐次論ずる。
第1回　序論
第2～第3回　本紀
第4～第5回　表
第6～第7回　書
第8～第9回　世家
第10～第11回　列伝
第12～第14回　太史公自序
第15回　結論
＊フィードバック方法は授業中に説明する。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

講義の感想を中心とする毎回の小レポート（30点）と期末レポート（70点）に基づき総合的に評価する。

[教科書]

講義資料は担当者が準備する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に別途指示する。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学31

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38										
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　吉本　道雅				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	孔子とその時代										

[授業の概要・目的]

孔子伝復元の試みには、今日に至るまで膨大な蓄積があるが、実のところ『史記』孔子世家の記述を恣意的に取捨選択するものであったに過ぎない。これらの研究は先秦時代の歴史的実態および『史記』の編纂上の特徴に対する理解が決定的に不十分であった。このような批判的視点に立ちつつ、春秋時代後期の歴史を概観し、『史記』孔子世家を解析することで、孔子伝復元の可能性を追求する。

[到達目標]

先秦史研究の最新の知見、および中国古代文献の批判的分析の方法論を習得する。

[授業計画と内容]

以下の項目を逐次論する。
第1回　序論
第2回～第4回　前半生（551-505BC）
第5回　陽虎専権（505-501BC）
第6回～第7回　短期間の政治的成功（501-498BC）
第8回～第10回　諸国遍歴（497-484BC）
第11回～第13回　晩年（484-479BC）
第14回～第15回　結論
＊フィードバック方法は授業中に説明する。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

講義の感想を中心とする毎回の小レポート（30点）と期末レポート（70点）に基づき総合的に評価する。

[教科書]

講義資料は担当者が準備する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に別途指示する。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学32

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38										
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　中砂　明徳				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	月4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	１６世紀におけるカトリックの世界的展開										

[授業の概要・目的]

本授業では、１７世紀初頭にフランスのイエズス会士ピエール・ド・ジャリックが著した『東インドならびにポルトガル人が発見した他国に起きた記憶すべき出来事の歴史』を読む。彼自身は海外に布教に行ったことはないが、ポルトガル王の布教保護権下にあるアジア、アフリカ、そしてブラジルにおける同胞の活動を編集したのが本書である。本書は各地の布教報告をまとめた二次的な編纂物ではあるが、ポルトガル人とイエズス会の活動を俯瞰的に見るには恰好の材料である（ただし、もっとも布教に成功した日本はザビエルとの関連で言及されるだけである）。本書を概観することで、16世紀におけるキリスト教の世界布教をトータルに把握することを試みる。

[到達目標]

近世におけるカトリックの世界的展開について知ることができる。
近世世界の「半分」の概観が得られる。

[授業計画と内容]

１、導入
２、ポルトガル人のインド到達、ザビエルの到来
３、ザビエル、さらに東へ向かう
４、インド西岸
５、インド東岸、東南アジア
６、アフリカ
７、ブラジル
８、ホルムズ
９、ムガル
１０、中国　　以上が１６世紀、以下は１７世紀初頭
１１、インド
１２、アフリカ、ブラジル
１３、インド
１４、東南アジア、中国
１５、フィードバック

[履修要件]

特になし

東洋史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

東洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートによる評価。レポートはこの授業で紹介する史料ないし研究にもとづいて作成してもらう。

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で指示した参考文献を読むことで、授業内容を確認すると同時に疑問点を見つけ出し、次回の受講に備えること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38										
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　中砂　明徳				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	１７世紀オランダにおける世界認識										

[授業の概要・目的]

本授業では、１７世紀に世界に打って出たオランダ人が、異世界をどのように認識し、表象したかを、地図や地誌に即して読み解く。彼らがイエズス会などの既存の知識と自ら獲得した知識をいかに編集し、それを主にオランダ語で公刊して公衆に届けたのかを見る。この世界認識はタイムラグをおいて、江戸日本にももたらされたものである。

[到達目標]

1, 近世の西欧人の世界認識を知ることができる。
2, 出版と知の関係について考察を深めることができる。

[授業計画と内容]

1、 導入
2、エルゼビア社のレス・プブリカ・シリーズ
3, ブラウの地図
4, ヨハネス・デ・ラート『新世界』
5, ラートとグロティウスのアメリカ人起源論争
6, オルフェルト・ダッペルの『アフリカ』
7, ダッペル『シナ』
8, ダッペル『アジア』
9, ダッペル『シリア』
10, ダッペル『メソポタミア』
11, コルネリウス・ハザルト『世界教会史』
12, アルヌルドゥス・モンタヌス『日本』
13, モンタヌス『アメリカ』
14, 出版業者ヤコブ・ファン・マース
15, フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

レポートで評価する。

東洋史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で紹介する参考文献を読むことによって、問題点を確認するとともに次週の授業に備える。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学34

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38										
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授　小野寺　史郎				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	第一次世界大戦と東アジア										

[授業の概要・目的]

今から百年あまり前に起きた第一次世界大戦は、それまでの西洋世界の在り方を一変させたが、同時に日本を含む東アジアにも大きな変化をもたらした。近年の研究成果を踏まえ、第一次世界大戦が東アジアの国際関係および政治・社会に及ぼした影響について解説する。

[到達目標]

東アジア、とくに中国の歴史と現状について、資料と先行研究にもとづいて考察する視座と方法を獲得し、批判的に理解する。

[授業計画と内容]

第１回　ガイダンス
第２回　第一次世界大戦の概要
第３回　開戦時の東アジア
第４回　第一次世界大戦の勃発と東アジアの反応
第５回　二十一か条要求とその影響
第６回　第一次世界大戦の東アジア社会への影響
第７回　中華民国の「以工代兵」政策
第８回　中華民国の参戦問題と国内対立
第９回　シベリア戦争と東アジア
第10回　第一次世界大戦の終結と東アジアの反応
第11回　パリ講和会議と東アジアの反応（１）
第12回　パリ講和会議と東アジアの反応（２）
第13回　戦間期の国際関係と東アジア
第14回　まとめ
第15回　フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点40%とレポート60%による。

東洋史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

あらかじめ資料を配付する場合はこれを読んだ上で出席すること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38										
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	京都女子大学文学研究科　准教授 箱田　恵子				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	木5	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	近代中国と仲裁裁判制度―米国の影響を中心に										

[授業の概要・目的]

この講義では、清末中国における近代国際関係の受容に関し、特に仲裁裁判制度の受容について解説する。いくつかの外交交渉を取り上げ、清朝の国際法や仲裁裁判制度に対する認識・態度を講義する。その際、仲裁裁判の推進に積極的であり、東アジアでの独自の使命を自任していた米国が果たした役割や影響について検討し、近代の米中関係を新たな視点から論じる。米国の影響のもと清末中国で形成された独特な仲裁裁判観は、近年の中国の国際秩序に対する姿勢の背景を理解するてがかりとなろう。また、日露戦争後の満洲における日本の勢力拡大に対し清朝は仲裁裁判を利用して抵抗を試みるが、それを報じて国際世論を喚起したタイムズ通信員モリソンの言動について、当時の米国の新聞・雑誌にみえる中国論との関係を検討する。それにより、20世紀初めの中国の変化とそれが米国においていかに評価され、東アジアの国際関係にいかなる影響を与えたのかを講義する。

[到達目標]

受講生はまず、清末中国をめぐる国際関係を理解する。さらに近代において世界的に注目されていた仲裁裁判制度が、清朝の外交や東アジアの国際関係にいかなる影響を与えたのか、米国の果たした役割や影響を中心に学び、特殊な関係と呼ばれる近代の米中関係が、中国における近代国際関係の受容や近代外交の形成に与えた影響を理解する。それと同時に、中国における変化を米国のメディアがいかに評価して報じたのか、またその報道が中国をめぐる国際関係にいかなる影響を与えたのかについても理解する。以上により、近代中国と諸外国との関係をより広い視野から考察することができる。

[授業計画と内容]

基本的に以下の予定にそって講義を進めるが、講義の進み具合や受講生の理解などに応じて、講義内容の順序や同じテーマの講義回数を調整することがある。

1.近代における仲裁裁判制度の発展
2.東アジアの伝統的国際秩序
3.清朝の対外体制の変化
4.中国における仲裁裁判制度の紹介と米国の果たした役割
5.華工虐待問題をめぐる対スペイン交渉と米国の自由移民原則の影響
6.台湾出兵と清朝の「公評」提起
7.琉球処分と仲裁裁判：グラント元大統領の調停と日清の対応
8.ベトナムをめぐる清仏紛争と仲裁裁判：駐清米国公使ヤングの役割
9.清末中国の新聞雑誌にみる仲裁裁判観
10.20世紀初めにおける中国をめぐる国際関係の変化：米国の門戸開放宣言
11.日露戦争後の中国の変化
12.第二辰丸事件と清朝による仲裁裁判提起：満洲問題への波及
13.モリソンの活動とモリソンパンフレット：米国の雑誌記事の分析を中心に
14.モリソンの活動と中国への影響

東洋史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

東洋史学(特殊講義)(2)

15.フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業への参加状況（20点）、学期末のレポート（80点）で成績を評価する。
レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。

[教科書]

使用しない
毎回資料を配付する。

[参考書等]

（参考書）
岡本隆司・箱田恵子編 『ハンドブック近代中国外交史』（ミネルヴァ書房，2019年）
このほか、授業中に適宜紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

参考書の関連項目を事前に読むなどして、授業で扱う外交交渉に関する基礎知識をもって授業に臨むようにしてください。

（その他（オフィスアワー等））

現在の中国や日本にも関わる問題なので、参考文献を読むだけなく、ニュース報道などにも注意してみてください。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38										
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	京都産業大学国際関係学部 准教授 須藤　瑞代				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	ジェンダーからみる近代中国史										

[授業の概要・目的]

本講義では、19世紀末から20世紀前半にかけての中国におけるジェンダー秩序の変容について分析する。具体的には以下の三つに重点をおいて講義を行う。
（１）思想：国家形成と密接に関連して論じられた「女権」や、前近代から続く節婦烈女の褒揚に関する議論を分析し、ジェンダー秩序の変容がどのように展開したのかを考察する。
（２）メディア：『婦女雑誌』『上海婦女』など複数の女性向け雑誌をとりあげ、各雑誌の特徴をふまえつつ、どのような議論が展開され、中国におけるジェンダー秩序にいかなる影響を与えたのかを分析する。
（３）日中女性交流：日本人女性記者竹中繁は1926～27年の半年間にわたり中国の各都市を旅行し、女性たちと交流した。その中には、宋慶齢など著名な女性から、女性教員や女性記者などほぼ無名の人々も含まれる。竹中繁の視線を通して当時の中国社会を考察し、日中関係史の中で女性間のつながりがどのような意味を持つものであったのか、双方の社会のジェンダー秩序の変容とどのようにかかわっていったのかを考察する。

[到達目標]

近代における中国社会の変容について、ジェンダーに着目して分析できるようになる。
近代中国女性史に関する基本的知識を身につける。

[授業計画と内容]

第１回　イントロダクション
第２回　「女権」をめぐる議論 ①
第３回　「女権」をめぐる議論 ②
第４回　女子学生の登場
第５回　「節婦烈女」の褒揚
第６回　『婦女雑誌』にみる日本女性像
第７回　日本人女性記者竹中繁の半生
第８回　竹中繁のみた中国（1926～1927年）①
第９回　竹中繁のみた中国（1926～1927年）②
第10回　竹中繁のみた中国（1926～1927年）③
第11回　竹中繁による日中双方向レポート
第12回　竹中繁の中国再訪・市川房枝とともに（1940年）
第13回　『女声』にみる日本女性の不在
第14回　『上海婦女』にみる「つながる」女性たち
第15回　フィードバック

東洋史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

東洋史学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

講義への参加度：評価60%（毎回の授業でのコメントシート提出も含む）
レポート：評価40%（各自の問題関心に基づいてテーマを設定し、レポートにまとめる）

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
須藤瑞代 『中国「女権」概念の変容――清末民初の人権とジェンダー』（研文出版、2007年）
村田雄二郎編 『「婦女雑誌」からみる近代中国女性』（研文出版、2005年）
山﨑真紀子・石川照子・須藤瑞代・藤井敦子・姚毅 『女性記者・竹中繁のつないだ近代中国と日本――一九二六～二七年の中国旅行日記を中心に』（研文出版、2018年）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業時に適宜参考資料等を指示するので、必ず目を通して理解を深めること。

（その他（オフィスアワー等））

担当教員への連絡は電子メール（mizuyos@cc.kyoto-su.ac.jp)で行ってください。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学37

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38										
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　辻　正博				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	官制に見る唐宋変革										

[授業の概要・目的]

古代日本にも多様な形で影響を与えた唐代の官制（『大唐六典』に示される官制。以下「『六典』官制」とよぶ）は8～10世紀にかけて大きく変貌する。この講義では、中国史上の一大変革期とされるこの時期の官制について、その変化のありさまを明らかにしたいと思う。当時の社会・経済の激変に対して官制が（後追いではあるが）いかに対応していったのかを認識することが目標である。

[到達目標]

唐から宋にかけて官制がいかなる変貌を遂げたのかを認識することにより、唐宋変革の実相を、その背景となった歴史的背景もふくめて総合的に理解する。

[授業計画と内容]

以下の各項目について、おおむね1～2週をめどに講義を進める。
なお、初回授業（ガイダンス）時に、学期の授業計画および講義で必要とされる諸事項について説明を行うので、必ず出席すること。

1．『六典』官制前史
（1）魏晋の官制―中央官制と地方官制
（2）開皇官制の成立―隋の文帝による官制整備
2．『六典』官制の成立
（1）唐初の官制―隋制との関係
（2）『六典』官制と『周礼』―官制史における則天武后時代の意義
3．使職と『六典』官制
（1）使職設置と地方統治の深化―財務使職と節度使・観察使
（2）使職と『六典』官制―重複とすみ分け
4．唐末五代の官制―『六典』官制の形骸化
5．宋初の官制―元豊官制への道
6．まとめとフィードバック

[履修要件]

中国史、特に魏晋～五代・宋までのおおまかな流れについて理解しておくこと（受講前に、概説書を一読しておくこと）。

東洋史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

東洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポートの成績による。（100%）
　レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。
　よく工夫のなされているレポート・独自の観点を提示したレポートに対して、高い評価を与えます。「剽窃」については、「試験における不正行為」と見なし、厳正に対処します。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

　（参考書）
講義資料を適宜配布する。事前に以下の文献を熟読しておくことで、講義内容の理解が進むであろう。
辻　正博：隋唐国制の特質（荒川正晴ほか編『岩波講座 世界歴史』第7巻、岩波書店、2022年所収）

[授業外学修（予習・復習）等]

中国史に関する概説書を事前に一読しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

事前に連絡して日時を調整すること。（学生番号、氏名を明記してメールしてください。）

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学38

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38										
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　辻　正博				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	唐史研究史料論										

[授業の概要・目的]

「唐史研究史料論」
　今期の講義では、唐史研究で用いる史料について、使用するテキスト（版本）に焦点を当てて論じる。いわゆる「通行本」がいかなる経緯を経てその地位を得たのか、通行本のテキストに問題はないのか、などの点について検討を加えてゆきたい。

[到達目標]

　唐史研究史料に関する基礎的な知識を身につけるとともに、史料の伝存・整理事情についての理解を深める。

[授業計画と内容]

　以下のテーマについて、おおよそ1～2週を目処に講義を進める。
0. ガイダンス……学期の授業計画および講義で必要とされる諸事項について説明する
1. 正史―『旧唐書』と『新唐書』
2. 『資治通鑑』―『通鑑考異』と胡三省注
3. 『通典』―政書（1）
4. 『文献通考』―政書（2）
5. 『唐会要』―政書（3）
6. 『大唐六典』
7. 『唐大詔令集』―唐代の詔勅
8. 『冊府元亀』―類書について
9. 石刻史料
10. 敦煌・トルファン出土文献
11. まとめとフィードバック

[履修要件]

中国史、特に秦漢～隋唐史に関する基本的な事項（概説レベル）を理解していること。

[成績評価の方法・観点]

期末レポートの成績による。（100%）
　レポートは到達目標の達成度に基づき評価する。
　よく工夫のなされているレポート・独自の観点を提示したレポートに対して、高い評価を与えます。「剽窃」については、「試験における不正行為」と見なし、厳正に対処します。

東洋史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する
必要に応じてプリントを配布する。

[授業外学修（予習・復習）等]

講義中に紹介した参考文献を自主的に閲読し、講義内容に対する理解を各自深めること。

（その他（オフィスアワー等））

事前に連絡して日時を調整すること。（学生番号、氏名を明記してメールしてください。）

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学39

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38										
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 教授　　矢木　毅				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火1	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	朝鮮末期政治外交史の研究（19世紀）										

[授業の概要・目的]

朝鮮末期（19世紀）における政治史・外交史を概観し、近世朝鮮社会の特質について考察する。漢文史料の読解能力を高めるとともに、東アジア世界との関連において朝鮮史への理解を深めることを目的とする。

[到達目標]

基本史料（漢文）を読解して平易な現代日本文で説明する能力を養う。また、その史料の背景となる政治や社会の特質を理解し、現代社会との対比において説明する能力を養う。

[授業計画と内容]

第１講　純祖朝の政局
第２講　辛酉の教難
第３講　殉教者の群像
第４講　僻派の失脚
第５講　洪景来の乱
第６講　洪景来の乱・続き
第７講　在地社会の構図
第８講　イギリス船の来航
第９講　ソウルの食糧暴動
第１０講　王世子の代理聴政
第１１講　己亥の教難
第１２講　己亥の教難・続き
第１３講　アヘン戦争の風聞
第１４講　フランス船の来航
第１５講　まとめ（史料講読）

[履修要件]

中国古典文（漢文）の基礎的な読解能力（高等学校履修程度）を身につけていることが望ましい。

東洋史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

東洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学期中に２回、レポート課題（各50点）を出し、合計100点で成績評価を行う。なお、課題の掲示、提出は　PandA　を経由して行う。

[教科書]

使用しない
講読史料、レジュメ等のプリントは事前に　PandA で配信し、授業当日にも同じものを配布する。

[参考書等]

（参考書）
李成市ほか 『朝鮮史1』（山川出版社）ISBN:9784634462137
姜在彦 『朝鮮半島史』（角川ソフィア文庫）ISBN:9784044006419
矢木毅 『韓国・朝鮮史の系譜』（塙書房）ISBN:9784827331110
矢木毅 『韓国の世界遺産　宗廟』（臨川書店）ISBN:9784653043713

（関連ＵＲＬ）

http://db.history.go.kr/(韓国史データベース（韓国・国史編纂委員会）)

[授業外学修（予習・復習）等]

配布プリントを事前に予習しておくこと。特に漢文史料を訓読できるようにしておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

講義を基本とするが、講読・演習の要素も加味する。受講生諸君の積極的な取り組みを期待する。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学40

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38										
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 教授　　矢木　毅				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火1	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	朝鮮末期政治外交史の研究（19世紀）										

[授業の概要・目的]

朝鮮末期（19世紀）における政治史・外交史を概観し、近世朝鮮社会の特質について考察する。漢文史料の読解能力を高めるとともに、東アジア世界との関連において朝鮮史への理解を深めることを目的とする。

[到達目標]

基本史料（漢文）を読解して平易な現代日本文で説明する能力を養う。また、その史料の背景となる政治や社会の特質を理解し、現代社会との対比において説明する能力を養う。

[授業計画と内容]

第１講　辛亥禮論
第２講　党争の再燃
第３講　三南の民乱
第４講　三政の紊亂
第５講　大院君の執政
第６講　丙寅の教難
第７講　丙寅洋擾
第８講　辛未洋擾
第９講　朝鮮の開國
第１０講　壬午軍乱
第１１講　日清戦争
第１２講　大韓帝国
第１３講　日露戦争
第１４講　韓国併合
第１５講　まとめ（史料講読）

[履修要件]

中国古典文（漢文）の基礎的な読解能力（高等学校履修程度）を身につけていることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

学期中に２回、レポート課題（各50点）を出し、合計100点で成績評価を行う。なお、課題の掲示、提出は　PandA　を経由して行う。

東洋史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
講読史料、レジュメ等のプリントは、事前に　PandA で配信し、授業当日にも同じものを配布する。

[参考書等]

（参考書）
姜在彦 『朝鮮半島史』（角川ソフィア文庫）ISBN:9784044006419
森万佑子 『韓国併合：大韓帝国の成立から崩壊まで』（中公新書）ISBN:9784121027122
李成市ほか 『朝鮮史1』（山川出版社）ISBN:9784634462137

（関連ＵＲＬ）

http://db.history.go.kr/(韓国史データベース（韓国・国史編纂委員会）)

[授業外学修（予習・復習）等]

配布プリントを事前に予習しておくこと。特に漢文史料を訓読できるようにしておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

講義を基本とするが、講読・演習の要素も加味する。受講生諸君の積極的な取り組みを期待する。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学41

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38										
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	追手門学院大学 基盤教育機構 教授	承　志			
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	マンジュ語『内国史院档』の研究										

[授業の概要・目的]

マンジュ語『内国史院档』は、ダイチン=グルンの成立の歴史を研究する上で最も重要な原典史料であり、ジュシェン（女真）人のマンチュリア支配から中国本土支配への移行期の歴史を正確に把握するためにも必読の基本史料である。この授業では、マンジュ語の原典に基づいて文献解説と講読を行う。初回の授業では世界におけるマンジュ語史料の保存状況と研究の実態、必要な辞典類・目録・索引・史料集および主なマンジュ語史料のデジタルデータなどを紹介する。最終回ではまとめを行う。3-14回の授業では史料の読解、参加者との質疑・討論を行う。

[到達目標]

・マンジュ語史料の研究方法を習得できる。
・マンジュ語の基礎的な文法を学ぶことができる。
・史料を読み解くことができるようになること。

[授業計画と内容]

第1回　イントロダクション
第2回　『内国史院档』の研究史とその内容
第3回～14回　『内国史院档』の読解、参加者との質疑・討論
第15回　まとめ

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業での発表など）60点、期末レポート40点

[教科書]

使用しない
読解史料は、授業の際にプリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業前の予習を必須とする。

（その他（オフィスアワー等））

質問などがある場合には、Email（chengzhi@otemon.ac.jp)に連絡してください。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学42

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38										
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	追手門学院大学 基盤教育機構 教授	承　志			
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	マンジュ語『内国史院档』の研究										

[授業の概要・目的]

マンジュ語『内国史院档』は、ダイチン=グルンの成立の歴史を研究する上で最も重要な原典史料であり、ジュシェン（女真）人のマンチュリア支配から中国本土支配への移行期の歴史を正確に把握するためにも必読の基本史料である。この授業では、マンジュ語の原典に基づいて文献解説と購読を行う。初回の授業では世界におけるマンジュ語史料の保存状況と研究の実態、必要な辞典類・目録・索引・史料集および主なマンジュ語史料のデジタルデータなどを紹介する。最終回ではまとめを行う。前期の3-14回の授業ではマンジュ語入門と基礎文法、史料の読解、参加者との質疑・討論を行う。

[到達目標]

・マンジュ語史料の研究方法を習得できる。
・マンジュ語の基礎的な文法を学ぶことができる。
・史料を読み解くことができるようになること。

[授業計画と内容]

第1回　イントロダクション
第2回　『内国史院档』の研究史とその内容
第3回～14回　『内国史院档』の読解、参加者との質疑・討論
第15回　まとめ

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業での発表など）60点、期末レポート40点

[教科書]

使用しない
読解史料は、授業の際にプリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業前の予習を必須とする。

（その他（オフィスアワー等））

質問などがある場合には、Email（chengzhi@otemon.ac.jp)に連絡してください。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学43

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38										
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 太田 出				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	中国近世・近代の謡言とパニック										

[授業の概要・目的]

ここ数年、トランプ前大統領やコロナワクチン、直近ではウクライナ戦争をめぐって、ネット上などでフェイクニュース、すなわち虚構とも事実ともつかない言説が流布していることは周知のとおりである。本講義では、歴史学の側からこうしたフェイクニュースなど流言を読み解こうと試みる。ある人にとっては、それは紛れもない事実であるが、また別の人にとっては全く信用ならない明らかなでたらめであり、何が事実で、何が虚構なのかの選別を極めて難しくしている。そうした言説が人びとにいかに影響を与えたのかを歴史学的に検証する。

[到達目標]

中国近世・近代の流言とパニックをめぐる人々の恐怖心や信仰心、風俗・習慣などについて基本的な知識を身につけるとともに、古典漢文や中国語史料の読み方・使い方を学び、自ら史料分析を行う能力を養う。

[授業計画と内容]

第１回：ガイダンス
第２回：現代のフェイクニュース（一）：トランプ前大統領とQアノン
第３回：現代のフェイクニュース（二）：コロナワクチンをめぐる言説
第４回：光緒2年（1876）における謡言とパニックの発生
第５回：江南デルタの謡言・パニックをめぐる恐怖と冷笑
第６回：「国を挙げて狂うがごとし」――農民たちのパニック
第７回：他の地域への謡言の伝播とそのメカニズム
第８回：明代江南デルタの謡言・パニックと白蓮教
第９回：満州人王朝・清朝と割辮
第10回：他の地域にも伝播した謡言
第11回：紙人の謡言から見た王朝国家と社会
第12回：中国社会の底流にある恐怖と慣習
第13回：紙人を利用した王朝国家の支配の正当化
第14回：中華民国期の紙人の謡言・パニック
第15回：まとめ

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点40%、授業中の小テストおよび期末テスト60%で総合的に判定する。

東洋史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中にレジュメを適宜配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に参考すべき論文や図書を紹介するから、それらを予習として読んだうえで授業に参加するか、あるいは復習として授業後に読んで欲しい。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38										
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　太田　出				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	遙かなる中国山西省――宣撫官笠実の長い日中戦争										

[授業の概要・目的]

日本はまもなく戦後80周年を迎えようとしており、戦前・戦中・戦後を歩いてきた人びとの経験も次第に「歴史」となりつつあるとともに、過去のなかに忘却・風化されようとしている。中国大陸で勃発した日中戦争もそうした一側面を持っており、白や黒では表現できないさまざまな状況が現実には発生していたが、それを語れる人は急速に減少している。本講義では、元宣撫官であり中国山西省で日中戦争を経験した笠実に焦点をあて、その日中戦争の長い道のりを振り返りながら、現代の我々が日中戦争から何を学ぶべきなのかを問い直す。

[到達目標]

日中戦争に関する歴史文献とフィールドワーク、歴史学・社会学といった各学問のディシプリンを乗り越えた研究手法を養う。

[授業計画と内容]

第１回：ガイダンス
第２回：日中戦争に関する基礎知識（一）――占領地行政と宣撫官
第３回：日中戦争に関する基礎知識（二）――いつ日中戦争は終了したのか
第４回：帰ってきた宣撫官笠実
第5回：宣撫廟（国際霊廟）（一）――宣撫廟訪問
第6回：宣撫廟（国際霊廟）（二）――宣撫廟・宣撫官をめぐるフィールドワーク
第7回：宣撫官笠実（一）――1945年まで
第8回：宣撫官笠実（二）――1945年以降
第9回：宣撫総班長八木沼丈夫
第10回：漢人宣撫官陳一徳と宣撫工作（一）――外国人宣撫官
第11回：漢人宣撫官陳一徳と宣撫工作（二）――占領地行政と愛路運動
第12回：山西残留と城野宏（一）――城野の履歴
第13回：山西残留と城野宏（二）――残留の理念「日本人の立場」
第14回：それぞれの戦後日本
第15回：おわりに

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業中に行う小テスト50%（持ち込み不可）、平常点50%で総合的に評価を行なう。詳細は初回授業にて説明する。

東洋史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

授業中に指示する
詳細は初回の授業において説明するので、必ず出席すること。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に参考すべき論文や図書を紹介するから、それらを予習として読んだうえで授業に参加するか、あるいは復習として授業後に読んで欲しい。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学45

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38										
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 教授　　宮宅　潔				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	月2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	中国古代制度史と出土文字史料										

[授業の概要・目的]

近年中国古代史の研究に大きな影響を与えている新出史料、すなわち竹簡・木簡史料について概説する。出土地域ごとに発見史をたどりながら、主要な竹簡・木簡群を紹介し、それが歴史研究、特に制度史研究に与えたインパクトについて講義する。

[到達目標]

新出史料に関する知識を身につけ、そこからうかがえる古代社会の有様について理解を深め、古代史研究の基礎を確立する。

[授業計画と内容]

１．ガイダンス
２．中国簡牘史料の発見史
３．楚簡の概観
４．秦簡の概観
５．墓葬出土漢簡の概観
６．辺境出土漢簡の概観

初回のガイダンスの後、各単元を２～３回に分けて講義する。

[履修要件]

中国古代史に関する基本的知識を身につけていることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

期末のレポート（５０点）に平常点（授業中の質問・発言、小テスト　50点）を加味して評価する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

特に予習は必要としないが、授業内容の復習とともに、関連する諸分野の研究にも関心を広げてもらいたい。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学46

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38										
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 教授　　宮宅　潔				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	法廷から眺めた中国古代										

[授業の概要・目的]

近年公表されている中国古代の出土文字史料のうち、裁判に関連する文献（睡虎地秦簡「封診式」、岳麓書院所蔵簡や張家山漢簡の裁判記録）を活用し、統一秦の頃から漢代初期に至るまでの、政治や社会の状況について講義する。まず、裁判が行われる場やその手続きについて整理し、制度の特徴や限界を明らかにする。そのうえで秦～漢初の政治状況、たとえば統一に伴う混乱や、皇帝と諸侯王との関係などについて、いくつかトピックを取りあげて講義する。さらに家族関係や地域社会の様子など、当時の社会についても紹介する。こうした考察を通じて、中国古代の専制国家の姿について、理解を深めることを目指す。

[到達目標]

中国古代史の諸制度について、基本的な知識を身につけたうえで、そこからうかがえる古代社会の有様について理解を深め、古代史研究の基礎を確立する。

[授業計画と内容]

１．ガイダンス
　（１）授業の進め方
　（２）史料について
２．法廷の風景
　（１）裁きの場
　（２）裁きの進行
　（３）冤罪の苦しみ
３．秦～漢初の諸相
　（１）秦と楚
　（２）占領民の反乱
　（３）逃亡者たち
４．家族と社会
　（１）親子関係
　（２）夫婦関係
　（３）里の風景

ガイダンスの後、各単元を１～２回に分けて講義する。

[履修要件]

中国古代史に関する基本的知識を身につけていることが望ましい。

東洋史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

東洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

期末レポート（５０点）に平常点（５０点　授業への参加態度、特に授業内での質問・発言）を加味して評価する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

特に予習は必要としないが、授業内容の復習とともに、関連する諸分野の研究にも関心を広げてもらいたい。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38										
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 准教授　村上　衛				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	月4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	モノからみる中国近代史										

[授業の概要・目的]

近年における中国の台頭は中国の経済成長が原因であり、中国経済の動向は中国の今後を決めるだろう。中国近代史も戦争や革命などに目を奪われがちであるが、実は中国経済の動向に大きく左右されてきた。本講義では、中国近代経済史上、重要な役割を果たした商品である茶・アヘン・米・羊毛・大豆の生産・流通およびそれが中国近代史に与えた影響について概説し、新たな視点から中国近代史を理解することを目指す。

[到達目標]

中国の「伝統的」な経済の仕組みをふまえつつ、中国近代において重要な商品である茶・アヘン・米・羊毛・大豆がどのような地域で誰によって生産され、どのような人々の手を経て流通していたのかを把握する。そのうえで、これらの商品の貿易が中国経済のみならず、中国の政治外交・社会に与えた影響について理解する。

[授業計画と内容]

1.ガイダンス
2.中国経済の仕組み
3.中国茶貿易の発展
4.アジア間競争と中国茶の行方
5.アヘン貿易の発展
6.外国アヘンと中国アヘン
7.禁煙運動とその後
8.清代中国の米流通
9.動乱と外国米
10.羊毛貿易の勃興
11.羊毛貿易の展開
12.清代大豆貿易の展開
13.満洲大豆貿易の発展と東北地域の変動
14.まとめ
15.フィードバック

[履修要件]

前期・後期ともに履修することが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

平常点評価：毎回行われる小テストによって評価する。

東洋史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

東洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38										
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 准教授　村上　衛				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	仲介者のつくる歴史　近代中国										

[授業の概要・目的]

グローバル化が進展したことによって、ビジネスの世界で仲介者の果たす役割は年々大きくなってきていた。例えば、企業が海外のある地域の企業と提携する場合、現地の言語・習慣に通じ、信頼のおける有能な仲介者を確保しなければ、その事業は失敗に終わってしまう可能性が高い。新型コロナウィルスによって人間の移動が著しく制限されたことによって、様々なビジネスに支障が生じたため、仲介者の果たしてきた役割はあらためて注目されている。本講義はこうした仲介者の意義について、近代中国（19世紀中葉～20世紀中葉）の事例を中心に、中国経済の変容をふまえつつ考察する。同時に世界の他地域の仲介者と比較してみたい。

[到達目標]

開港場とそれ以外の地域（内地）を媒介するという近代中国における仲介者の役割を把握したうえで、前近代の中国や他地域の仲介者と比較してその特徴を理解する。

[授業計画と内容]

1.ガイダンス
2.明代商業の発展と牙行
3.東アジア海域交流と仲介者
4.明代後期～清代中期の海上貿易の展開と仲介者
5.外国人商人と買弁（1）
6.外国人商人と買弁（2）
7.苦力貿易の盛衰と客頭（1）
8.苦力貿易の盛衰と客頭（2）
9.開港場貿易の発展と行桟（1）
10.開港場貿易の発展と行桟（2）
11.工業化と日系企業のあり方：日系商社、在華紡
12.前近代東南アジア海域の仲介者
13.前近代地中海世界の仲介者
14.まとめ
15.フィードバック

[履修要件]

前期・後期ともに履修することが望ましい。

東洋史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

東洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

平常点評価：毎回行われる小テストによって評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

参考文献などを適宜読んで復習を行う。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38										
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 教授　　古松　崇志				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水1	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	中国石刻史料の研究										

[授業の概要・目的]

中国史研究において、石刻史料はきわめて重要な史料群である。本講義では、中国本土およびその周辺の石刻史料を取り上げ、歴史研究に利用するための手法を、実際に受講生が史料（京都大学人文科学研究所所蔵の拓本実物を含む）を読み解きながら学んでいく。

[到達目標]

漢語で書かれた中国石刻史料の史料としての特性を理解し、研究手法を学びとって、みずからの研究に活用できるようにする。

[授業計画と内容]

１．ガイダンス（１回）
２．石刻学・石刻研究史の概観（２～３回）
３．石刻史料へのアクセス（伝統的な石刻文献を含めた典籍文献、新出史料集、ウェブ上のデータベースなど）概観（２～３回）
４．石刻史料釈読（７～９回）
５．まとめ（１回）

※釈読する石刻史料は、担当者の専門分野の契丹（遼）・宋・金・元（モンゴル帝国）時代のものを中心に取り上げる予定だが、適宜受講生の関心に応じた史料を読むことも検討している。また、担当者が勤務する京都大学人文科学研究所所蔵の拓本を実見する機会を設けるほか、できるだけ拓影（拓本の写真）のあるものを用いるが、典籍文献（伝統的な石刻文献や地方志、文集など）のみに載せられているものも適宜取り上げる。
※基本的に以上の予定にしたがって講義を進めるが、回数など変更の可能性があることに留意されたい。

[履修要件]

前期・後期つづけて履修することが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業での発表など）50点、期末レポート50点

[教科書]

釈読史料はプリントなどを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

東洋史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

東洋史学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

釈読する史料を指定したあとは、受講者各自に読んでもらうため、授業前の予習を必須とする。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学50

科目ナンバリング	G-LET24 66731 LJ38										
授業科目名 <英訳>	東洋史学(特殊講義) Oriental History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 教授　　古松　崇志				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水1	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	中国石刻史料の研究										

[授業の概要・目的]

中国史研究において、石刻史料はきわめて重要な史料群である。本講義では、中国本土およびその周辺の石刻史料を取り上げ、歴史研究に利用するための手法を、実際に受講生が史料（京都大学人文科学研究所所蔵の拓本実物を含む）を読み解きながら学んでいく。

[到達目標]

漢語で書かれた中国石刻史料の史料としての特性を理解し、研究手法を学びとって、みずからの研究に活用できるようにする。

[授業計画と内容]

１．ガイダンス（１回）
２．石刻史料釈読（１３回）
３．まとめ（１回）

※釈読する石刻史料は、担当者の専門分野の契丹（遼）・宋・金・元（モンゴル帝国）時代のものを中心に取り上げる予定だが、適宜受講生の関心に応じた史料を読むことも検討している。また、担当者が勤務する京都大学人文科学研究所所蔵の拓本を実見する機会を設けるほか、できるだけ拓影（拓本の写真）のあるものを用いるが、典籍文献（伝統的な石刻文献や地方志、文集など）のみに載せられているものも適宜取り上げる。

[履修要件]

前期・後期つづけて履修することが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業での発表など）50点、期末レポート50点

[教科書]

釈読史料はプリントなどを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

釈読する史料は受講者各自に読んでもらうため、授業前の予習を必須とする。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学51

科目ナンバリング	G-LET24 76741 SJ38										
授業科目名 <英訳>	東洋史学（演習Ｉ） Oriental History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　吉本　道雅				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	金3	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	『春秋左伝正義』										

[授業の概要・目的]

十三経注疏の一つである『春秋左伝正義』を輪読する。

[到達目標]

漢文資料を文法的に正確に読解する能力を身につけるとともに、経学（中国古典注釈学）の基礎的な方法論・春秋時代史の研究資料としての活用法を理解する。

[授業計画と内容]

昨年度の続き。魯の年代記の形式を採る『春秋』と、その注釈書の形式を採る『左伝』は春秋時代を研究するための基本的な資料である。『春秋』『左伝』の成立過程については今なお活発な議論が進行中である。『左伝』には、西晋・杜預の『春秋経伝集解』、唐・孔穎達の『正義』が附されている。本演習では『正義』を精読することで、漢文を文法的に正確に読解する能力を養うとともに、『正義』の引用する唐代以前の諸文献を調査し、また『正義』の論理構成に習熟することによって、経学の基本的な方法論を理解する。また、先秦期の文献・出土資料を全面的に参照することによって、『春秋』『左伝』の成立過程についても考察し、先秦史研究の資料学的素養を身につける。
第１回～第15回　『春秋左伝正義』の輪読
＊フィードバック方法は授業中に説明する。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点。

[教科書]

教材は担当教員が準備する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

発表の有無に関わらず、２葉程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献（出典）の調査が不可欠である。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学52

科目ナンバリング	G-LET24 76741 SJ38										
授業科目名 <英訳>	東洋史学（演習Ｉ） Oriental History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　吉本　道雅				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	金3	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	『春秋左伝正義』										

[授業の概要・目的]

十三経注疏の一つである『春秋左伝正義』を輪読する。

[到達目標]

漢文資料を文法的に正確に読解する能力を身につけるとともに、経学（中国古典注釈学）の基礎的な方法論・春秋時代史の研究資料としての活用法を理解する。

[授業計画と内容]

前期の続き。魯の年代記の形式を採る『春秋』と、その注釈書の形式を採る『左伝』は春秋時代を研究するための基本的な資料である。『春秋』『左伝』の成立過程については今なお活発な議論が進行中である。『左伝』には、西晋・杜預の『春秋経伝集解』、唐・孔穎達の『正義』が附されている。本演習では『正義』を精読することで、漢文を文法的に正確に読解する能力を養うとともに、『正義』の引用する唐代以前の諸文献を調査し、また『正義』の論理構成に習熟することによって、経学の基本的な方法論を理解する。また、先秦期の文献・出土資料を全面的に参照することによって、『春秋』『左伝』の成立過程についても考察し、先秦史研究の資料学的素養を身につける。
第１回～第15回　『春秋左伝正義』の輪読
＊フィードバック方法は授業中に説明する。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点。

[教科書]

教材は担当教員が準備する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

発表の有無に関わらず、２葉程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献（出典）の調査が不可欠である。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学53

科目ナンバリング	G-LET24 76743 SJ38										
授業科目名 <英訳>	東洋史学(演習II) Oriental History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　中砂　明徳				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火5	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	崇禎帝と大臣の召対を読む										

[授業の概要・目的]

明朝最後の皇帝である崇禎帝の初年は、それまでの苛烈な党争が終焉を告げたものの、政局が安定したわけではなく、満洲族の攻勢、李自成の反乱によって内憂外患の状況にあった。
本授業では、明末の党争に関する重要な史料とされている金日升の『頌天臚筆』巻３．４に収録される「召対」（宮中における皇帝と大臣の問答の記録）を通して、崇禎初年の政治情勢と皇帝のそれに対する姿勢を読み取る。

[到達目標]

１、白文テクストを読むことで、自力で句読する能力が身に付く。
２、明末の政治情勢を知ることができる。
３、皇帝と大臣の政治空間を把握することができる。

[授業計画と内容]

進度については、受講生次第なので、確言できない。
第１回　史料の性質について説明
第２～８回　巻３（崇禎元年六月二十七日～十月二日）
第９～１４回　巻４（崇禎元年十月十一日～二年正月二十八日）
第１５回　フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点で評価する。

[教科書]

テキストはこちらから配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

前もってテキストを配布するので、十分に予習しておくこと。担当者には訳稿の提出を求める。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学54

科目ナンバリング	G-LET24 76743 SJ38										
授業科目名 <英訳>	東洋史学(演習II) Oriental History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　中砂　明徳				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火5	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	『明清档案』										

[授業の概要・目的]

中央研究院が刊行中の『明清档案』に収録されている清朝順治年間の文書を読み、中国制圧の過程を清朝サイドから見てゆく。明清の王朝交代は、日本では「華夷変態」として、またヨーロッパでも宣教師によってそのニュースが紹介されるなど、大事件として受けとめられていた。しかし、明末清初の動乱に関する歴史記述とそれを承けた研究は、満州人王朝の世界史的意義が強調されるようになった今日においてもなお「敗者」の側に片寄りすぎている。あらためてこの史料集を読むことで、勝者の視点から冷静に支配確立の過程を見てゆきたい。

　今年は順治七年（1650)の档案を読む。清朝支配の試行錯誤の過程を、文書を通じてたどってゆく。

[到達目標]

１、白文に取り組むことで、自力で句読を行う能力を身につけることができる。
２、行政文書の形態に習熟できる。
３、清朝の中国征服史について理解を深めることができる。

[授業計画と内容]

１回『明清档案』のテキストの性格を説明し、昨年読んだところについて言及しながら、順治年間前半の政治情勢について解説する。 １コマにつき一、二本を読む予定。
２～１４回でとりあげる予定の档案のテーマは以下のとおり。
討賊、招撫、重罪犯、漕運、広東・湖広・陝西情勢、偽王、虎害、残酷な県令、奸細、致仕願い、黄河水害など。
１５回　フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点で評価する。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

東洋史学(演習II)(2)へ続く↓↓↓

東洋史学(演習II)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

１週間前に当番を決めて、文書１本ないしその一部を担当してもらうので、それについては責任をもって予習すること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学55

科目ナンバリング	G-LET24 76749 SJ38										
授業科目名 <英訳>	東洋史学（演習） Oriental History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 教授　　石川　禎浩				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	月2	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	中国共産党史の諸問題に挑む										

[授業の概要・目的]

結党100年を迎えた中国共産党の歩みは、そのまま近百年の激動の中国史の歩みに重なると言ってよい。その間、反体制の革命政党から巨大政権党へと党の姿は大きく変わったが、脈々と受け継がれている政党文化や属性も少なくない。また、その革命運動の歴史には多くの謎が残されている。この授業では1920年代初めの党の結成から抗日戦争―中華人民共和国樹立までの30年ほどの歴史の中からいくつかのトピックを選び出し、その概要や背景、意義、影響などについて受講生に割り振って調べてもらい、それを授業で発表し討議することで党の歴史のアウトラインをたどることにする。

[到達目標]

中国共産党の基本的史実を知り、その歴史資料がどのように形作られ、どのような特質を持っているかを知ることによって、政党の歩みから中国現代史をたどるという視点を獲得し、合わせて革命の時代と言われる中国の20世紀の歴史の流れをトータルに理解できるようにする。

[授業計画と内容]

1-2回　基礎的事項のイントロダクションと中国共産党党史の基本的図書・資料の解説をし、授業全般へのオリエンテーションを行う。受講生の顔ぶれを見ながら、担当すべき箇所を割り振る。
3-14回　1920年前後の結党から1949年の中華人民共和国樹立に至る30年ほどの中で、大きな歴史事件となった事項に関し、受講生がそれぞれに割り当てられた時期・主題について、毎回順番に報告を行い、討議を行う。受講者の人数にもよるが、以下のトピックが割り当てられることになるだろう。中国共産党の結成、国共合作、北伐と国共合作の終焉、農村革命、中華ソヴィエト共和国、長征、抗日民族統一戦線、抗日戦争、延安整風運動、国共内戦とその帰趨、中国革命とソ連・コミンテルン
15回　中国革命と中国共産党について、総合討論を行う。

[履修要件]

配布される関連資料の中には中国語資料も多く、また報告準備の過程で中国語資料を使うこともあるので、中国語の基礎を身につけていることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

平常点（50点）と期末レポート（50点）の総合的評価による。

東洋史学（演習）(2)へ続く↓↓↓

東洋史学（演習）(2)

[教科書]

授業中に指示する
授業中に適宜指示します。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

歴史事象について、受講生の中で担当を決め、順番に発表をしてもらいますので、その担当がある場合はかなり時間をとって報告の準備をする必要があります。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学56

科目ナンバリング	G-LET24 76749 SJ38										
授業科目名 <英訳>	東洋史学（演習） Oriental History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 教授　　石川　禎浩				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月2	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	中国共産党史の諸問題に挑む（続）										

[授業の概要・目的]

結党100年を迎えた中国共産党の歩みは、そのまま近百年の激動の中国史の歩みに重なると言ってよい。その間、反体制の革命政党から巨大政権党へと党の姿は大きく変わったが、脈々と受け継がれている政党文化や属性も少なくない。また、その革命運動の歴史には多くの謎が残されている。この授業では1949年の中華人民共和国樹立から2000年ごろまでの半世紀の歴史の中からいくつかのトピックを選び出し、その概要や背景、意義、影響などについて受講生に割り振って調べてもらい、それを授業で発表し討議することで、党の歴史のアウトラインをたどることにする。

[到達目標]

中国共産党の基本的史実を知り、その歴史資料がどのように形作られ、どのような特質を持っているかを知ることによって、政党の歩みから中国現代史をたどるという視点を獲得し、合わせて革命の時代と言われる中国の20世紀の歴史の流れをトータルに理解できるようにする。

[授業計画と内容]

1-2回　基礎的事項のイントロダクションと中国共産党党史の基本的図書・資料の解説をし、授業全般へのオリエンテーションを行う。受講生の顔ぶれを見ながら、担当すべき箇所を割り振る。
3-14回　1949年の中華人民共和国建国から2000年ごろに至る半世紀の中で、大きな歴史事件となった事項に関し、受講生がそれぞれに割り当てられた時期・主題について、毎回順番に報告を行い、討議を行う。受講者の人数にもよるが、以下のトピックが割り当てられることになるだろう。人民共和国建国と朝鮮戦争、過渡期の総路線と社会主義経済の建設、土地改革と農村、中国の計画経済、百家争鳴・百花斉放と反右派闘争、大躍進政策と大飢饉、文化大革命、林彪・四人組の失脚、華国鋒体勢、改革・開放政策と民主化運動、「歴史決議」と党の歴史認識。

[履修要件]

配布される関連資料の中には中国語資料も多い。また報告準備の過程で中国語資料を使うこともあるので、中国語の基礎を身につけていることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

平常点（50点）と期末レポート（50点）の総合的評価による。

東洋史学（演習）(2)へ続く↓↓↓

東洋史学（演習）(2)

[教科書]

授業中に指示する
授業中に適宜指示します。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

歴史事象について、受講生の中で担当を決め、順番に発表をしてもらいますので、その担当がある場合はかなり時間をとって報告の準備をする必要があります。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学57

科目ナンバリング	G-LET24 76749 SJ38										
授業科目名 <英訳>	東洋史学（演習） Oriental History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授　小野寺　史郎				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水2	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	中国近現代史に関する文献の講読										

[授業の概要・目的]

近現代中国の歴史を扱った、研究史上重要な論文や研究書を講読する。特に、それらがどのような文脈や史料状況、問題意識の下で書かれたものか、論証の過程や結論にどのような特徴があるか、同分野の研究の展開にどのような影響を及ぼしたか、といった点から検討を加えることで、それらの研究のもつ意味についての理解を深める。

[到達目標]

中国近現代史に関する文献の読解能力および理解力を身につける。

[授業計画と内容]

近現代中国の政治・社会・思想に関する研究書を読解し、問題の所在や証明の方法について検討する。
テキストの担当を決め、担当者が内容要約と解説、コメントを行い、それについて参加者全員で討議を行う。
第1回　ガイダンス、授業の進め方や分担の決定。
第2回　教員によるテキスト講読
第3-14回　受講者によるテキスト講読
第15回　フィードバック
また、必要に応じて論文作成に向けての研究報告とコメント、討議を行う。

[履修要件]

中国語を履修していることが望ましいが必須ではない。

[成績評価の方法・観点]

報告に関する評価および授業への取り組みなどの平常点。

[教科書]

授業中に指示する
PandAに掲載する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

演習という形式上、担当者だけでなく、受講者全員に相応の予習・復習を要求する。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学58

科目ナンバリング	G-LET24 7M303 SJ38										
授業科目名 <英訳>	東洋史学(演習) Oriental History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　吉本　道雅				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	金5	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	中国古代史史料学										

[授業の概要・目的]

銭穆『先秦諸子繫年』を輪読し、関連史料・研究を批判的に検討する。

[到達目標]

中国古代史研究に関わる文献・出土文字資料・考古学的資料の運用能力を向上させる。

[授業計画と内容]

昨年度の続き。従来の戦国史（453-221BC）研究は、戦国後期の秦史に偏しており、戦国前・中期や六国については、資料の絶対量の乏しさに加えて、『史記』紀年の混乱が、歴史的推移の時系列的把握を困難にしてきた。1990年代以降の戦国楚簡の出現は、とりわけ思想史的研究を活発化させているが、かえって文献に対する研究の立ち後れを露呈させている。本演習では、銭穆『先秦諸子繫年』（香港中文大学、1956）を輪読し、関連史料・研究を批判的に検討することによって、中国古代史研究に関わる文献・出土文字資料・考古学的資料の運用能力を向上させる。
第1回～第15回　『先秦諸子繫年』の輪読
＊フィードバック方法は授業中に説明する。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点。

[教科書]

講義資料は担当者が準備する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

発表の有無に関わらず、５頁程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献（出典）の調査が不可欠である。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学59

科目ナンバリング	G-LET24 7M303 SJ38										
授業科目名 <英訳>	東洋史学(演習) Oriental History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　吉本　道雅				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	金5	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	中国古代史史料学										

[授業の概要・目的]

銭穆『先秦諸子繫年』を輪読し、関連史料・研究を批判的に検討する。

[到達目標]

中国古代史研究に関わる文献・出土文字資料・考古学的資料の運用能力を向上させる。

[授業計画と内容]

前期の続き。従来の戦国史（453-221BC）研究は、戦国後期の秦史に偏しており、戦国前・中期や六国については、資料の絶対量の乏しさに加えて、『史記』紀年の混乱が、歴史的推移の時系列的把握を困難にしてきた。1990年代以降の戦国楚簡の出現は、とりわけ思想史的研究を活発化させているが、かえって文献に対する研究の立ち後れを露呈させている。本演習では、銭穆『先秦諸子繫年』（香港中文大学、1956）を輪読し、関連史料・研究を批判的に検討することによって、中国古代史研究に関わる文献・出土文字資料・考古学的資料の運用能力を向上させる。
第1回～第15回　『先秦諸子繫年』の輪読
＊フィードバック方法は授業中に説明する。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点。

[教科書]

講義資料は担当者が準備する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

発表の有無に関わらず、５頁程度は予習しておくことが必須である。文法的な読解とともに、引用文献（出典）の調査が不可欠である。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学60

科目ナンバリング	G-LET24 7M303 SJ38										
授業科目名 <英訳>	東洋史学（演習） Oriental History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　中砂　明徳				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	金2	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	楊念群著『「天命」如何転移　清朝「大一統」観的形成与実践』										

[授業の概要・目的]

本授業では、楊念群著『「天命」如何転移　清朝「大一統」観的形成与実践』を輪読する。楊氏は中国の清代思想史の代表的な研究者で、多くの著書があり、研究の方法論や評論的な文章も数多く発表している。彼の最近刊である本書は、現代中国においてもアクチュアルな問題である「天下」「一統」観について歴史的に考察したものである。本書を題材として中国の「天下」観について議論するのが本授業の目的である。

[到達目標]

１、『春秋』以来の「一統」についての歴代の議論を知ることができる。
２、中国の政治の核心的概念について考察を深めることができる。

[授業計画と内容]

１回　　緒論：”中国””天下”与“大一統”比較論綱
２、３回　第一章　清朝以前的“正統論”及其与“大一統”之関係
４、５回　第二章　清朝“大一統”観再詮釈
６、７回　第三章　“正統観”形成的内在張力：清朝“二元理政模式”与“大一統”思想
８回　　第四章　清帝的“教養観”与“学者型官僚”的基層治理模式
９、１０回　第五章　基層教化的転型：郷約、宗族与清代治道之変遷
１１回　　第六章　“大一統”観在近代中国的変異
１２回　　第七章　清帝遜位与民初統治合法性的闕失
１３回　　余論　　政治史研究与中国伝統核心観念的当代価値
１４回　　総合討論
１５回　　フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点で評価する。

東洋史学（演習）(2)へ続く↓↓↓

東洋史学（演習）(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

担当者は論文紹介のレジュメを作成すること。著者の他の仕事もリストアップしておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

書物は購入する必要はありません。講師がコピーを提供します。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学61

科目ナンバリング	G-LET24 7M303 SJ38										
授業科目名 <英訳>	東洋史学（演習） Oriental History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　中砂　明徳				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	金2	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	外国語論文のレビュー										

[授業の概要・目的]

　この授業では、受講者が自らの関心にしたがって外国語（受講者にとっての外国語。英語でも、中国語でも、他の言語でもよい）の論文を選んで、その内容を紹介するとともに、その論文の学界における位置づけを参加者（講師も含む）にわかりやすいように行う。
　かつては、言語ごとに論文のスタイルはずいぶん異なっていた。現在でも、日本語、中国語、英語それぞれ特有の「癖」は存在するが、英語論文の影響により、かなり平準化してきている。外国語論文を読むことで、ある種のスタンダードを知るとともに、その問題点を個々の受講者が感じ取るようになれば、この授業の目的は達成される。

[到達目標]

１、外国語論文の「癖」を知ることで、自国語論文のスタイルについて再考することができる。
２、日本では数少ない「論文のレビュー」（『史学雑誌』の「回顧と展望」は、単なる紹介に過ぎない）を授業の場で公表し、それに対する疑義を受け止めるなかで、自分なりの評価の型を作ることができる。
３、査読者の立場に身を置くことで、投稿者としての自己を振り返ることができる（ちなみに、査読付きの論文だからといって、これ以上の査読を必要としないほどに完成しているわけではない）。

[授業計画と内容]

１回　全体の趣旨説明
２～１４回　受講者が１回分を担当する。時間の半分を論文の紹介、評にあて、残り半分の時間で、出席者全員による質疑応答を行う。受講者の数が少ない場合には、適宜受講者自身の研究発表の場を設ける。
１５回　フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点による評価を行う。

東洋史学（演習）(2)へ続く↓↓↓

東洋史学（演習）(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

担当論文を口頭で紹介する際に、補助材料としてレジュメを作成すること。

（その他（オフィスアワー等））

参加者は少ないことが予想されるので、他専修からの参加も歓迎する。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET25 66831 LJ38										
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	イスラーム地域研究センター 研究員 仁子　寿晴				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	木3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	イスラーム言語哲学史研究										

[授業の概要・目的]

《授業全体のテーマ》

通常のイスラーム思想史ではほとんど顧みられないのだが、或る類の言語哲学形態（なにがしかの意味でアラビア語から立ち上げられる言語哲学）がイスラーム思想の歴史において重要な柱であったと私は思う。ここ数年は、そうした言語哲学を集中的に扱ってきた。古典期バスラ系カラーム（神学）、ザーヒル主義の極端なタイプであるイブン・ハズムを論じてきたのは、そうした流れにおいてだ（言語哲学的色彩が強いイスラーム思想家として、下に挙げるファーラービーや、ハンバル派法学者イブン・タイミーヤ、更には、後期アシュアリー派神学も視野に入る）。昨年度講義では、ロジェ・アルナルデス（Roger Arnaldez）がイブン・ハズム（西暦1064年歿）を論じた研究書（Grammaire et theologie chez Ibn Hazm de Cordoue, Paris, 1956）並びにジャック・ランガド（Jacques Langhade）の『クルアーンから哲学へ』（Du coran a la philosophie）を採り上げた。後者は、哲学者ファーラービー（abu Nasr al-Farabi, 西暦950年歿）の言語思想に焦点を合わせていくのだが、副題（La langue arabe et la formation du vocabulaire philosophique de Farabi）が示すとおり、ランガドは、西暦十世紀までに己れの言語であるアラビア語を省察してきたアラビア語＝イスラーム文化の言語思想を網羅的に調べ、ファーラービーが如何にその言語思想の歴史を己れの哲学言語形成に組み込んだかを丹念に追う。その研究は、ファーラービーの哲学的思惟に新たな光を当てるだけでなく、元来、外来思想とのみ目されてきた哲学（ファルサファ）の持つ重要な、だがイスラーム思想史記述からはすっぽりと抜け落ちる局面を浮彫にする。

残念なことに時間の都合上、昨年度は『クルアーンから哲学へ』の内容をごく概説的に提示するに留まった。本講義では、ランガドの研究書の詳細な内容の検討、並びにランガドの示した言語哲学像から披ける展望の紹介を行う。詳細は、授業計画をご覧いただきたい。ランガド『クルアーンから哲学へ』の研究対象は、クルアーンやハディース（ムハンマドの言行録）の意味論から、アラビア文学、いわゆる宗教諸学を経由して、ファーラービー（西暦950年歿）の言語論に至る。その意味論の探究は、イスラーム文化が言語を如何に認識したかに焦点が当てられる（その分析に意味論が使われる）。現在、イスラーム哲学（ファルサファ）研究は、ほぼ同時代のイスラーム思想（コンテキスト）を無視する形で行われるが、ランガドの研究書は、その状況を打破する格好の素材であろう。なお、アルナルデスの前出研究書は、イスラーム思想研究に重要な示唆を与える点が多々あった。取り分けて日本人にとって重要なのは、井筒俊彦の英文著作群に意味論という方法論を与えるものであったことだ。アルナルデスでは、まだ萌芽的であった意味論が、ランガドでは、徹頭徹尾使い尽くすし方で扱われているのが興味深い（ランガドは、ほぼアルナルデスの弟子と言ってよい）。井筒の意味論が如何なるものであったかは、アルナルデス、ランガドのフランス語圏イスラーム思想研究での意味論研究の深まりと比較することなくして充分評価できないのではなかろうか。

上に展望と言った。それは、後期アシュアリー派神学に係わる。古典期バスラ系カラームと違って後期アシュアリー派神学は、哲学（ファルサファ）を経由する。そうした哲学への関与は、如何なるし方で為されたのか。その一端が記されるのがアルナルデス『ファフルッディーン・アッ＝ラーズィー――クルアーン注釈者、並びに哲学者』（Roger Arnaldez, Fakhr al-Din al-Razi: Commentateur du Coran et philosophe, J. Vran, 2002）である。アシュアリー学団の神学の転換点にあるファフルッディーン・アッ＝ラーズィー（西暦一二〇九年歿）の神学は、古典期バスラ系カラームの意味論的構成とも、ファーラービーを筆頭とする哲学／ファルサファの意味論的構成とも異な

西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

る構成を持つ。だが、これもまた時間の都合上、概要を説明するに留まらざるをえない。
　なお二つの研究書（Langhad, Du Coran a la philosophieとArnaldes, Fakhr al-Din al-Razi）は仏文であるが、事前に和訳と原文テクストを配布する。

[到達目標]

　本講義は「イスラーム言語哲学史研究」と銘打った。イスラーム思想において「言語／アラビア語」を研究対象とするのは、限られた思想家だけでない。或る意味で既にクルアーンにおいてそうした傾向が見えるし、主要な思想家たちはほぼ例外なく言語哲学的な側面を有つ。種々の思想家たちの言語思想に触れることで、イスラーム思想史のかなりの部分が言語思想／言語哲学であるのを考察できる。これは、別の言い方をすれば、従来のイスラーム思想史記述に何が欠けていたのかを理解することでもある。
　取り分けて本講義では、ファーラービーにおける論理学と文法学の連関が詳しく採り挙げられ、イスラーム思想において論理学／文法学の問題がただならぬ問題であるのを考察できる。更に、論理学と文法学（伝統的な言語思想）がファフルッディーン・アッ＝ラーズィーにおいて更なる展開を見せることと併せて、イスラーム言語哲学が動的に展開するのを観ることができる。

[授業計画と内容]

基本的にJ・ランガド『クルアーンから哲学へ』の章立て（と部分的にR・アルナルデス『ファフルッディーン・アッ＝ラーズィー』の章立て）に従って講義を進める。ただし講義の進みぐあい――鋭い質問への対応も含む――に応じて順序や同一テーマの回数を変えることがある。事前に私の日本語訳を配布するので出来うる限り眼を通しておいていただきたい。

第1回　概説　イスラーム哲学（ファルサファ）とギリシア文献の翻訳と伝統的アラビア語言語学の意味論的配置とファーラービーの位置づけ
第2回　ランガド『クルアーンから哲学へ』(1)――クルアーンとハディースの言語観／言語の意味論
第3回　ランガド『クルアーンから哲学へ』(2)――クルアーンとハディースの言語観／言語の意味論
第4回　ランガド『クルアーンから哲学へ』(3)――アラビア語散文学における言語観／言語の意味論
第5回　ランガド『クルアーンから哲学へ』(4)――法学・神学・神秘主義における言語観／言語の意味論
第6回　ランガド『クルアーンから哲学へ』(5)――文法学・辞書学における言語観／言語の意味論
第7回　ランガド『クルアーンから哲学へ』(6)――ファーラービーの言語理論(1)諸言語の形成と諸学における術語形成
第8回　ランガド『クルアーンから哲学へ』(7)――ファーラービーの言語理論(2)哲学言語の形成
第9回　ランガド『クルアーンから哲学へ』(8)――ファーラービーの言語実践(1)哲学語彙の検討
第10回　ランガド『クルアーンから哲学へ』(9)――ファーラービーの言語実践(2)哲学用語と哲学概念の分析
第11回　神学（カラーム）と哲学（ファルサファ）――思想言語をめぐる意味論的闘争の概観
第12回　アルナルデス『ファフルッディーン・アッラースィー』(1)――イスラーム思想におけるクルアーン由来の言語思想／言語哲学とファフルッディーン・アッ＝ラーズィーの思想
第13回　アルナルデス『ファフルッディーン・アッラースィー』(2)――西暦十二世紀までの政治宗教的状況
第14回　アルナルデス『ファフルッディーン・アッラースィー』(3)――ファフルッディーン・アッ＝ラーズィーの生涯
第15回　アルナルデス『ファフルッディーン・アッラースィー』(4)――ファフルッディーン・アッ＝ラーズィーが触れた文化遺産

西南アジア史学(特殊講義)(3)へ続く↓↓↓

西南アジア史学(特殊講義)(3)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

期末レポートのみで評価する。
レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。
独自の工夫が見られるものについては、高い点を与える。

[教科書]

使用テクストは、J. Langhade, Du Coran a philosophie: La langue arabe et la formation du vocabulaire phisolophique de Farabi, Damas: L'Institut Francais d'Etudes Arabes de Damas, 1994とR. Arnaldez, Fakhr al-Din al-Razi: Commentateur du Coran et philosophe, Paris: V. Vrin, 2002.

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

事前に仏文テクストと和訳を配布するので講義に備えて読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学63

科目ナンバリング	G-LET25 66831 LJ38										
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授　山口　元樹				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	東南アジアのイスラームと中東アラブ地域との関係　Islam in Southeast Asia and its relationship with the Arab Middle East										

[授業の概要・目的]

東南アジアは、イスラーム世界の「周縁」に位置しながらも現在では非常に多くのムスリム人口を抱えている。この地域に住む人々のイスラームの信仰はしばしば表層的なものと見做されてきた。しかし、この宗教が東南アジア社会の中で歴史的に重要な役割を果たしてきたことを無視すべきではない。本講義では、東南アジア島嶼部を中心に、前近代から近代までのイスラームの歴史的展開について解説する。特にイスラーム世界の「中心」である中東アラブ地域との関係について、史料を参照しながら検討していく。

Southeast Asia, although located on the periphery of the Muslim world, now has a very large Muslim population. The Islamic faith of the inhabitants has often been viewed as superficial. However, we should not ignore the fact that this religion has historically played an important role in Southeast Asian society. In this lecture, I will explain the historical development of Islam from pre-modern to modern times, focusing on the maritime Southeast Asia. In particular, we will examine the relationship with the Arab Middle East, the center of the Muslim world, refering to historical documents.

[到達目標]

・前近代から現代までの東南アジアにおけるイスラームの歴史について基礎的な知識を獲得する。
・東南アジアを事例として、イスラーム世界の中に存在する地域性や多様性、そして中心・周縁の関係性について理解する。

Upon the success of completion of this course, students (1) will acquire a basic knowledge of the history of Islam in Southeast Asia from pre-modern times to the present, and (2) will understand the regional characteristics and diversity that exists within the Islamic world, and the relationship between the center and the periphery, using Southeast Asia as a case study.

[授業計画と内容]

第1回　東南アジアのイスラームの基礎知識
第2回　西アジアのムスリム商人と東南アジア
第3-4回　東南アジアにおけるイスラーム化の始まり
第5回　ワリ・ソンゴ（九聖人）とジャワのイスラーム
第6-7回　マレー世界の形成と発展
第8回　東南アジア古典文学のなかのイスラーム
第9-10回　アラブ地域との学問ネットワーク
第11-12回　東南アジアからのマッカ巡礼
第13-14回　植民地支配の進展と抵抗運動
第15回　まとめ
※講義の進み具合や受講者の関心によって内容を変更することがある。

西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

西南アジア史学(特殊講義)(2)

1: Basic Knowledge of Islam in Southeast Asia
2. West Asian Muslim Traders and Southeast Asia
3-4. The Beginning of Islamization in Southeast Asia
5. Wali Songgo (Nine Saints) and Islam in Java
6-7 The Formation and Development of the Malay World
8 Islam in the Classical Literature of Southeast Asia
9-10. Intellectual Network with the Arab region
11-12. Pilgrimage to Makkah from Southeast Asia
13-14 Progress of Colonial Rule and Resistance Movements
15. Conclusion

The contents may be changed depending on the progress of the lecture and the interests of the students.

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業への積極的な参加（50点）、レポート（50点）で評価する。

Participation in class (50%)
Final report (50%)

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に別途指示する.

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学64

科目ナンバリング	G-LET25 66831 LJ38										
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)					**担当者所属・職名・氏名**	文学研究科　准教授　岩本　佳子				
配当学年	1回生以上	**単位数**	2	**開講年度・開講期**	2023・前期	**曜時限**	火4	**授業形態**	特殊講義	**使用言語**	日本語
題目	オスマン朝の成立とオスマン朝の「古典期」統治体制の成立と変容 Reserch of the Ottoman Empire I: Its Origin and Ruling System in the "Classical Period"										

[授業の概要・目的]

1300年頃にアナトリア西北部で誕生し、その後、1922年まで「ヨーロッパ」「中東」「北アフリカ」にまたがる地域を支配した「オスマン帝国／オスマン朝」の、特に15－17世紀に焦点をあてて、多様な人々がどのように出会い、それが何を生み出していったのかを、近年の新たな研究動向を参考に、年代記やオスマン語（アラビア文字表記トルコ語）の定期刊行物など実際の史料を取り上げて考察する。

Focusing on the history of the Ottoman Empire that emerged in northwestern Anatolia around 1300 and ruled over Europe, the Middle East, and North Africa until 1922, this class examines how diverse peoples met and what emerged from their encounters in the 15-17th centuries Ottoman Empire, referring to new research trends in recent years.

[到達目標]

前近代オスマン朝の支配や管理諸制度の持つ地域性や特色を、その起源や変容を含めて考察できるようになる。

The class achievement is an understanding of the feature of the ruling systems of the pre-modern Ottoman Empire, as well as their origins and transformations.

[授業計画と内容]

第1週：ガイダンス
第2~第4週：オスマン朝の成立および「古典期」統治体制の概説
第5~第6週：研究史料の解説
第7~14週：史料の講読・分析を通じたオスマン朝統治体制の探求
第15週：まとめ

week 1: Guidance
weeks 2-4: Outline of the Ottoman Empire and its administration system
weeks 5-6: Introducing historical materials.
weeks 7-14: Exploration of the Ottoman ruling system through reading and analysis of historical materials
week 15: Feedback and discussion

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業・講読への取組（50%）、期末レポートまたは授業出席者による研究発表（50%）により評価する。

西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

西南アジア史学(特殊講義)(2)

Participation in class (50%)
Final report or presentation (50%)

[教科書]

必要な資料をPDF化し、Web上で共有する。

Handouts will be shared through the Internet Cloud system.

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

第５週から14週にかけて、研究書、論文、オスマン語年代記（ラテン文字転写含）等を講読するので必ず予習が必要。

Students are expected to participate in the class with adequate preparation.

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET25 66831 LJ38										
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　岩本　佳子				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	オスマン朝の転換と近代化 Reserch of the Ottoman Empire II: Its Transformation and Modernization										

[授業の概要・目的]

1300年頃にアナトリア西北部で誕生し、その後、1922年まで「ヨーロッパ」「中東」「北アフリカ」にまたがる地域を支配した「オスマン帝国／オスマン朝」の、特に18－20世紀に焦点をあてて、多様な人々がどのように出会い、それが何を生み出していったのかを、近年の新たな研究動向を参考に、年代記やオスマン語（アラビア文字表記トルコ語）の定期刊行物など実際の史料を取り上げて考察する。

Focusing on the history of the Ottoman Empire that emerged in northwestern Anatolia around 1300 and ruled over Europe, the Middle East, and North Africa until 1922, this class examines how diverse peoples met and what emerged from their encounters in the 18-20th centuries Ottoman Empire, referring to new research trends in recent years.

[到達目標]

近代オスマン朝の支配や管理諸制度の持つ地域性や特色を、その起源や変容を含めて考察できるようになる。
また、史料から歴史的事実を引き出す技術を習得し、自身の研究に活かすことができるようになる。

Upon the successful completion of this course, students will:
(1) understand the feature of the ruling systems of the modern Ottoman Empire, as well as their origin and transformation.
(2) gain skills to deduct reliable facts from historical sources.

[授業計画と内容]

第1回　ガイダンス
第2~第4週：オスマン朝の近代化の概説
第5~第6週：研究史料の解説
第7~14週：史料の講読・分析を通じた近代オスマン朝統治体制の探求
第15週：まとめ

week 1: Guidance
weeks 2-4: Outline of the modern Ottoman Empire
weeks 5-6: Introducing historical materials.
weeks 7-14: Exploration of the Ottoman ruling system through reading and analysis of historical materials
Week 15: Feedback and Discussion

西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

西南アジア史学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業・講読への取組（50%）、期末レポートまたは授業出席者による研究発表（50%）により評価する。

Participation in class (50%)
Final report or presentation (50%)

[教科書]

必要な資料をPDF化し、Web上で共有する。

Handouts will be shared through the Internet Cloud system.

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する
第５週から14週にかけて、研究書、論文、オスマン語年代記（ラテン文字転写含）等を講読するので必ず予習が必要。

Students are expected to participate in the class with adequate preparation.

[授業外学修（予習・復習）等]

必ず前回の内容を復習したうえで授業に臨むこと。

Students will be required to review class notes before attending each lesson.

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学66

科目ナンバリング	G-LET25 66831 LJ38										
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 准教授　帯谷　知可				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	現代中央アジアにおける歴史の見直しの諸相										

[授業の概要・目的]

この授業では、旧ソ連中央アジア、特にウズベキスタンを対象として、ソ連時代のペレストロイカによる自由化、さらに独立とソ連解体を契機として進行した、歴史の見直しの諸相を検討する。それを通じて、現代中央アジア理解を深めるとともに、多様な歴史叙述のあり方についての認識を深めることをねらいとする。

[到達目標]

中央アジアの近現代（ロシア帝政支配期～ソ連期～ソ連解体・独立から現代まで）の歴史の流れと、ソ連時代から現代に至るまでの中央アジアにおける基本的な民族観・歴史観および歴史記述の特徴を理解する。

[授業計画と内容]

以下の予定に従って、講義を行う。

＊旧ソ連中央アジアという地域の概要（第1-2週）
＊民族史の記述（第3-4週）
＊ペレストロイカと歴史の見直し（第5-7週）
＊中央アジア諸国の独立後の新しいナショナリズムと歴史研究（第8-9週）
＊評価の逆転（ティムール、ジャディード運動、バスマチ運動）（第10-12週）
＊新しい正史（第13-14週）
＊まとめ（第15週）

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点30%、期末のレポート70%の割合で評価を行う。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
宇山智彦（編著）『中央アジアを知るための60章』』（明石書店）ISBN:978-4-7503-3137-9（中央アジア研究の入門書）
小松久男 『革命の中央アジア―あるジャディードの肖像』（東京大学出版会）ISBN:4-13-025027-2

西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

西南アジア史学(特殊講義)(2)

（ロシア革命期の中央アジアに関する必読文献）
宇山智彦 『「カザフ民族史再考―歴史記述の問題によせて」『地域研究論集』Vol.2, No. 1 (1999)』（国立民族学博物館地域研究企画交流センター）（ソ連中央アジアの歴史記述の基本理念を論じた論文）
帯谷知可 『「英雄の復活―現代ウズベキスタン・ナショナリズムのなかのティムール」酒井啓子・臼杵陽編『イスラーム地域の国家とナショナリズム』』（東京大学出版会）ISBN:4-13-034185-5（ソ連解体後の中央アジアナショナリズムと歴史の見直しを論じた論文）
帯谷知可編 『ウズベキスタンを知るための60章』（明石書店）ISBN:9784750346373（ウズベキスタン地域研究の入門書）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業期間中に、各回の講義内容を復習するとともに、参考書等としてあげている文献を読み、より深い理解と考察に結びつけてほしい。

（その他（オフィスアワー等））

授業でも紹介しますが、中央アジア近現代史に関する文献をできる限り多く読んでください。
連絡の必要がある場合はこちらへ　obiya[AT]cseas.kyoto-u.ac.jp （[AT]を@に替えてください）

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET25 66831 LJ38										
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 准教授 野田　仁				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	中央アジアの東と西：境界をめぐる歴史と史料										

[授業の概要・目的]

中央アジアの歴史のなかで、たとえば「トルキスタン」というよく知られた地理的な名称を取り上げても、その境界は明確ではなく、歴史史料における言及も多様であった。本講義では、中央アジア史上の境界に着目し、前近代のさまざまな表象を検討する。とりわけ、現在は中国新疆ウイグル自治区となっている東側と、ロシア帝国・ソ連領であった西側との間の境界・国境に焦点を当て、それが次第に近代的な国境となる過程をたどりたい。したがって、本講義が重点を置くのは、18世紀から20世紀初頭にかけての時期である。

[到達目標]

中央アジアの歴史の流れを、その周辺の大国との関係の推移と共に理解し、説明できるようになる。

近代的な国境の成立過程を、中央アジアの事例から理解して、説明できるようになる。

[授業計画と内容]

基本的に以下の計画にしたがって進めるが、受講者の理解や授業の進み具合に応じて順序などを変更する可能性がある。

第1回：イントロダクション（中央アジアの地理と境界）
第2回：地図からわかること
第3回：東と西のつながり
第4回：中央アジアの南北の違い、ポスト・モンゴル時代
第5回：ジューンガルの時代
第6回：露清関係とカザフの外交１
第7回：露清関係とカザフの外交２
第8回：清朝の東トルキスタン統治
第9回：コーカンド・ハン国の東方関係
第10回：露清間の境界画定と条約
第11回：グレートゲームとパミールの境界
第12回：探検・調査の時代
第13回：辛亥革命とロシア革命による人の移動
第14回：国境を越える人・モノ・情報の動き
第15回：まとめ

[履修要件]

特になし

西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

西南アジア史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートにより評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

野田仁 『露清帝国とカザフ=ハン国』（東京大学出版会，2011年）ISBN: 9784130261395

小沼孝博 『清と中央アジア草原: 遊牧民の世界から帝国の辺境へ』（東京大学出版会，2014年）ISBN:9784130261494

吉田金一 『近代露清関係史』（近藤出版社，1974年）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業の中で紹介する参考文献を参照し、必要に応じて関連する論文も探し、参照することが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

授業中の質問、メールによる質問を受け付ける。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学68

科目ナンバリング	G-LET25 76842 SJ38										
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　磯貝　健一				
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	火2	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	ペルシア語、アラビア語両語による法学文献講読 Reading Islamic legal texts in both Persian and Arabic										

[授業の概要・目的]

16世紀のシャーフィイー派ウラマーであるIbn Ruzbihanが、ペルシア語で著した統治マニュアル、Suluk al-Mulukを講読する。ペルシア語本文と引用元のアラビア語原文を対照することにより、アラビア語がペルシア語に翻訳される際、アラビア語固有の表現がどのようにペルシア語に移し替えられたのかにつき学習する。

In this course students read Suluk al-Muluk, the early 16th century Central Asian governance manual compiled by Ibn Ruzbihan, a Shafiite ulama who fled there to avoid persecution from Shiite Safavids. The work consists of citations from different Arabic lawbooks, which were literally translated into Persian by the author. We can easily find out original Arabic text of each part of the work owing to annotations made by the author about reference sources. Students will read the work in both Persian and Arabic, thereby acquiring knowledge about to what extent Arabic syntax left its traces on translated text.

[到達目標]

・ペルシア語、および、アラビア語の文法をより深く理解し、歴史的なテキストを正確に読解することができる。
・イスラーム法学の基本的な術語について正確に理解し、これを他者に説明することができる。

Upon the successful completion of this course, students will:
(1) gain an in-depth understanding about the grammar of both Persian and Arabic and obtain the ability to read historical text written in these languages accurately.
(2) have an adequate knowledge about the technical terms used by Islamic jurists.

[授業計画と内容]

第1回
授業の進め方についての説明。講読文献の著者、および、その内容についての解説。
第2回~第14回
Suluk al-Muluk、「ハラージュ章」の内、ハラージュの使途について述べた箇所の講読。
第15回
これまでの講読内容のまとめ、および、内容についての討議。
第16回~第29回
Suluk al-Muluk、「ハラージュ章」の内、イクターについて述べた箇所の講読。
第30回
これまでの講読内容のまとめ、および、内容についての討議。

Week 1: Explaining about the author and work
Weeks 2-14: Reading the text from the chapter of Kharaj (land tax) dealing with the topics about how to spend kharaj

西南アジア史学(演習II)(2)へ続く↓↓↓

西南アジア史学(演習II)(2)

Week 15: Feedback and Discussion
Weeks 16-29: Reading the text from the chapter of Kharaj (land tax) dealing with iqta and soyurghal
Week 30: Feedback and Discussion

[履修要件]

アラビア語ないしペルシア語の基礎文法を学習していることが望ましい。

Students are expected to have learned the basic grammar of either Arabic or Persian.

[成績評価の方法・観点]

講読の担当、予習の状況にもとづき、平常点で評価する。

Participation in class and preparation for reading

[教科書]

使用しない
PDF**化したファイルを、**Web**上で共有する。**

Handouts will be shared through Google Drive.

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回、前回の授業時に予告された講読箇所を一通り読んで授業に参加すること。

Students will be required to make adequate preparations for reading the text.

（その他（オフィスアワー等））

特になし。

※オフィスアワーの詳細については、KULASIS**で確認してください。**

科目ナンバリング	G-LET25 76842 SJ38										
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　岩本　佳子				
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	水3	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	オスマン朝の遊牧民と国家 Reserch of the nomadic people in the Ottoman Empire										

[授業の概要・目的]

1300年頃にアナトリア西北部で誕生し、その後、1922年まで「ヨーロッパ」「中東」「北アフリカ」にまたがる地域を支配した「オスマン帝国／オスマン朝」に焦点をあてて、オスマン朝における遊牧民と国家の関係を、近年の新たな研究動向を参考にしつつ、オスマン語（アラビア文字表記トルコ語）で書かれた行財政文書など実際の史料を取り上げて考察する。

Focusing on the history of the Ottoman Empire that emerged in northwestern Anatolia around 1300 and ruled over Europe, the Middle East, and North Africa until 1922, this class examines nomadic people in the Ottoman Empire, referring to new research trends in recent years.

[到達目標]

オスマン朝の遊牧民支配のシステムの持つ地域性や特色を、その起源や変容を含めて考察できるようになる。

The class achievement is an understanding of the feature of the ruling systems of the Ottoman Empire, as well as their origins and transformations.

[授業計画と内容]

前期
第1週：前期ガイダンス
第2~第4週：オスマン朝およびオスマン朝の遊牧民統治システムの概説
第5~第6週：研究史料の解説
第7~14週：史料の講読・分析を通じたオスマン朝統治体制の探求
第15週：まとめ

後期
第16週：後期ガイダンス
第17~第20週：研究史料の解説
第21~29週：史料の講読・分析を通じたオスマン朝統治体制の探求
第30週：まとめ

Spring Term
week 1: Guidance
weeks 2-4: Outline of the nomadic people in the pre-modern Ottoman Empire
weeks 5-6: Introducing historical materials.
weeks 7-14: Exploration of the Ottoman ruling system through reading and analysis of historical materials
week 15: Feedback and discussion

Autumn Term

西南アジア史学(演習II) (2)へ続く↓↓↓

西南アジア史学(演習II) (2)

week 16: Guidance
weeks 17-２０: Outline of the nomadic people in the modern Ottoman Empire
weeks 21-29: Exploration of the Ottoman ruling system through reading and analysis of historical materials
week 30: Feedback and discussion

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業・講読への取組（50%）、期末レポートまたは授業出席者による研究発表（50%）により評価する。

Participation in class (50%)
Final report or presentation (50%)

[教科書]

必要な資料をPDF化し、Web上で共有する。

Handouts will be shared through the Internet Cloud system.

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

適宜、研究書、論文、オスマン語行財政文書（ラテン文字転写含）を講読するので必ず予習が必要。

Students are expected to participate in the class with adequate preparation.

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学70

科目ナンバリング	G-LET25 76844 SJ38										
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	神戸大学　人文学研究科　准教授 伊藤　隆郎				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	金3	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	アラビア語古典史料演習										

[授業の概要・目的]

本演習ではアラビア語史料の読解をおこなう。その際、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解することを目指す。

本年度は、マムルーク朝時代後期の歴史家 Ibn Taghribirdi (ca. 812-874/1410-1470) の年代記 al-Nujum al-zahira fi muluk Misr wal-Qahira を読む。

なお、授業はZoomミーティングを利用した遠隔リアルタイム型で行う。

[到達目標]

アラビア語の古典を読解し、内容を理解する能力を身につける。アラビア語（フスハー）文法に即して文意だけでなく、古典特有の文体や表現を理解する。また、固有名詞や用語、引用などを調査し、その情報を活かして文献をさらに深く読み込む能力を習得する。

[授業計画と内容]

第1回　開講にあたって
　　授業の進め方、講読文献の著者、概要などについて説明する。
第2回-第14回　文献講読
　　al-Nujum al-zahiraを順次読み進める。
第15回　フィードバック
　　授業全体に関する質問を受け付ける。

[履修要件]

アラビア語（フスハー）文法を習得していること。

[成績評価の方法・観点]

成績評価の方法：平常点で評価する。
評価の基準：アラビア語文を適切に音読し文法に則して解釈できるか。講読文献中の固有名詞や用語、引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解しているか。

[教科書]

講読教材および関連資料は配布する。

西南アジア史学(演習II)(2)へ続く↓↓↓

西南アジア史学(演習II)(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：毎回の授業で講読する部分を読み、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査する。
復習：予習時の理解を授業後の理解と照らし合わせ、誤解していた部分があれば、その理由を考えて対処する。また、授業で解決できなかった問題点があれば、さらに調査、考察を重ね、必要に応じて次回または第15回の授業で質問する。

（その他（オフィスアワー等））

毎回あてるので、予習に十分時間をかけて授業に臨んでください。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学71

科目ナンバリング	G-LET25 76844 SJ38										
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(演習II) West Asian History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	神戸大学　人文学研究科　准教授 伊藤　隆郎				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	金3	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	アラビア語古典史料演習										

[授業の概要・目的]

本演習ではアラビア語史料の読解をおこなう。その際、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解することを目指す。

前期に引き続き、 マムルーク朝時代の歴史家 Ibn Taghribirdi (ca. 812-874/1410-1470) の年代記 al-Nujum al-zahira fi muluk Misr wal-Qahira を読む。

[到達目標]

アラビア語の古典を読解し、内容を理解する能力を身につける。アラビア語（フスハー）文法に即して文意だけでなく、古典特有の文体や表現を理解する。また、固有名詞や用語、引用などを調査し、その情報を活かして文献をさらに深く読み込む能力を習得する。

[授業計画と内容]

第1回　開講にあたって
　　授業の進め方、講読文献の著者、概要などについて説明する。
第2回-第14回　文献講読
　　al-Nujum al-zahiraを順次読み進める。
第15回　フィードバック
　　授業全体に関する質問を受け付ける。

[履修要件]

アラビア語（フスハー）文法を習得していること。

[成績評価の方法・観点]

成績評価の方法：平常点で評価する。
評価の基準:アラビア語文を適切に音読し文法に則して解釈できるか。講読文献中の固有名詞や用語、引用の典拠についても調査し、記述内容を深く理解しているか。

[教科書]

講読教材および関連資料は配布する。

西南アジア史学(演習II)(2)へ続く↓↓↓

西南アジア史学(演習II)(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：毎回の授業で講読する部分を読み、固有名詞や用語、引用の典拠についても調査する。
復習：予習時の理解を授業後の理解と照らし合わせ、誤解していた部分があれば、その理由を考えて対処する。また、授業で解決できなかった問題点があれば、さらに調査、考察を重ね、必要に応じて次回または第15回の授業で質問する。

（その他（オフィスアワー等））

毎回あてるので、予習に十分時間をかけて授業に臨んでください。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学72

科目ナンバリング	G-LET25 76850 LJ38										
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(講読) West Asian History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	イスラーム地域研究センター 客員准教授 今松　泰				
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	金1	授業形態	講読	使用言語	日本語
題目	現代トルコ語文法・講読										

[授業の概要・目的]

現代トルコ語文法の基礎を学び、その後、現代トルコ語で書かれた研究書あるいは論文の講読を行う。
さらに受講者の必要に応じて、アラビア文字表記のトルコ語（オスマン語）文献の講読をおこなう。

[到達目標]

現代トルコ語の基礎的な文法事項を確実に習得し、それらの知識を活用してトルコ語の文献を読みこなせるようになることが到達目標である。

[授業計画と内容]

第１回　イントロダクション　文字と発音
第２回　母音の交替、子音の交替
第３回　数詞、形容詞、複数接尾辞、人称、所有人称接尾辞
第４回　格接尾辞（１）
第５回　格接尾辞（２）、名詞修飾
第６回　代名詞、否定文、疑問文、後置詞
第７回-第９回　動詞　活用
第10回　動詞語幹の派生
第11回　動名詞
第12回　形動詞（分詞、連体形）
第13回　副動詞ほか

＊以降の授業では現代トルコ語、さらにはオスマン語のテキストを講読する
第14回-第30回　テキスト講読

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点評価。
参加者の受講態度と担当した講読の内容をもとに評価する。
文法習得時には、課題を課し、確認のため小テストを行うことがある。

西南アジア史学(講読)(2)へ続く↓↓↓

西南アジア史学(講読)(2)

[教科書]

授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

文法事項の説明をしている間、予習は特に必要ではないが、毎授業後の復習は必ず行なうこと。
テクスト講読に入ってからは、必ず予習を行なうこと。

（その他（オフィスアワー等））

特になし。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学73

科目ナンバリング	G-LET25 76851 LJ38										
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(講読) West Asian History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 東長 靖				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水2	授業形態	講読	使用言語	日本語
題目	アラビア語講読										

[授業の概要・目的]

スーフィズム・タリーカ・聖者信仰を研究する際には、さまざまなジャンルの資料が必要となる。本講義では、これらの資料の代表的なものを順次取り上げ、講読していく。

[到達目標]

アラビア語の文献を読みこなす力を身につけることを目標とする。同時に、文献を読む際に必要な工具書・参考書の使い方も身につける。

[授業計画と内容]

上記の研究のためには、理論書、列伝・徳行伝、参詣書、年代記、系譜書、用語集など、さまざまなスタイルの資料を扱えるようになる必要がある。本講義では、年に１～２点程度の資料を取り上げ、丹念に読み込む訓練を行う。

以下のように講義を進める。
１．イントロダクション・テキストの決定
２～１４．テキスト講読
１５．全体のまとめ

講読の対象としては、以下のような書目が挙げられる。

これまでに本講義で取り上げてきた主要な書目は以下の通り。
【用語集】
クシャイリー「スーフィー派の言表とその意味の書」
カーシャーニー『スーフィー用語集』
【伝記】
ナブハーニー『聖者の奇蹟集成』より「アブー・アッバース・アフマド・ティジャーニー」
タシュキョプリュザーデ（ターシュクブリーザーダ）『オスマン朝のウラマーについての紅いアネモネ』
イブン・ザイヤート著『スーフィズムの徒へのまなざし』：マグリブの聖者伝
イブン・アラビー『聖霊』（2018）：アンダルスの聖者伝
【地理書】
ナーブルスィー『シリア・エジプト・ヒジャーズ地方の旅における本義と転義』
【理論書】
アブー・ハーミド・ガザーリー『宗教諸学の再興』：古典マニュアルの集大成
アブー・ナジーブ・スフラワルディー『修行者たちの作法』：修行論
アブドゥッラー・ボスネヴィー『叡智の台座注釈』：完全人間論。写本を読む練習を兼ねて
アフマド・ザッルーク『タサウウフの基礎』：理論書
ジャズーリー『信条』：神学書（マグリビー体の練習を兼ねて）
【詩】

西南アジア史学(講読)(2)へ続く↓↓↓

西南アジア史学(講読)(2)

イブン・アラビー『欲望の解釈者』：神秘主義詩

1回目の講義において、いくつかの候補を挙げ、何を選んで読むかを相談して決める。

[履修要件]

初級アラビア語を修得していること。

[成績評価の方法・観点]

平常点によって評価する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
東長靖 『イスラームとスーフィズム』（名古屋大学出版会）ISBN:978-4-8158-0721-4
ティエリー・ザルコンヌ 『スーフィー―イスラームの神秘主義者たち』（創元社）ISBN:978-4-422-21212-8（(豊富な図版が特徴。東長靖監修。)）
東長靖・今松泰 『イスラーム神秘思想の輝き－愛と知の探求』（山川出版社）ISBN:978-4-634-47475-8（前半はスーフィズム概説、後半はオスマン朝スーフィズム・タリーカ史。）
山内昌之・大塚和夫編 『イスラームを学ぶ人のために』（世界思想社）（I-4　東長靖「スーフィーと教団」参照。絶版なので、図書館で借りて下さい。）
西尾哲夫・東長靖編 『中東・イスラーム世界への30の扉』（ミネルヴァ書房, 2021年）ISBN:9784623091782（30のトピックから、現代のイスラーム世界を見る。）
その他、教室で指示する。

[授業外学修（予習・復習）等]

アラビア語の原典講読なので、入念な予習が必要である。辞書・参考図書を十分に活用すること。

（その他（オフィスアワー等））

講義前には、十分な準備が必要である。資料中に出てくるクルアーン、ハディースの引用などは、必ず出典を確認してくること。また、詩が出てくる場合も、韻律を調べること。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET25 76851 LJ38										
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(講読) West Asian History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　磯貝　健一				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	月2	授業形態	講読	使用言語	日本語
題目	ペルシア語講読 Reading Persian historical text										

[授業の概要・目的]

この授業では、ミールホンド（1498年没）が著した著名なペルシア語年代記『Raudat al-Safa』の一部を講読する。講読対象となるのは、ティムールによるシリア攻撃（1400-01年）を叙述する箇所である。本授業では、近世のイラン、中央アジアで作成された美文体ペルシア語年代記の読解能力の涵養を目指す。

In this course students read some parts of Raudat al-Safa, a famous Persian chronicle compiled by Mirkhwand (d. 1498). The parts that will be read in this course record the events which occurred during Timur's campaign toward Syria (1400-01). The main purpose of the course is to gain the ability to read Persian historical text written in the florid prose style common to almost all chronicles created in pre-modern Iran and Central Asia.

[到達目標]

ペルシア語の歴史文献を正確に読解することができる。

Upon the successful completion of this course, students will gain the ability to read Persian historical texts precisely.

[授業計画と内容]

第1回　授業ガイダンス、講読作品、および、時代背景の説明
第2回~第14回　同作品中、1400年から翌年にかけてのシリア攻撃に関する箇所を講読する
第15回　授業内容のまとめ、および、質問の受付と回答

Week 1: Explaining about Mirkhwand and his Raudat al-Safa
Weeks 2-14: Reading the parts of Raudat al-Safa concerning Timur's campaign toward Syria in 1400-01.
Week 15: Feedback and Discussion

[履修要件]

ペルシア語の基礎文法を習得していること。

Students are expected to have learned the basic grammar of Persian language.

西南アジア史学(講読)(2)へ続く↓↓↓

西南アジア史学(講読)(2)

[成績評価の方法・観点]

講読への取組と、事前準備の状況を基準として、平常点により評価する。

Participation in class and preparation for reading

[教科書]

使用しない
必要な資料をPDF化し、Web上で共有する。

Handouts will be shared through Google Drive

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回、必ず予習して授業に臨むこと。目安となる予習時間は、180分程度である。

Students will be required to make adequate preparations for reading the text (about 180 mins. for each class)

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学75

科目ナンバリング	G-LET25 76851 LJ38										
授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(講読) West Asian History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 教授　　稲葉　穣				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月2	授業形態	講読	使用言語	日本語
題目	前モンゴル期ペルシア語文献の解読										

[授業の概要・目的]

13世紀以前に書かれた古典ペルシア語文献の解読を通じて、イラン・イスラーム文化の初期の様相を学ぶ。

[到達目標]

11世紀にガズナ朝の書記アブー・アルファズル・バイハキーが著した歴史書『バイハキーの歴史』を題材に、イスラーム的な文化要素がどのようにイラン世界に根付いていったのか、逆にイラン世界はどのようにイスラーム化されたのかを理解することを目指す。

[授業計画と内容]

第一回　古典ペルシア語文献の全般的解説
第二回　『バイハキーの歴史』出現の背景についての解説
第三回～第十五回　ペルシア語テキストの会読

[履修要件]

近世ペルシア語文法をすでに学んでいること。できればペルシア語文献解読の経験があるほうが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

出席者には毎回訳註の作成を担当してもらうので、これを含めた平常点を80%、期末に提出してもらうレポートを20%で採点する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

出席者、とくに担当者はしっかりと予習し、訳注の原稿を作成して配布する準備をすること。

（その他（オフィスアワー等））

授業中に指示する。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET49 89604 LJ48										
授業科目名 <英訳>	アラブ語（初級）(語学) Arabic					担当者所属・職名・氏名	国立民族学博物館 グローバル現象研究部 教授 西尾　哲夫				
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	木3	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	アラビア語の初級										

[授業の概要・目的]

アラビア語は、西はモロッコから東はイラクまでの中東・北アフリカ諸国で使われており、およそ一億五千万人の母語となっている。またイスラム教（イスラーム）の聖典『コーラン（クルアーン）』はアラビア語で書かれているため、南アジア・東南アジア・中国などのムスリム（イスラム教徒）もアラビア語の知識をもっている。
この授業では、アラビア語の文字の書き方からはじめ、初級程度の文法事項をおしえる。

[到達目標]

アラビア文字が読めて書けるようになる。また基本的単語については、弱子音を語根に含む単語についてアラビア語の辞書が引けるようになる。基本的な文章表現について読む・書く・話すができるようになる。

[授業計画と内容]

（１）アラビア語についての概説（１回目）
（２）アラビア語学習法の概説（１回目）
（３）アラビア文字（２回目から５回目）
（４）名詞（３回目）
（５）冠詞（４回目）
（６）名詞の格変化（５回目）
（７）規則複数（６回目）
（８）形容詞の用法（７回目）
（９）疑問文（８回目）
（１０）場所の前置詞（９回目）
（１１）これまでの復習（１０回目）
（１２）存在文（１１回目）
（１３）国名とニスバ形容詞（１２回目）
（１４）数字の書き方と１～１０までの数詞（１３回目）
（１５）不規則複数（１）（１４回目）
（１６）色の表現（１５回目）
（１７）動詞完了形（１６回目）
（１８）辞書の引き方（１７回目）
（１９）不規則複数（２）（１８回目）
（２０）１１～１００までの数詞（１９回目）
（２１）これまでの復習（２０回目）
（２２）曜日の表現（２１回目）
（２３）動詞未完了形（２２回目）
（２４）名詞文と動詞文（語順）（２３回目）

アラブ語（初級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

アラブ語（初級）(語学)(2)

（２５）時間表現（２４回目）
（２６）比較表現（２５回目）
（２７）弱動詞（２６回目）
（２８）動詞派生形（１）（２７回目）
（２９）未来表現（２８回目）
（３０）動詞派生形（２）（２９回目）
（３１）これまでの復習と今後の学習方法（３０回目）

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点で評価する。出席を重視し、欠席が多い場合には単位を認めない。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
西尾哲夫 『言葉から文化を読む―アラビアンナイトの言語世界』（臨川書店）（とくに現代アラブ世界の言語状況についてふれた第１章）
西尾哲夫・東長靖 『中東・イスラーム世界への３０の扉』（ミネルヴァ書店）（中東・イスラーム世界の理解のために必読）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業毎に指示する。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET49 89608 LJ48										
授業科目名 <英訳>	イラン語（初級）(語学) Iranian					担当者所属・職名・氏名	京都外国語大学 外国語学部 非常勤講師 杉山　雅樹				
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	金2	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	イラン語（初級）										

[授業の概要・目的]

この授業の目的は、現在イランの公用語であるペルシア語（新ペルシア語）の基本文法や基礎単語を修得し、ペルシア語の古典文を読解するための基礎的な能力を獲得することである。

[到達目標]

基本的なペルシア語の文法規則・単語を習得することにより、平易な文章であれば自分で辞書を使用しつつ読むことができるようになる。また、ペルシア語による現代文と古典文との表現や文法的な違いを理解し、ペルシア語で書かれた歴史史料を読むための基礎的な能力を獲得する。

[授業計画と内容]

（前期）
第1回　イントロダクション、文字
第2回　発音と表記の注意点
第3回　名詞、基本的な文章、疑問詞
第4回　形容詞、エザーフェ、人称代名詞①
第5回　過去形、前置詞
第6回　現在形①、複合動詞①
第7回　現在形②、未来形、副詞①
第8回　現在完了形、命令形
第9回　仮説法、助動詞①
第10回　助動詞②、人称代名詞②、受動態
第11回　接続詞①②
第12回　関係詞、祈願文、副詞②
第13回　接続詞③、複合動詞②、過去分詞、現在分詞、その他
第14回　数詞
第15回　確認テスト、前期のまとめ、後期のテキストや予習の仕方について
（後期）
第16～18回　現代文（物語）の読解（1）～（3）
第19～21回　現代文（イランの教科書）の読解（1）～（3）
第22～29回　古典文（歴史史料）の読解（1）～（8）
第30回　フィードバック（詳細については授業内で指示する）

前期は、文字の読み方や書き方を練習しつつ、基本的な文法や単語を学ぶ。
後期は、まずイランの物語や教科書など現代のペルシア語で書かれたものを扱い、ペルシア語の文章を読むことに慣れておく。その後、前近代に書かれたペルシア語の歴史史料の中から比較的読み易い作品をテキストとして採り上げ、古典文を読むための基本的な能力を身に付ける。
原則として、前期の文法の授業では毎回復習のための小テストを行う。

イラン語（初級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

イラン語（初級）(語学)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点評価（前期と後期の合計で100点）
前期（基礎文法）：小テスト（25点）、確認テスト（25点）
後期（テキスト読解）：予習の取り組み（50点）

※各期で5回以上欠席した場合には、単位を認めない。

[教科書]

前期は文法事項をまとめたレジュメを毎回配布する。後期は講読するテキストのコピーをある程度まとめて事前に配布する。

[参考書等]

（参考書）
特に後期の授業では、黒柳恒男『新ペルシア語大辞典』(大学書林)などペルシア語辞書を用いて予習する必要がある。
その他の辞書や文法書など参考文献については、授業内で指示する。

[授業外学修（予習・復習）等]

文字の書き方、基本文法、基礎単語の修得が中心となる前期においては、毎授業後十分に復習をし、次の授業の冒頭に行われる小テストに備えること。
実際のテキストを使用して講読を行う後期においては、各自辞書で単語を調べて訳文を作成しておくなど、毎回時間をかけて予習することが必須である。

（その他（オフィスアワー等））

質問等があれば、sugiyama.masaki.25z@st.kyoto-u.ac.jpにご連絡下さい。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET49 89616 LJ48										
授業科目名 <英訳>	サンスクリット（２時間コース）(語学) Sanskrit(2H)					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 山口　周子				
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	月4	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	サンスクリット初級文法（２時間コース）										

[授業の概要・目的]

サンスクリット語は南アジア（インド）において、古くは紀元前1200年頃より、多くの文献資料を残してきた言語である。サンスクリット語の習得は、インドの宗教（仏教、ジャイナ教、ヒンドゥー教等）や哲学文献、文学の研究へと道を開く。また、サンスクリット語は、インド・ヨーロッパ語族に属し、その古さと文法・音韻の保守性から、インド・ヨーロッパ祖語の解明・理解に欠かせない重要言語であるため、言語学、西洋古典の学生、研究者にも有益である。

[到達目標]

このコースでは古典サンスクリット語の初級文法を習得し、基本的な文法事項と語彙を身につけることによって、平易なサンスクリット文章を読解する運用力を養成することをめざす。

[授業計画と内容]

以下の文法事項の解説と、各項目に関する練習問題による読解演習とを平行して行います。

前期
サンスクリット語概論、音論・連声(第1-3回)
名詞・形容詞曲用(母音語幹:第4-8回、子音語幹:第9-13回)
代名詞、数詞、複合語(第14-15回)

後期
動詞現在活用(第1種活用:第16-18、第2種活用:第19-22回)
未来、完了、受動、使役、アオリスト、準動詞(第23-29回)
年度末テスト（テスト期間）
フィードバック期間：フィードバック（第30回）

※ 授業の進行は受講生の理解度に応じて変更する場合があります。

サンスクリット（２時間コース）(語学)(2)へ続く↓↓↓

サンスクリット（２時間コース）(語学)(2)

[履修要件]

予備知識は特に必要としません。幅広い専攻からの受講を歓迎します。

[成績評価の方法・観点]

・平常点(練習問題への理解度（授業期間中に「確認テスト」を実施）、40点)
・年度末筆記試験(60点)

[教科書]

吹田隆道（編著）『実習サンスクリット文法：萩原雲来『実習梵語学』新訂版』（春秋社, 2015）ISBN:978-4393101728

[参考書等]

（参考書）
辻　直四郎 『サンスクリット文法』（岩波書店, 1974）ISBN:978-4000202220

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：各回の進捗状況に合わせて、原則として次の２つのいずれかを授業中に指示します。
・宿題として出された練習問題の解答（訳）を準備してくること。
・次回の学習テーマとなる文法事項について、テキストの解説に目を通しておくこと。

復習:授業内容を見直すこと（特に、練習問題で正解できなかった点を中心に見直す）。

※ 授業の進捗状況や受講生の理解度によって、変更する場合があります。基本的には、毎回の授業で指示します。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET49 89620 LJ48										
授業科目名 <英訳>	シュメール語（初級）(語学) Sumerian					担当者所属・職名・氏名	国士舘大学イラク古代文化研究所 特別研究員 森　若葉				
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	金1	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	シュメール語文法と楔形文字書記体系のしくみ、楔形文字文献の講読および内容の紹介										

[授業の概要・目的]

古代メソポタミア文明で話されていたシュメール語は、紀元前四千年紀末からおよそ三千年間にわたって数多くの資料を残す楔形文字言語である。

この言語は、複雑な動詞組織をもち、系統関係が不明な膠着語であることが知られている。本授業は、楔形文字で記されるシュメール語の文法と楔形文字文献について学ぶことを目的とする。

文法の解説とともに、最古の文字である楔形文字の成立としくみ、および系統不明の古代語であるシュメール語ほか楔形文字言語の解読についてもふれる。

比較的簡単なシュメール語資料の講読を行い、適宜、そのほかの資料についても内容の紹介をおこなう。死語となってのちに長期間にわたって書き継がれた言語の文法の問題点などもあわせて論じる。授業で扱うシュメール語資料は、王碑文、行政経済文書、裁判文書、文学作品、文法テキストを予定しているが、受講学生と相談し変更することもある。

[到達目標]

世界最古の文字で、その後三千年間古代メソポタミア世界の様々な言語を書き記した楔形文字の書記体系、およびシュメール語の基本的文法構造を理解する.

また、楔形文字で記されたシュメール語のさまざまな文献を実際に講読し、その内容を知ることにより、シュメール語文法と楔形文字についての知識を深める。

[授業計画と内容]

基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進みぐあいや受講学生の希望に応じ、順序やテーマは変更されうる。

＜前期＞楔形文字およびシュメール語文法の概説とともに、簡単な資料の講読を行う。粘土板および円筒印章を作成する実習を行う。

第1回　シュメール語の背景－メソポタミア文明の世界について
第2回　シュメール語と楔形文字について
第3回　楔形文字の解読と楔形文字で書かれた諸言語について（第3回）
第4回　楔形文字の成立としくみについて（第4-5回）
第5回　シュメール語文法（１）、楔形文字文献について
第6回　シュメール語文法（２）、王碑文を読む
第7回　シュメール語文法（３）、王碑文を読む
第8回　シュメール語文法（４）、行政文書を読む
第9回　楔形文字粘土板実習－粘土板を作成
第10回　シュメール語文法（５）、行政文書を読む
第11回　シュメール文学について
第12回　シュメール文学作品を読む（１）
第13回　シュメール・メソポタミアの「法典」紹介
第14回　裁判文書、行政文書を読む
第15回　シュメール文学作品を読む（２）

シュメール語（初級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

シュメール語（初級）(語学)(2)

＜後期＞
　文法概説と並行して下記文献の講読、資料の紹介を進めていく。総合博物館の許可のもと、博物館が所蔵する楔形文字粘土板の見学実習を行う予定である。
第1回　文献から見るシュメールの生活
第2回　シュメール語文法（６）、行政文書を読む
第3回　シュメール語文法（７）、行政文書を読む
第4回　シュメール語文法（８）、行政文書を読む
第5回　シュメール文学作品を読む（３）
第6回　シュメール語文法（９）、行政文書を読む
第7回　シュメール語文法・語彙文書概説、王碑文を読む
第8回　京都大学総合博物館所蔵資料紹介
第9回　京都大学総合博物館所蔵資料を読む
第10回　京都大学総合博物館粘土板見学実習
第11回　シュメール文学作品を読む（４）
第12回　シュメール文学作品を読む（５）
第13回　行政文書、王碑文を読む
第14回　行政文書、王碑文を読む
第15回　まとめ

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（講読の状況・授業中の発言）[20%]および学年末レポート（シュメール語文献の翻字・翻訳）[80%]を予定.

[教科書]

使用しない
　授業時に資料およびテキストのコピーを配布する.
　楔形文字粘土板実習の際、粘土等を各自用意してもらう必要がある。

[参考書等]

　（参考書）
授業中に紹介する
　授業時に資料およびテキストのコピーを配布する.

[授業外学修（予習・復習）等]

　事前に授業中に配布する資料に目を通してもらうことがある。また、文献講読については、授業前にシュメール語テキストの文字や単語について調べてきてもらうことがある。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

シュメール語（初級）(語学)(3)へ続く↓↓↓

シュメール語（初級）(語学)(3)

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学80

科目ナンバリング	G-LET49 89633 LJ48										
授業科目名 <英訳>	ヒンディー語（初級）(語学) Hindi					担当者所属・職名・氏名	白眉センター 特定助教 虫賀　幹華				
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	金4,5	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	ヒンディー語（初級）										

[授業の概要・目的]

インドは多言語国家であり、それぞれの州で公用語が定められている。その中でヒンディー語は、憲法第343条でインド全体の唯一の公用語とされている。中国語、英語に次いで世界で3番目に多く話されている言語であり、第一言語でなくともヒンディー語を解する人や、文法や基本語彙が同じ、パキスタンの国語であるウルドゥー語話者までを含めると、ヒンディー語でコミュニケーションを取れる相手は膨大な数になる。本授業では、今後世界の中でますます存在感を増すインドの公用語であるヒンディー語の初等文法を学び、簡単な文章の講読や会話の練習をする。
講師は北インドでの5年間の留学経験がある。ヒンディー語の独特の言い回しや語彙、ヒンディー語ならではの思考方法、文章の組み立て方があると実感した。日本語で考えてそれを「翻訳」するのでは全くしっくりこない。インドでは英語が通じると言われるが、英語を媒介にして行われるコミュニケーションはヒンディーで行われるそれとは別物である。インド人と深い意思疎通をしたいのならば、ヒンディー語を知ることが近道だろう。そして嬉しいことに、ヒンディー語を学べば「インド英語」も断然聞き取りやすくなる。インドや南アジアについて知りたい・関わりたい人はもちろん、将来国際的に活躍したい人にぜひ受講してもらいたい。今後、世界中のどこにいてもインド人と出会うだろうから。

[到達目標]

1. ヒンディー語の初等文法を習得する。
2. ヒンディー語の文章を、辞書を引きながら自力で読めるようになる。
3. 簡単なヒンディー会話ができるようになる。
4. ヒンディー語を通してインドの文化に触れ、世界認識の幅を広げる。

[授業計画と内容]

全20課から成る教科書を、原則として1課ずつ進めていく。各課は、新出単語、文法事項、文章から成り、それぞれを丁寧に解説する。他の参考書を使って補足説明をすることもある。毎回宿題を課し、次回授業で答え合わせをする。
教科書が一通り終われば、新聞や物語などヒンディー語の文章を読んだり、ヒンディー会話に挑戦してもらう。教材は、履修者の希望に応じて決める。例えば、ボリウッド映画に関心があれば映画の挿入歌を翻訳したり、インド料理に関心があればレシピを読解する。インドの社会問題に興味を持っているのならば関連の新聞記事を読む。インド旅行を計画している人がいればテーマを設定して会話の練習をする。

※注意※
前期は、講師の都合で1日に2コマ連続（金曜４・５限）で授業を行い、6月9日に試験とフィードバック（15回目授業）を行う。後期は通常通りで、毎週金曜5限に授業を行う。

前期
1. イントロダクション、文字

ヒンディー語（初級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

ヒンディー語（初級）(語学)(2)

2~3. 文字と発音
4~14. 文法の解説と文章の講読を教科書に沿って進める
＜前期・期末試験＞
15. フィードバック

後期
1~10. 文法の解説と文章の講読を教科書に沿って進める
11~14. ヒンディー語文章講読や会話の練習
＜後期・期末試験＞
15. フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（40%）と2回の筆記試験（30%ずつ）で評価する。授業への積極的な参加を期待する。

[教科書]

田中敏雄・町田和彦 『エクスプレス　ヒンディー語』（白水社、1986年）ISBN:4-560-00768-3（絶版のため入手困難。授業で配布する。）

[参考書等]

（参考書）
古賀勝朗・高橋明 『ヒンディー語＝日本語辞典』（大修館書店、2006年）ISBN:978-4-469-01275-0（履修前に辞書を購入する必要はない。）
町田和彦 『ニューエクスプレス　ヒンディー語』（白水社、2008年）ISBN:978-4-560-06791-8
Snell, Rupert and Simon Weightman 『Teach Yourself, Complete Hindi』（London: Hodder Education, 1989）ISBN:978-1-444-10609-1

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回課される宿題をきちんと行う。授業を受け、復習して宿題を行い、次回授業で答え合わせというサイクルで学習を進めること。ヒンディー語に限らず、インドの話題に関心を持ち、授業で共有してもらえると嬉しい。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学81

科目ナンバリング	G-LET49 89639 LJ48										
授業科目名 <英訳>	ヘブライ語（初級）(語学) Hebrew					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 手島　勲矢				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火3	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	ヘブライ語文法（初級）										

[授業の概要・目的]

ヘブライ語の文字、母音記号、聖書テキストの伝統、ラビ文学を含む歴史的な言語文化の概要とともに、文法の基礎（母音記号、名詞、人称代名詞、形容詞、前置詞、語根、分詞ほか）を教える。16－17世紀の文法学者の意見も紹介しながら、品詞の区別の意義や名詞文の特徴的構造に親しみ、さらに個々の文法事項がもつ聖書解釈上の意義についても解説する。

[到達目標]

ヘブライ語の文字と母音記号を認識して、文章を声に出して読めること。ヘブライ語作文ができること。辞書を使えるようになること。また簡単な名詞文の和訳ができること。

[授業計画と内容]

１．ヘブライ語の歴史（概観）、２．文字と母音記号、３.音節と区切り、４．形容詞と名詞（単数と複数）、５．形容詞と名詞（ジェンダーと性別他）、６．存在詞と非存在詞、７．現在分詞と名詞、８．語根とビニヤン（導入）、９．カルとニフアル、１０．ピエルとプアル、１１．ヒフィルとフファル、１２．ヒトパエルとニフアル、１３．人称代名詞と接尾辞、１４．一般と唯一、１５．まとめ

＊１課題あたり１～２回を当てる場合もある。
＊＊内容や順番は授業の進捗状況で多少変化することもある。
＊＊＊確認クイズは２～３回、学習の区切りで行う。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点評価・・・・宿題（２０％）、クイズ（３０％）、小テスト（５０％）

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業時に指示する暗記課題や練習問題をすること。授業で配布するコピーとハンドアウトの見直しノート整理すること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学82

科目ナンバリング	G-LET49 89640 LJ48										
授業科目名 <英訳>	ヘブライ語（中級）(語学) Hebrew					担当者所属・職名・氏名	非常勤講師 手島　勲矢				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火3	授業形態	語学	使用言語	日本語
題目	ヘブライ語文法（中級）										

[授業の概要・目的]

動詞（完了形・未完了形・命令形、時制など）のシステム及び動詞を含む文章構造の理解を中心にヘブライ語文法の基礎を学ぶ。語根別の共通変化パターン、および歴史的な語根の混同また時制システムの歴史的な問題を学ぶ。聖書テキストを含む色々な時代のテキストを声に出して読み、テキスト翻訳の中で注意するべき文法的な事項の認識を深める。また聖書テキストの中にある、言葉の結びつきと切り離しの伝統（タアメイ・ミクラー）の重要性も解説する。動詞の理解においては、16－17世紀の文法学者の意見も紹介する。

[到達目標]

動詞／完了・未完了の基本活用を覚えること。語根パターンが生む不規則変化を認識できること。完了・未完了・分詞を含むヘブライ語の文構造を理解し翻訳できること。聖書ヘブライ語の特殊な時制構造を理解すること。辞書を効果的に用いてテキストが複数の可能性で読めること。

[授業計画と内容]

１．名詞文と動詞の確認、２．名詞と動詞パラダイムの諸問題、３．完了形（基本）、４．未完了形（基本）、５．不定詞と命令形、６．レヴィータ文法（自動詞、他動詞）、７．レヴィータ文法（時制と時間）、８．語根／ギズラー、９．W倒置と北西セム語、１０．読解聖書、１１．読解ラビ文献、１２．読解中世文献、１３．読解近代文献、１４．読解現代文、１５．まとめ

＊１課題あたり１～２回の授業を要する場合もある。
＊＊進捗状況をみながら内容や順番は多少変化する。
＊＊＊学習の区切りで、2～3回の確認クイズをする。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点評価・・・宿題（２０％）、クイズ（３０％）、注解レポート（５０％）

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

ヘブライ語（中級）(語学)(2)へ続く↓↓↓

ヘブライ語（中級）(語学)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

授業時に指示する暗記課題やテキスト読解の予習をすること。授業で配布するコピーとハンドアウトの見直しノート整理すること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38										
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　講師　　安平　弦司				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	近世オランダにおけるカトリックとジャンセニスム論争										

[授業の概要・目的]

近世のオランダ共和国は、改革派（カルヴァン派）を唯一の公的教会とするプロテスタント国家であり、かつ多宗派共存社会でもあった。オランダのカトリック共同体は、差別的待遇を受けながらも17世紀の過程で再建されていったが、ジャンセニスム論争を経て、1723年にユトレヒト教会分裂を経験した。ジャンセニスムとは、近世カトリック教会内部で異端視された思想である。教会分裂により、オランダのカトリック共同体は、ローマ教皇に認可されるもプロテスタントのオランダ政府には否認されたローマ・カトリックと、教皇に否認されるもオランダ政府には認可された古カトリック（ジャンセニスト）に分裂し、両者の分断は現在も続いている。本講義では、ジャンセニスム論争を通じて、17・18世紀のオランダ共和国のカトリック共同体の復興と内部分裂を考察する。そうすることで、宗教改革後の近世ヨーロッパにおける複数宗派の共存・競合という問題を多角的に理解することを目的とする。

[到達目標]

・近世ヨーロッパにおける宗教的多様性を、プロテスタント国家オランダにおけるカトリック共同体の復興と内部分裂を通じて考察できるようになる。
・宗教問題、特にカトリックとジャンセニスム論争を通じて近世ヨーロッパを理解するための視座を得る。

[授業計画と内容]

第5回までの講義でオランダ共和国における宗派共存・競合についての概略を示した後、第6回以降でオランダ共和国におけるジャンセニスム論争を多角的に分析する。なお、受講生の反応や学習状況に応じて、授業内容を変更することはあり得る。
1. イントロダクション：近世オランダのカトリックについて学ぶ意義
2. オランダ共和国の成立とプロテスタント宗教改革 (1)
3. オランダ共和国の成立とプロテスタント宗教改革 (2)
4. オランダ共和国におけるカトリック共同体再興と対抗宗教改革 (1)
5. オランダ共和国におけるカトリック共同体再興と対抗宗教改革 (2)
6. ジャンセニスム論争の教会史 (1)
7. ジャンセニスム論争の教会史 (2)
8. ジャンセニスム論争の政治文化史 (1)
9. ジャンセニスム論争の政治文化史 (2)
10. ジャンセニスム論争の社会経済史 (1)
11. ジャンセニスム論争の社会経済史 (2)
12. ジャンセニスム論争の宗教文化史 (1)
13. ジャンセニスム論争の宗教文化史 (2)
14. ジャンセニスム論争の宗教文化史 (3)
15. まとめとフィードバック

西洋史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

西洋史学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

学期末のレポートによって、講義内容の理解度を評価する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業資料をもとに講義内容を復習し、疑問点があればそれを言語化しておくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38										
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	公立大学法人大阪公立大学大学院文学研究科 教授 草生　久嗣				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	西洋中世における異端問題とビザンツ帝国										

[授業の概要・目的]

西洋中世史上、11世紀より各地で展開した「中世異端」問題は、様々な論点を開示しつつ20世紀における西欧中世精神史を代表するトピックとなった。この成果に対し、正教会圏および東地中海世界での異端問題の諸相を取り込むことは、「中世異端」問題に新たな展望をひらき、西欧ローマ・カトリック世界における中世史理解を発展的に問い直す機会になると考えられる。

13世紀にアルビジョワ十字軍および異端審問制度に帰結した「民衆異端 popular heresy (Moore)」および「宗教運動 Religioese Bewegungen (Grundmann)」現象について、その淵源あるいは先駆として位置付けられがちなビザンツ帝国史上の諸異端、とくに「中世のマニ教（Runciman, Stoyanov）」の見直しに取り組む。その際、同時代において中世異端概念自体が構築されていく様に着目する「異端を見る眼（異端学）」の分析を踏まえる。

[到達目標]

具体的な事例とその学術的な評価の諸相について学び、従来、中世キリスト教世界が生み出したとされる「正統対異端」という表現について、ビザンツ・東地中海世界の心性を踏まえた解釈が可能になる。これまで一般的に考えられてきた「多数派対少数派」・「主流対傍流」といった二項対立的な枠組みに収まりえない多様性を伴っていたことを理解し、この歴史的知見の見直しが、現代に生きる我々の文化・精神・社会理解に役立たせるようになる。

[授業計画と内容]

第1回　導入：12世紀宗教改革における「正統と異端」
第2回　「異端者の群れ」―中世異端史論１
第3回　東地中海の異端概念―中世異端史論２
第4回　コンスタンティノープルのボゴミール派
第5回　バシレイオス事件の背景
第6回　「パノプリア」の12世紀―ビザンツ異端学１
第7回　「異端カタログ」から「異端史」へ―ビザンツ異端学２
第8回　イスラーム教派学（heresiology)―ビザンツ異端学３
第9回　コンスタンティノープルとローマ
第10回　異端に対する迫害と戦争
第11回　宗教的寛容の所在
第12回　新マニ教を見る眼
第13回　神学論争・イコノクラスムを見る眼
第14回　ムスリムを見る眼

西洋史学(特殊講義) (2)へ続く↓↓↓

西洋史学(特殊講義) (2)

第15回　総括：我々の「異端を見る眼」

※授業計画は一部変更になる可能性がある。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

レポート（100点）。詳細は授業中に説明する。
なお、成績評価は、到達目標に照らして行なう。

[教科書]

使用しない
資料を配布する。

[参考書等]

（参考書）
ヘルベルト・グルントマン（今野國雄訳）『中世異端史』（創文社、1974年）ISBN:4423493225（参照必要箇所は授業中に抜粋配布）
小田内隆『異端者たちのヨーロッパ』（NHK出版、2010年）ISBN:4140911654
ユーリー・ストヤノフ（三浦清美訳）『ヨーロッパ異端の源流―カタリ派とボゴミール派』（平凡社、2001年）ISBN:4582707130（参照必要箇所は授業中に抜粋配布）
渡邊昌美『異端カタリ派の研究―中世南フランスの歴史と信仰』（岩波書店、1989年）ISBN:4000001299（同上）
その他、授業中に随時紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

予習：関連文献を読み、授業内容へのイメージを膨らませておく。
復習：授業内容を批判的に復習する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィス・アワーにおける、対面での面談は木曜の授業後から３限までの時間帯に行う（日時や場所についてメールによるアポイントメント必要）。オンラインによる面談については、授業内で指示する。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38										
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	同志社大学文学部　教授 阿部　俊大				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火5	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	「レコンキスタ」の展開とその歴史的影響ー中世盛期を中心にー										

[授業の概要・目的]

西欧世界は、異文化との多様な接触の中で自己を形成してきた。本講義では、中世西欧が最も長期間に渡り恒常的な異文化接触を経験した場である中世イベリア半島（スペイン・ポルトガル）を題材に、特に最も激しい形態で異文化接触が展開された中世盛期を中心に、多様な異文化接触の実情と、その政治・経済・社会・文化への影響を分析する。中世イベリアのキリスト教諸国の中で最も人口に膾炙している、カスティーリャ＝レオン王国の事例を中心に取り上げ、ポルトガルやピレネー諸国の事例は適宜、比較対象として取り上げる。
中世西欧の国制とその発展過程について、日本では英仏独の事例がよく知られているが、他の地域の事例についての情報は乏しく、体系化もされていない。イベリア半島の事例を他の西欧諸国と比較しつつ学ぶことで、より複合的・多角的な視点から、中世西欧の国家や社会についての理解を深めることも可能となるであろう。

[到達目標]

イベリア半島と他の西欧諸国を対照しつつ、中世西欧の国制の発展、および異文化接触とその影響についての認識と理解を深めることができる。

[授業計画と内容]

初期中世のイスラーム＝スペイン【第１～２週】
（１）イスラームによる征服から後ウマイヤ朝成立へ
（２）イスラーム化の進行と後ウマイヤ朝の政体

初期中世のキリスト教諸国【第３～４週】
（３）イベリアの地理と”キリスト教”諸国：アストゥリアス＝レオン
（４）カスティーリャの勃興とキリスト教圏の再編

中世盛期における「レコンキスタ」の展開【第５～１５週】
（５）アルフォンソ６世の征服活動と異教徒統治
（６）イベリア半島の「教会」と西欧との交流の再開
（７）ムラービト朝とカスティーリャ＝レオンの危機
（８）キリスト教圏における再植民とその後世への影響
（９）トレードの翻訳活動
（１０）イベリア半島の国家意識：アルフォンソ７世・ピレネー諸国・ポルトガル
（１１）ムワッヒド朝の進出と騎士修道会
（１２）アルフォンソ８世の統治と戦争遂行型社会の形成
（１３）ローマ教皇庁の政策とイベリア諸国の再編

西洋史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

西洋史学(特殊講義)(2)

（１４）「大レコンキスタ」とアルフォンソ１０世の諸政策
（１５）全体のまとめ

[履修要件]

毎回多くの新しい知識を習得する必要があるため、学習能力・意欲に富む人が受講者として望ましい。

[成績評価の方法・観点]

毎回の小テスト・コメント（40%）と期末試験の成績（60%）。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
D.W.ローマックス 『レコンキスタ　中世スペインの国土回復運動』（刀水書房、1996年）
R.バートレット 『ヨーロッパの形成　950年ー1350年における征服、植民、文化変容』（法政大学出版局、2003年）
関哲行他 『世界歴史体系　スペイン史　１　古代ー中世』（山川出版社、2008年）
小林功他 『地中海世界の中世史』（ミネルヴァ書房、2021年）

[授業外学修（予習・復習）等]

参考文献にはできるだけ目を通すこと。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学86

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38										
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　助教　　竹下　哲文				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	ラテン語中級講読										

[授業の概要・目的]

ラテン語の初級文法を学んだ人を対象として，サッルスティウス『カティリーナの陰謀』（およびキケロー『カティリーナ弾劾演説』，『カエリウス弁護演説』）を教材に講読を行う．

[到達目標]

ラテン語散文に親しみ，基本的な感覚を身につける
語彙を増やし，複雑な文章にも対応できる力をつける
古代ローマの文化や歴史を理解する
辞書や注釈など工具書の扱いに習熟する

[授業計画と内容]

初級文法で学んだ内容を適宜振り返りつつ，実際の古典ラテン語原文の読解を進めていきます．熟語や類義語に注意を払いながら，辞書や注釈をどのように見ていくかといった点についても少しずつ習熟していくことを目指します．
第1回　イントロダクション
第2回～第14回　講読
第15回　フィードバック
※授業の進度によっては15回を講読に充てる場合もあります．

[履修要件]

ラテン語初級文法を既習得であること．

[成績評価の方法・観点]

平常点．

[教科書]

プリントを配布．

[参考書等]

（参考書）
Hans H. Ørberg 『Catilina ex C. Sallustii Crispi De Catilinae coniuratione libro et M. Tullii Ciceronis orationibus in Catilinam』（Edizioni Accademia Vivarium Novum 2019 (orig. 1999)）

[授業外学修（予習・復習）等]

テキストと注釈を読み，予習と復習を行うこと．

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学87

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38										
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　助教　　竹下　哲文				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	ラテン語中級講読										

[授業の概要・目的]

ラテン語の初級文法を学んだ人を対象として，前期に引き続き，サッルスティウス『カティリーナの陰謀』（およびキケロー『カティリーナ弾劾演説』，『カエリウス弁護演説』）を教材に講読を行う.

[到達目標]

ラテン語散文に親しみ，基本的な感覚を身につける
語彙を増やし，複雑な文章にも対応できる力をつける
古代ローマの文化や歴史を理解する
辞書や注釈など工具書の扱いに習熟する

[授業計画と内容]

初級文法で学んだ内容を適宜振り返りつつ，実際の古典ラテン語原文の読解を進めていきます．熟語や類義語に注意を払いながら，辞書や注釈をどのように見ていくかといった点についても少しずつ習熟していくことを目指します.
第1回　イントロダクション
第2回～第14回　講読
第15回　フィードバック
※授業の進度によっては15回を講読に充てる場合もあります.

[履修要件]

ラテン語初級文法を既習得であること.

[成績評価の方法・観点]

平常点.

[教科書]

プリントを配布.

[参考書等]

（参考書）
Hans H. Ørberg 『Catilina ex C. Sallustii Crispi De Catilinae coniuratione libro et M. Tullii Ciceronis orationibus in Catilinam』（Edizioni Accademia Vivarium Novum 2019 (orig. 1999)）ISBN: 9788895611259

[授業外学修（予習・復習）等]

テキストと注釈を読み，予習と復習を行うこと.

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学88

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38										
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 准教授　伊藤　順二				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	月2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	ロシア帝国末期のジョージア										

[授業の概要・目的]

19世紀後半から1905年までの帝政ロシア支配下の南コーカサス史を、ジョージア中心に概観する。

ロシア人がチェチェン人やジョージア人に抱くイメージは、少なくとも19世紀以来現代に至るまで、「高貴な野蛮人」あるいは単に「野蛮人」である。南コーカサスは帝政ロシア初の本格的植民地であり、オスマン帝国との最前線の一つでもあった。住民に対する民族学的視線は帝国の統治政策に直結すると同時に、「高貴な野蛮人」への文学的憧憬をも産み出した。一方、「治安の悪さで悪名高い」南コーカサスは、傭兵の輸出地としても名高く、義賊伝説に溢れ、スターリン等の革命家を輩出した地でもあった。本講義では帝国とジョージア人の関わりを主軸に、19世紀後半におけるナショナリズムと社会主義の相関関係について考えたい。

[到達目標]

ロシア帝国に関する基本的知識を習得し、帝国と植民地についての歴史的イメージを会得する。

[授業計画と内容]

第1回：イントロダクション
第2,3回：「半アジア人」
第4,5回：露土戦争
第6,7回：「ムスリムのジョージア人」の文字と宗教
第8,9回：油田とマンガン鉱山
第10,11回：マルクス主義サークル
第12,13回：義賊と革命
第14回：1905年
第15回：おわりに

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

期末レポート(80点)および中間レポート(20点)による。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

西洋史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

西洋史学(特殊講義)(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

各自、授業中に紹介する基本文献を読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは、月曜３限とする。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学89

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38										
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 准教授　伊藤　順二				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	第一次世界大戦期の南コーカサス										

[授業の概要・目的]

南コーカサスは「東部戦線」と並んでロシア帝国の最前線だった。ジョージアの社会主義者やアルメニアやアゼルバイジャンの民族主義者のほとんどは、第一次世界大戦開戦に際し、帝国の戦争に全面協力した。帝国の中心における革命は彼らにとって予期せぬ事件だったが、さまざまな構想を一気に開花させる力となった。本講義では南コーカサスにおける戦争と革命の経緯をジョージア中心にたどりつつ、ロシア革命なるものの影響力を再考したい。

[到達目標]

第一次世界大戦とロシア革命についての基礎的知識を習得するとともに、帝国・戦争・革命に対する歴史的洞察力を養う。

[授業計画と内容]

第1回：イントロダクション
第2,3回：ロシア1905年革命、イラン立憲革命、青年トルコ人革命
第4,5回：バルカン戦争と戦争準備
第6回：敵性国民としてのドイツ人
第7,8回：カフカス戦線と「アルメニア人問題」
第9,10回：社会主義者の戦争
第11回：ロシア革命とカフカス
第12回：ジョージア民主共和国の成立
第13,14回：民主共和国と地域問題
第15回：おわりに

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

期末レポート(80点)および中間レポート(20点)による。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

各自、授業中に紹介する基本文献を読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは、月曜３限とする。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38										
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	神戸大学大学院国際文化学研究科 講師 衣笠　太朗				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	ドイツ＝中東欧境界地域の歴史：シレジアを中心に										

[授業の概要・目的]

中世以降の「ドイツ」の歴史・文化・社会を、現在のドイツ領域のみならず、広く旧ドイツ領やドイツ語圏の広がりをも踏まえつつ多角的に概観する。本講義では、主にシレジア（シュレージエン／シロンスク）地方に着目して授業を進める。19世紀初頭のナポレオンによるヨーロッパ中央部の支配以来、いわゆるドイツ地域ではドイツ・ナショナリズムが興隆し、1848年革命を経て、1871年のドイツ帝国創設＝統一国家成立へと至ることになる。しかし、この19世紀以降のドイツ統一国家の形成・展開過程では、多様な言語・文化・宗派・帰属意識を持つ人々が入り乱れることになったがために、そこに居住する人々をめぐって包摂と排除が繰り返された。本講義では、そうした「ドイツ」の多様性や包摂・排除の側面に光を当てながら、シレジア地方の歴史について見ていくこととする。

[到達目標]

・近現代のシレジア地方の歴史・社会・文化を学び、それを現代のドイツ＝中東欧やヨーロッパのあり方と比較・対照しながら、両者の共通点・相違点について理解できるようになる。

[授業計画と内容]

第1回　導入：「ドイツ」「中東欧」とは何か
第2回　通史①：中世のシレジア地方
第3回　通史②：近世のシレジア地方
第4回　通史③：近代のシレジア地方
第5回　通史④：近現代のシレジア地方
第6回　シレジアの分離主義運動①：先行研究と分析手法
第7回　シレジアの分離主義運動②：歴史的前提
第8回　シレジアの分離主義運動③：カトリック社会思想
第9回　シレジアの分離主義運動④：混血国民論
第10回　シレジアの分離主義運動⑤：史料の取り扱い
第11回　シレジアの分離主義運動⑥：運動の立ち位置
第12回　シレジアの分離主義運動⑦：大オーバーシュレージエン自由国
第13回　シレジアの分離主義運動⑧：自治構想と分離主義
第14回　シレジアの分離主義運動⑨：運動の終結
第15回　総括とフィードバック

[履修要件]

授業に参加する前提として、ドイツ史や中東欧史の大まかな流れについて概説書などで予習しておくことが望ましい。

西洋史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

西洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポート（60点）、授業への参加状況（40点）
・授業の最後に授業の理解度をはかるためのコメントペーパーを書いてもらうので、その内容により授業への参加状況を判断する。
・期末にレポートを課す。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
衣笠太朗『旧ドイツ領全史――「国民史」において分断されてきた「境界地域」を読み解く』（パブリブ、2020年）ISBN:4908468443

[授業外学修（予習・復習）等]

・授業で関連文献を紹介するので、それらを読んで授業内容の理解を深めるよう努めること。

（その他（オフィスアワー等））

質問については、コメントペーパーで受け付けます。メールでの質問も受け付けますので、必要に応じtkinugasa@harbor.kobe-u.ac.jpにメールしてください。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38										
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　佐藤　公美				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	金3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	中世ヨーロッパの政治反乱										

[授業の概要・目的]

本講義のテーマは、中世ヨーロッパの政治反乱をめぐる諸論点である。
国家、国家的な諸権力、統治者、支配者に向けられる反乱は、政治行為であるとともに、人間集団の慣習的行為と世界観に根差した広義の文化である。それゆえ、社会史や文化史研究の主要研究テーマの一つであり、また中世の政治と国家をボトムアップの視点からとらえることを可能にしてくれる私たちに開かれた数少ない窓の一つでもある。
本講義ではこのテーマに関わる研究史上の諸論点を概観し、課題と展望を考察する。

[到達目標]

(1)中世ヨーロッパの国制史、政治社会史、政治文化史の基本的な事項や研究史上の論点を理解することができる。
(2)（1）について、適切な参考文献を活用しながら考察を深め、自らの言葉で論理的に説明することができる。

[授業計画と内容]

基本的に以下の計画に沿って授業を進めるが、講義の進展に応じて変更がありうる。

第1回 イントロダクション――なぜ中世ヨーロッパの政治反乱を学ぶのか
第2～3回 「革命」か「反乱」か――中世の政治的変革をめぐる諸論点
第4回 祝祭・慣習・集合心性――歴史人類学的社会史における反乱
第5回 民衆・エリート・社会移動
第6～8回 中世国家論と政治反乱
第9～10回 暴力とコミュニケーション
第11～12回　集団・同盟・ネットワーク
第13回　反乱の主体
第14回　空間とスケール
第15回　フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

レポートにより評価する。

[教科書]

使用しない

西洋史学(特殊講義) (2)へ続く↓↓↓

西洋史学(特殊講義) (2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

・特に履修要件は定めないが、高校世界史の中世ヨーロッパに関する部分の基礎知識を身に着けていることが望ましい。その不足を感じる場合には自ら参考書等で学習し補ってほしい。
・随時紹介する参考文献や授業中に配布する資料に目を通すこと。その他、関連する文献や資料を各自主体的に読み進めていくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

質問その他は授業後やオフィスアワーに受け付けます。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38										
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　佐藤　公美				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	金3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	中世イタリアの反乱の政治文化と社会										

[授業の概要・目的]

本講義のテーマは、中世後期イタリアの政治反乱である。

中世のイタリアでは、都市コムーネとそこから展開する領域国家を舞台に、高度な政治文化が発達し、広範な層の人々が「政治」行為に関与した。本講義ではそのような政治文化の一環として、中世後期にイタリア半島の人々を動かした政治「反乱」を取り上げる。

具体的には、成長する諸領域国家と教会の緊張関係の中で、14世紀の教会国家領で生じた反乱を、一つの国家を越えたネットワークと半島内諸国家関係に焦点を当てて検討する。そして成長する国家権力、諸国家の相互関係と同盟、聖俗の権力の再編の複雑な絡み合の中で、国家、君主、党派、戦争、共通善という諸問題を貫く中世の政治行為としての反乱がなぜ、いかにして成立したかを、イタリア半島の固有の文脈の中で理解した上で、中世ヨーロッパ政治史の中に位置付けることを目指す。

[到達目標]

1. 中世イタリアとヨーロッパの国制史、政治社会史、政治文化史に関する基本的事項を理解する。

2. 中世イタリア半島の具体的な文脈の中で、政治反の原因、条件、現象形態の特徴を理解する。
3. 2の理解を中世ヨーロッパ史のより広い文脈の中で理解する。
4.1〜3について、適切な参考文献を活用しながら理解と考察を深め、自らの言葉で論理的に説明することができる。

[授業計画と内容]

基本的に以下の計画に沿って授業を進めるが、講義の進展に応じて変更がありうる。

第1回　イントロダクション――なぜ中世イタリアの政治反乱を学ぶのか
第2〜3回　中世イタリア半島の反乱をめぐる研究史上の諸論点及び課題と展望
第4〜7回　中世イタリア半島の政治と国家――都市コムーネ、「シニョリーア」、領域国家と諸国家間関係のシステム
第8〜9回　分裂・暴君・共通善――あるべき統治とグェルフィとギベッリーニをめぐる諸問題
第10回　教会国家とイタリア半島
第11〜14回　八聖人戦争と中北部イタリアの政治反乱
第15回　フィードバック

[履修要件]

特になし

西洋史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

西洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

レポートにより評価する。

[教科書]

使用しない
授業中にプリントを配布し、随時参考文献を紹介する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

・特に履修要件は定めないが、高校世界史の中世ヨーロッパに関する部分の基礎知識を身に着けていることが望ましい。その不足を感じる場合には自ら参考書等で学習し補ってほしい。
・随時紹介する参考文献や授業中に配布する資料に目を通すこと。その他、関連する文献や資料を各自主体的に読み進めていくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

質問その他の相談はオフィスアワーの他随時受付ます。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38										
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 教授　　小関　隆				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	第二次世界大戦と現代世界										

[授業の概要・目的]

いうまでもなく、第二次世界大戦はその後の現代世界を強く方向づける出来事であった。最新の研究水準に則してこの戦争を理解することは、現代世界に身を置き、それを乗り越えようとする人々にとって、基礎的な教養といってもよい。主としてヨーロッパ現代史の文脈に据えて、きわめて複合的な第二次世界大戦の全体像を把握し、このトラウマ的経験がその後の世界に与えた影響を考察することが授業の課題となる。なお、2023度の授業は2022年度の改訂版であり、重複する内容が多く含まれる。

[到達目標]

高度な複合性を特徴とする第二次世界大戦をトータルに把握し、この戦争がその後の現代世界の展開に及ぼした甚大な影響を理解する能力を身に着けること。

[授業計画と内容]

(1) 第二次世界大戦とは（３回）
(2) 1930年代のヨーロッパ（２回）
(3) 第二次世界大戦の展開①1939年９月～1941年12月（３回）
(4) 第二次世界大戦の展開②1941年12月～1943年２月（３回）
(5) 第二次世界大戦の展開③1943年２月～1945年８月（３回）
(6) 総括（１回）

授業の進捗に応じて変更する可能性がある。また、フィードバックについては別途指示する。

[履修要件]

前期・後期の授業を通年で受講することが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

学期末のレポートによって評価する。

西洋史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

西洋史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

自分の関心に合わせて、第二次世界大戦関連の書籍や映画、音楽、等に触れるよう日頃から心がけること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38										
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 教授　　小関　隆				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	中立という選択肢：アイルランドの第二次世界大戦										

[授業の概要・目的]

前期の授業を受け、第二次世界大戦というグローバルな動乱の中で中立のスタンスをとることの意味を、アイルランド（厳密には北アイルランドを除くエール）の経験を通じて考える。この授業もまた2022年度の改訂版であり、重複する内容が多いが、2023年度は特に、エールの首相としてイギリスとアメリカから執拗な参戦圧力を受けながらも中立を堅持したエールの首相デ・ヴァレラに注目する。20世紀の戦争において中立はどれほど有効な選択肢たりうるか、授業の中核的な問いはこれである。

[到達目標]

中立国の視点から第二次世界大戦を把握すると同時に、中立というスタンスに伴う困難とその可能性を理解する能力を身に着けること。

[授業計画と内容]

(1) 第二次世界大戦の中立国（１回）
(2) アイルランド・ナショナリズムとデ・ヴァレラ（２回）
(3) 中立の選択（１回）
(4) 「緊急事態」の到来（１回）
(5) 検閲国家（１回）
(6) ドイツの脅威（１回）
(7) 参戦圧力と南北統一（１回）
(8) アメリカン・ファクター（１回）
(9) 「友好的中立」と戦争協力（１回）
(10) 北アイルランドの大戦経験（１回）
(11) 戦後（１回）
(12) 「デ・ヴァレラのアイルランド」（１回）
(13) 総括（１回）

授業の進捗に応じて変更する可能性がある。また、フィードバックについては別途指示する。

[履修要件]

前期の授業を受講していることが望ましい。

西洋史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

西洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学期末のレポートによって評価する。

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

次の文献をあらかじめ読んでおくことが望ましい。

小関隆『アイルランド革命、1913-23：第一次世界大戦と二つの国家の誕生』（岩波書店、2018年）

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学95

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38										
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 准教授　藤原　辰史				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	食と農の現代史										

[授業の概要・目的]

とりわけ２０世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？　ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来の構築するためのヒントを考えることである。

[到達目標]

現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティヴでとらえることができるようになる。

[授業計画と内容]

以下の課題について、１週から３週かけて講義する予定である（全15回）
1　食をめぐる研究の方法
2　明治大正期の食
3　アジア太平洋戦争までの食
4　戦後の食
5　牛乳の歴史学
6　品種改良の歴史学
7　フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

学期末にレポートを課す。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』
藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』
藤原辰史 『ナチスのキッチン』
藤原辰史 『カブラの冬』
ポール・ロバーツ 『食の終焉』

西洋史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

西洋史学(特殊講義)(2)

藤原辰史『給食の歴史』

（関連ＵＲＬ）

http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/

[授業外学修（予習・復習）等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASIS**で確認してください。**

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38										
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 准教授　藤原　辰史				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	食と農の現代史										

[授業の概要・目的]

とりわけ２０世紀以降、食と農はどのように変化を遂げてきたのか？　ドイツと日本を中心に、食べものをめぐる制度や文化や技術の変遷を追う。この講義の目的は、現代史の知識を蓄えることではない。あるいは、現代史の概略をつかむことでもない。現代史を批判的に眺める目を獲得し、食と農の未来の構築するためのヒントを考えることである。

[到達目標]

現代史における食と農の変遷について理解し、現代社会の食と農の問題を広いパースペクティヴでとらえることができるようになる。

[授業計画と内容]

以下の課題について、１週から３週かけて講義する予定である（全15回）
1　食糧戦争としての第一次世界大戦
2　有機農業の歴史
3　毒ガスと農薬の歴史
4　トラクターの歴史
5　戦時期の農村女性たち
6　食糧戦争としての第二次世界大戦
7　フィードバック

[履修要件]

前期の授業を受講しているものとして授業を進める。

[成績評価の方法・観点]

講義の終わり頃に筆記試験を課す予定

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
池上甲一・原山浩介編 『食と農のいま』
藤原辰史 『稲の大東亜共栄圏』
藤原辰史 『ナチスのキッチン』
藤原辰史 『カブラの冬』
ポール・ロバーツ 『食の終焉』

西洋史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

西洋史学(特殊講義)(2)

藤原辰史『給食の歴史』

（関連ＵＲＬ）

http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~fujihara/

[授業外学修（予習・復習）等]

食と農に関する新聞・雑誌記事を読んで、現代社会の食と農への関心を深めておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASIS**で確認してください。**

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38										
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	同志社大学文学部　助教 岸本　廣大				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	月4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	「国際社会」としての古代ギリシア――ポリスや連邦の外交――										

[授業の概要・目的]

古代ギリシアは、ポリスをはじめ、多様な共同体が並存し、相互にやりとりする「国際社会」であった。本講義では、そのような理解を前提に、古代ギリシア世界の共同体の特徴と、それらによって展開された外交的やりとりについて学ぶ。具体的には、古典期からローマ時代まで（およそ前5世紀～紀元2世紀）のポリスや連邦を対象とし、条約、諸特権の付与、紛争解決、使節演説といったトピックごとに講義する。それらを通じて、アテナイやスパルタといった特定の共同体の歴史ではない、「国際社会」としての古代ギリシアの特質を、歴史学的に理解することが、本講義の目的となる。また、そうした古代ギリシアの特質が、近現代においてどのように受容されたのかについても本講義では扱いたい。それによって後世における歴史の利用や可変的な一面について理解し、歴史に対する批判的な見方を学ぶことも目的の一つとなる。

[到達目標]

(1)古代ギリシア史の基本的な事項や研究史上の論点を理解することができる。
(2)古代ギリシアの共同体の特徴および外交活動について、史料に基いて理解し、その意義を歴史学的に考察することができる。
(3)近現代における古代史の受容を理解し、歴史の利用に対して批判的に考えることができる。
(4)以上の(1)～(3)について、参考文献を活用しながら、自らの言葉で説明することができる。

[授業計画と内容]

具体的には以下のように進めるが、受講生の理解度などに応じて、順番や内容を変更する可能性がある。

1.イントロダクション――古代ギリシア史の概説とそれを学ぶ意義
2.ポリスとは何か？――コペンハーゲン・ポリス・センターの研究から
3.連邦とは何か？――最新の研究動向から
4.条約と「独立」（１）「普遍平和」
5.条約と「独立」（２）アウトノミア
6.特権の相互付与（１）プロクセニア
7.特権の相互付与（２）市民権
8.紛争解決（１）仲裁
9.紛争解決（２）外国人判事
10.使節の演説（１）使節を務めた「国際人」
11.使節の演説（２）外交演説使節の演説
12.外交におけるコミュニケーションとメディア
13.ローマ支配下における「外交」（１）リュキア（小アジア）
14.ローマ支配下における「外交」（２）ギリシア本土
15.近現代における古代ギリシア史の「受容」
※フィードバックの方法は、授業中に説明します。

西洋史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

西洋史学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

・期末レポート(60点)
　提示されたテーマについて、講義の内容を踏まえ、参考文献を活用したうえで、自身の考えを論理的に述べることができるかを問う。
・平常点(40点)
　毎回、講義の内容に関する課題を出す。課題は毎回授業の最初に提示し、対面授業であればその授業の最後に、オンライン授業であればPandAなどで1週間を目安に提出してもらう。それを通じて、講義の内容の理解度を確認する。なお、課題への回答に加えて、講義内容についての質問などを書いてもよい。その内容に応じて適宜加点することもある。

[教科書]

毎回講義の内容をまとめた資料を、PandAなどを通じて配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

・毎回出す課題については、次回の授業の冒頭で解説と前回の内容の復習を行うので、課題を中心に授業内容を復習して理解を深め、さらに参考文献などを読んで自分なりの考えをまとめておくこと。
・毎回の授業で示す参考文献に可能な限り目を通し、予習すること。

（その他（オフィスアワー等））

講義に関する質問には、授業後に対応します。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学98

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38										
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	京都女子大学文学部　教授 桑山　由文				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	ローマ帝政前期のアテネとギリシア知識人										

[授業の概要・目的]

ローマ帝国は共和政期半ばの前2世紀以降，東方ギリシア文化圏への支配を拡大していった。本講義はとくにギリシア本土のアテネに焦点をあて，この都市がローマ帝政前期にいかなる変容を遂げていったのかを検討すると同時に，ギリシア文化圏出身の知識人がそうしたアテネ，さらにはローマ帝国中央とどのような関係を築いていたのかを検討する。

[到達目標]

ローマ帝国支配下のギリシア文化圏およびその史的展開について一定の認識を得ることを到達目標とする。

[授業計画と内容]

以下のような流れで実施する。

1. ガイダンス（1回）
2. 共和政期ローマ帝国の東方進出（2回）
3. アウグストゥス一族とアテナイ（4回）
4. 「アテネ」への変容：1，2世紀ローマ帝国の東方統治とギリシア知識人（6回）
5. 期末試験・フィードバック（2回）＊フィードバック方法は授業中に説明

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

学期末の筆記試験（80点）――講義内容に即した記述ができているかどうかと，到達目標の達成度とに基づき評価する。
平常点（20点）――講義中に何度か行うミニレポートおよび授業態度

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

講義内容，配布資料について，授業前に見直しておくこと。授業中に別途指示することもありうる。

（その他（オフィスアワー等））

講義内容に関して不明な点があれば，積極的な質問を期待する。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38										
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　金澤　周作				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	二つの世界大戦と国際人道支援――イギリスのNGOに注目して										

[授業の概要・目的]

イギリス史上に顕著な活発なチャリティ活動は、その範囲を国内に限ることなく、帝国全土および世界にまで広がっていた。この文脈を踏まえたうえで、本講義では二つの世界大戦をはさむ時期に実践された国際人道支援の具体的な諸相を、主として３つのイギリス系国際NGOに注目して描いていく。相互不信と敵意で引き裂かれた世界で、民間の「善意」がいかなる意味を持ち得たのかを検討する。国家や国民とは異なる主体に即して戦争と平和の歴史を考えたい。

[到達目標]

国際NGOの活動に触れることを通して、二つの世界大戦に彩られた20世紀前半の歴史的な特徴を理解することを到達目標とする。

[授業計画と内容]

大づかみに構図を把握した方が理解が進むので、以下のテーマに従って、講義を進める。

１．序論――授業のねらい
２．序論――コンテクストの説明
３．三つのNGO――イギリス赤十字
４．三つのNGO――セーブ・ザ・チルドレン
５．三つのNGO――オックスファム
６．20世紀初頭
７．戦前期
８．第一次世界大戦
９．戦間期――ヨーロッパ
１０．戦間期――世界
１１．第二次世界大戦――イギリス
１２．第二次世界大戦――イギリス以外
１３．戦後期
１４．結論と展望
１５．フィードバック

[履修要件]

特になし

西洋史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

西洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学期末に筆記試験をおこない、その結果にもとづいて成績を評価する。
論述試験によって授業の内容にかんする理解度を確認し、到達目標に照らして達成度を判定する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
金澤周作 『チャリティの帝国――もうひとつのイギリス近現代史』（岩波新書、2021年）

[授業外学修（予習・復習）等]

配布する資料を予習・復習に用いることができる。また、授業でとりあげる時代と地域の概要を、歴史地図・年表や概説書などで、その都度確認しておくと理解が深まるであろう。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET26 66931 LJ38										
授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　金澤　周作				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	ポスト・ナポレオン期の国際秩序とバーバリ諸国問題――イギリスのチャリティ団体に注目して										

[授業の概要・目的]

19世紀初頭に、長く続いた大西洋での黒人奴隷貿易と、地中海での「もうひとつの奴隷貿易」、すなわち北アフリカのバーバリ諸国による白人の虜囚化と身代金ビジネスは、ナポレオン戦争終結後に形成される新たな国際秩序において、原則として否定された。本講義では、あるイギリスのチャリティ財団が行った19世紀初頭の虜囚救出実践から、国際的な「もうひとつの奴隷貿易」禁止のプロセスと大西洋奴隷貿易の廃止、そして新たな国際秩序の形成のかかわりを究明する。

[到達目標]

相対的に知られていない「もうひとつの奴隷貿易」の基本的な知識を獲得するとともに、ポスト・ナポレオン期の国際秩序の特性を理解できるようになる。

[授業計画と内容]

大づかみに構図を把握した方が理解が進むので、以下のテーマに従って、講義を進める。

１．序論――授業のねらい
２．序論――コンテクストの説明
３．近世地中海とは
４．白人奴隷の表象
５．白人奴隷の実態
６．ベットン財団の起源
７．ベットン財団の活動
８．19世紀初頭の虜囚救出実践――サプライズ号
９．19世紀初頭の虜囚救出実践――アレクサンダー号
１０．19世紀初頭の虜囚救出実践――テーシス号
１１．19世紀初頭の虜囚救出実践――モンテスマ号
１２．国際秩序とバーバリ諸国――モロッコ
１３．国際秩序とバーバリ諸国――アルジェ、トリポリ、チュニス
１４．結論と展望
１５．フィードバック

[履修要件]

特になし

西洋史学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

西洋史学(特殊講義)(2)

[成績評価の方法・観点]

学期末に筆記試験をおこない、その結果にもとづいて成績を評価する。
論述試験によって授業の内容にかんする理解度を確認し、到達目標に照らして達成度を判定する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
田中きく代、他（編）『海のグローバル・サーキュレーションーー海民がつなぐ近代世界』（関西学院大学出版会）

[授業外学修（予習・復習）等]

配布する資料を予習・復習に用いること。また、授業でとりあげる時代と地域の概要を、歴史地図・年表や概説書などで、その都度、確認しておくと理解が深まるであろう。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学101

科目ナンバリング	G-LET26 76971 SJ38										
授業科目名 <英訳>	西洋史学（演習I） European History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　藤井　崇				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	金5	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	西洋史学演習 I（西洋古代史演習）										

[授業の概要・目的]

この授業は、ギリシア・ローマ史を中心とする西洋古代史の研究を本格的におこなう能力を養成することを目的とする。主に外国語で書かれた一次史料ならびに二次文献を分析することで、基本的な歴史的事象やこれまでに学界で議論されてきた代表的論点を学び、自身で歴史学的課題を設定し、それを解決する能力を涵養する。また、研究の成果を口頭・文書で論理的に表現し、他の研究者と意義あるディスカッションをおこなう技能の獲得も目指す。一部を同時双方向型メディア授業とし、多様な素材を通じて西洋古代史をより深く理解することも目的の一部とする。

[到達目標]

西洋古代史の広範な歴史的事象と歴史学的論点を理解することで、自身の研究をさらに発展させる。一次史料と二次文献を批判的に分析し、その成果を自身の研究に取り入れ、国際レベルでの研究者となる基礎を形成する。

[授業計画と内容]

おおむね以下の内容に従って演習を進めていく。ただし、報告割当の都合などで、各内容の順番は前後する可能性がある。

前期の演習では、前年度に引き続き、古典期・ヘレニズム期の経済史を刷新したAlain Bresson, The Making of the Ancient Greek Economy (2016）を講読する。講読にあたって、一次史料の分析を組み合わせることで、基礎的な歴史的知識を養うと同時に、これまで学界で議論されてきた重要な論点の意義と将来性を見抜く能力を獲得する。各受講生は、この演習での経験をもとに、各自の研究の深化を図ってほしい。

1. イントロダクション（同時双方向型メディア授業、1回）
2. テクスト前半部の復習と遺跡等紹介（同時双方向型メディア授業、2回）
3. テクスト講読と遺跡等紹介（同時双方向型メディア授業、3回）
4. 受講生の研究報告（対面授業、8回、7月15日（土）と7月22日（土）に行う）
5. まとめ・フィードバック（1回）

[履修要件]

西洋古代史の分野で研究をおこなう大学院生の出席を授業の前提とする。

[成績評価の方法・観点]

報告分担時の報告内容、ディスカッションへの参加などを総合的に勘案し、到達目標の達成度を基準として、平常点で評価する。

[教科書]

使用するテクストは授業初回で紹介し、進行にあわせて準備する。

西洋史学（演習I）(2)へ続く↓↓↓

西洋史学（演習I）(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

基本テクスト、一次史料、個別論文の予習が不可欠となる。大学院生は、関連する一次史料、二次文献も積極的に活用すること。さらに、この演習での経験をもとに、自身の研究の発展を目指す必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学102

科目ナンバリング	G-LET26 76971 SJ38										
授業科目名 <英訳>	西洋史学（演習I） European History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　藤井　崇				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	金5	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	西洋史学演習 I（西洋古代史演習）										

[授業の概要・目的]

この授業は、ギリシア・ローマ史を中心とする西洋古代史の研究を本格的におこなう能力を養成することを目的とする。主に外国語で書かれた一次史料ならびに二次文献を分析することで、基本的な歴史的事象やこれまでに学界で議論されてきた代表的論点を学び、自身で歴史学的課題を設定し、それを解決する能力を涵養する。また、研究の成果を口頭・文書で論理的に表現し、他の研究者と意義あるディスカッションをおこなう技能の獲得も目指す。一部を同時双方向型メディア授業とし、多様な素材を通じて西洋古代史をより深く理解することも目的の一部とする。

[到達目標]

西洋古代史の広範な歴史的事象と歴史学的論点を理解することで、自身の研究をさらに発展させる。一次史料と二次文献を批判的に分析し、その成果を自身の研究に取り入れ、国際レベルでの研究者となる基礎を形成する。

[授業計画と内容]

おおむね以下の内容に従って演習を進めていく。ただし、報告割当の都合などで、各内容の順番は前後する可能性がある。

後期の演習では、受講生が順に各自の研究報告をおこなう。その際、それぞれのテーマに関係の深い文献を、受講生全員で講読する。

1. 受講生の研究報告と関連文献の講読ならびに遺跡等の紹介（同時双方向型メディア授業、6回）
. 受講生の研究報告と関連文献の講読（対面授業、8回、1月27日（土）と1月28日（日）に行う）
3. まとめ・フィードバック（1回）

[履修要件]

西洋古代史の分野で研究をおこなう大学院生の出席を授業の前提とする。

[成績評価の方法・観点]

報告分担時の報告内容、ディスカッションへの参加などを総合的に勘案し、到達目標の達成度を基準として、平常点で評価する。

[教科書]

使用するテクストは授業初回で紹介し、進行にあわせて準備する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

西洋史学（演習I）(2)へ続く↓↓↓

西洋史学（演習I）(2)

[授業外学修（予習・復習）等]

基本テクスト、一次史料、個別論文の予習が不可欠となる。大学院生は、関連する一次史料、二次文献も積極的に活用すること。さらに、この演習での経験をもとに、自身の研究の発展を目指す必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET26 76972 SJ38										
授業科目名 <英訳>	西洋史学（演習II） European History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　佐藤　公美				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	金5	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	西洋史学演習　II　（西洋中世史演習）										

[授業の概要・目的]

本演習では、ヨーロッパ史に関係する欧米の相対的に新しい英語研究文献を読解し議論する。これにより英語で専門研究文献を精読する力を養うとともに、現在の歴史学方法論、解釈理論、史料論、および研究上の諸論点を学び、理解を深め、ヨーロッパ史についての基本的な知識を身に着ける。本演習では中世史を中心に扱うが、テキストの一部は近世も対象としてる。

今回のテーマは中・近世における「領土territory」である。

「領土」とは何だろうか。歴史学のみならず、広く人文諸科学において「領土」は近代主権国家論の中核をなす。近年の前近代史研究は「領土」に対する排他的統治権を行使する主権国家概念を、前近代の現実に基づいて批判的に乗り越えてきた。「領土」は「西洋近代」の思考と行動の枠組みとと不可分に結びついているが故に、歴史学を越えて思想、文化、社会を扱う諸分野を横断する重要性を持つ。ゆえに、近代的「領土」観の相対化とともに、前近代の「領土」の現実と「領土」観を統合的に明らかにしてゆくことが、ヨーロッパ前近代史研究が知の枠組みの刷新に活かされるための重要な道の一つであると言える。

今回の演習では、この問題に関する最新の研究成果に向き合い、歴史研究の思考力と知識と技術を磨きながら、参加者各自が新たなヨーロッパ史像を考えることを目指す。

[到達目標]

・英語による西洋史学の専門文献の読み方を習得する。
・授業で扱うテーマを中心に、ヨーロッパ史に関する歴史学研究上の諸論点を理解する。
・専門的な文献と史資料の理解に基づいた議論を行い、適格な説明や問題提起を行うことができるようになる。
・各参加者が自らの研究を深めるための知識、技術、考え方を習得する。

[授業計画と内容]

授業は総合人間学部、人間・環境学研究科、文学部の授業と共通。英語文献精読のテキストとして以下のものを用いる。

Mario Damen, Kim Overlaet (eds), Constructing and Representing Territory in Late Medieval and Early Modern Europe, Amsterdam University Press, 2022.

授業は基本的に以下の計画にそって進めるが、参加者数等に応じて変更がありうる。

第1回はイントロダクションとして取り上げる文献の概要と方法論、研究状況についての導入的説明を行う。また中世史を中心にヨーロッパ史研究の基本的な道具を紹介し、授業の進め方の確認と担当の分担を行い、補足的な導入用文献の配布を行う。

西洋史学（演習II）(2)へ続く↓↓↓

西洋史学（演習II）(2)

第２回～第14回は文献 Constructing and Representing Territory in Late Medieval and Early Modern Europe**の読解・発表・議論を行う。受講生の関心と必要に応じて、適宜補助的な資料の配布と読解、説明、議論を行う。各回の内容は以下の通り。**

第1回 イントロダクション
第2回　Constructing and Representing Territory in Late Medieval and Early Modern Europe: An Introduction (Mario Damen and Kim Overlaet)

Part 1 The Multiplicity of Territory
第3回　第1章 Were There‘Territories’in the German Lands of the Holy Roman Empire in the Fourteenth to Sixteenth Centuries? (Duncan Hardy)
第4回　第2章 Beyond the State: Community and Territory-Making in Late Medieval Italy (Luca Zenobi)

Part 2 The Construction of Territory
第5回　第3章 Clerical and Ecclesiastical Ideas of Territory in the Late Medieval Low Countries (Bran van den Hoven van Genderen)
第6回　第4章 Marginal Might? The Role of Lordships in the Territorial Integrity of Guelders, c. 1325-c. 1575. (Jim van der Meulen)
第7回　第5章 Demographic Shifts and the Politics of Taxation in the Making of Fourteenth-Century Brabant (Arend Elias Oostindër and Rombert Stapel)
第8回　第6章 From Knights Errant to Disloyal Soldiers? The Criminalisation of Foreign Military Service in the Late Medieval Meuse and Rhine Regions, 1250-1550 (Sander Govaerts)
第9回　第7章 Conquest, Cartography and the Development of Linear Frontiers during Henry VIII’s Invasion of France in 1544-1546 (Neil Murphy)
第10回　第8章 Fromi Multiple Residences to One Capital? Court Itinerance during the Regencies of Margaret of Austria and Mary of Hungary in the Low Countries (c. 1507-1555) (Yannick De Meulder)

Part 3 The Representation of Territory
第11回　第9章 Heraldry and Territory: Coats of Arms and the Representation and Construction of Authority in Space (Mario Damen and Marcus Meer)
第12回　第10章 The Territorial Perception of the Duchy of Brabant in Historiography and Vernacular Literature in the Late Middle Ages (Bram Caers and Robert Stein)
第13回　第11章 Imagining Flanders: The (De)construction of a Regional Identity in Fifteenth-Century Flanders (Lisa Dements)
第14回　第12章 Mapping Imagined Territory: Quaresimo’s Chrographia and Later Franciscan Holy Land Maps (Marianne Ritsema van Eck) / Constructing and Representing Territory in Late Medieval and Early Modern Europe: A Conclusion (Mario Damen and Kim Overlaet)

第15回　フィードバック

[履修要件]

ヨーロッパの歴史や文化に関心を持ち、英語の研究文献を読む意欲を有すること。

[成績評価の方法・観点]

平常点で評価する。演習時の報告と討論への参加に基づき、上記到達目標を踏まえて総合的に評価する。

西洋史学（演習II）(3)へ続く↓↓↓

西洋史学（演習II）(3)

[教科書]

Mario Damen, Kim Overlaet (eds) 『Constructing and Representing Territory in Late Medieval and Early Modern Europe』（Amsterdam University Press, 2022.）ISBN:9789463726139（テキストとなる文献の入手については別途指示する。補足資料は随時配布する。）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

文献の予習は必須。随時紹介・配布する参考となる文献や資料も読んでおくこと。その他、関連する文献や資料を各自主体的に読み進めていくことが望ましい。

（その他（オフィスアワー等））

演習では主体的に関わっただけの成長が得られるので、しっかり文献を読み込み準備をした上で、積極的に臨んでください。また、ぜひとも討論を大切にしてください。意見や疑問をぶつけあい共有することで、一人では決して得られないものにたどり着くことができます。共に学ぶためにお互いに貢献し合ってほしいと思います。
　質問その他は授業の前後の時間とオフィスアワーに受け付ける他、メール連絡にも対応します。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学104

科目ナンバリング	G-LET26 76972 SJ38										
授業科目名 <英訳>	西洋史学（演習II） European History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　佐藤　公美				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	金5	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	西洋史学演習　II　（西洋中世史演習）										

[授業の概要・目的]

西洋中世史学の研究方法と研究成果を表現し他者に伝える方法を学ぶ。そのためにまず西洋中世史料論を学び、ついで各参加者が自らの研究課題を定め、具体的な研究を実践し、研究報告を行う。

[到達目標]

各演習参加者が自らの研究を深めるための知識、技術、考え方を習得する。
修士1回生は、自らの研究課題を選択して史資料や文献を収集、分析するとともに、史料の類型や性質を学ぶ。
修士２回生は、自らの研究を深化発展させ、まとめ上げる力を身に着ける。

[授業計画と内容]

研究の技術と知識習得のための共通課題として、史料論の学習や史資料研究の実習に一部の時間を充てる。今年度はJ・アーノルド『中世史とは何か』、高山博・池上俊一編『西洋中世学入門』第2部「西洋中世社会を読み解くための史料」を参考資料としつつ、史料類型を学び、各回に具体的な史料を取り上げ学習する。
次いで、参加者各自が設定したテーマに沿った個人研究の口頭報告と、参加者全員による質疑応答と討論、助言や指導を行う。その際、研究を進めるプロセスの各ステップにおいて習得すべき事柄に毎回焦点を当てる。
大学院人間・環境学研究科、総合人間学部、文学部の授業と共通。
基本的に以下の計画にそって授業を進めるが、参加者数等に応じて変更がありうる。

第1回　イントロダクション
　参加者各自の興味や研究課題を確認し、授業の進め方の確認と発表の割り当てを行う。
第2回　『西洋中世学入門』序論「西洋中世学の世界」（高山博・池上俊一），『中世史とは何か』第1章「中世を枠付ける――リアルとフィクション」
第3回　『中世史とは何か』第2章「中世を追跡する／史料と痕跡」
第4回　『西洋中世学入門』第11章　「統治・行政文書」（佐藤彰一）
第5回　『西洋中世学入門』第12章　「法典・法集成」（直江真一）
第6回　『西洋中世学入門』第13章　「叙述史料」（有光秀行）
第7回　『西洋中世学入門』第14章　「私文書」（徳橋曜）
第8回　『西洋中世学入門』第15章　「教会文書」（甚野尚志・印出忠夫）
第9回　受講生の研究発表―-先行研究を整理し問を設定する
第10回　受講生の研究発表―-史料の性格を把握する
第11回　受講生の研究発表―-史料を分析する
第12回　受講生の研究発表――議論を論理的に組み立てる
第13回　受講生の研究発表――自説を位置付ける・意義付ける
第14回　研究発表の振り返りと総合討論

西洋史学（演習II）(2)へ続く↓↓↓

西洋史学（演習II）(2)

第15回　フィードバック

[履修要件]

ヨーロッパの歴史や文化に関心を有すること。

[成績評価の方法・観点]

平常点で評価する。演習時の報告と討論への参加に基づき、上記到達目標を踏まえて総合的に評価する。

[教科書]

高山博・池上俊一（編）『西洋中世学入門』（東京大学出版会，2005年）
ジョン・H．アーノルド （著）, 図師宣忠 ・赤江雄一（ 訳） 『中世史とは何か』（岩波書店, 2022年）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

各自の研究テーマに沿って計画的に史料や文献の読み込み、分析、整理、考察を行い、研究を進めておく。また、口頭報告の準備には十分な時間をとること。

（その他（オフィスアワー等））

大学院修士課程での研究は、世界にたった一つのあなたの研究成果です。演習では、参加者それぞれの「たった一つ」を対話の中でともに育て磨き上げてゆきます。積極的に臨み、議論による共有と創造を楽しんでください。質問その他の相談はオフィスアワーの他随時受付ます。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学105

科目ナンバリング	G-LET26 76973 SJ38										
授業科目名 <英訳>	西洋史学（演習III） European History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　小山　哲 文学研究科　講師　　安平　弦司				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	金5	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	西洋史学演習III（西洋近世史演習）										

[授業の概要・目的]

近世のヨーロッパ史にかんする欧米の比較的新しい研究文献を読解し、また、個別の論点について討論することをつうじて、近世ヨーロッパにかんする基本的な知識を身につけると同時に、最近の研究動向や研究史上の争点についての理解を深めることを目指す。

[到達目標]

・ヨーロッパ史における「近世」とはどのような時代か、欧米や日本における最近の研究状況をふまえながら、多角的に理解する。
・英語による研究文献を読み、議論することをつうじて、西洋史学にかかわる研究文献の読み方を習得する。

[授業計画と内容]

ヨーロッパの近世史上の主要な問題について、テーマごとに研究上の論点を整理し、多角的に論じた次の本をとりあげ、その内容を正確に理解するとともに、研究の視角や考察の特徴について議論する。

C. Scott Dixon and Beat Kümin (eds.), Interpreting Early Modern Europe, Routledge: London and New York, 2020.

参加者全員による討論をつうじて、ヨーロッパ史における「近世」とはどのような時代か、近世史を研究する手がかりとなる史料にはどのような特徴があるか、この時代を理解するためにはどのような視点や研究の手法が有効か、といった問題を、さまざまな角度から検討する。
イントロダクション（第1回）に続けて、各回（第2回～第15回）に上記の本を読み、内容を理解したうえで、近世ヨーロッパ史にかかわる諸問題について議論する。

フィードバックについては、授業中に指示する。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

授業でとりあげるテキストの内容要約と論点の提示、研究発表、討論への参加の度合いにもとづき、到達目標に示した諸点をふまえて、総合的に評価する。試験は行なわない。

[教科書]

使用するテキストの入手については、別途指示する。

西洋史学（演習III）(2)へ続く↓↓↓

西洋史学（演習III）(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

・毎回、議論の対象となるテキストをあらかじめ読んでおくことが、授業に参加する前提である。
・議論に積極的に参加するために、西洋史学全般、またヨーロッパ近世史にかかわる文献を幅広く読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET26 76973 SJ38										
授業科目名 <英訳>	西洋史学（演習III） European History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　小山　哲 文学研究科　講師　　安平　弦司				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	金5	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	西洋史学演習III（西洋近世史演習）										

[授業の概要・目的]

近世のヨーロッパ史上の個別の論点について討論することをつうじて、近世ヨーロッパにかんする基本的な知識を身につけると同時に、最近の研究動向や研究史上の争点についての理解を深めることを目指す。必要に応じて近世のヨーロッパ史にかんする欧米の比較的新しい研究文献をとりあげて読解し、議論する。

[到達目標]

・ヨーロッパ史における「近世」とはどのような時代か、欧米や日本における最近の研究状況をふまえながら、多角的に理解する。
・受講生各自が研究発表を行なうことにより、各受講生の専門的な研究を深化させるとともに、発表に説得力をもたせるにはどのような工夫が必要かを考え、実践する経験を積む。
・関連する英語による研究文献を読み、議論することをつうじて、西洋史学にかかわる研究文献の読み方を習得する。

[授業計画と内容]

第1回：　オリエンテーション

第2回以降：　参加者がそれぞれ興味をもつテーマについて研究発表を行い、それにもとづいて全員で討論を行う。
また、関連するテーマのについて英語による文献を全員で読解し、議論する。
参加者の研究発表には第2回から偶数回を、文献の読解・議論には第3回から奇数回をあてる予定であるが、受講生の人数によって変更することもありうる。

フィードバックについては、授業中に指示する。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

研究発表、討論への参加の度合い、授業でとりあげるテキストの内容要約と論点の提示にもとづき、到達目標に示した諸点をふまえて、総合的に評価する。試験は行なわない。

西洋史学（演習III）(2)へ続く↓↓↓

西洋史学（演習III）(2)

[教科書]

使用するテキストの入手については、別途指示する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

・受講生各自が関心のあるテーマについて個別発表を行なうので、そのための研究を各自で進めておくことが必要である。
・文献を読む回については、議論の対象となるテキストをあらかじめ読んでおくことが、授業に参加する前提である。
・議論に積極的に参加するために、西洋史学全般、またヨーロッパ近世史にかかわる文献を幅広く読んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学107

科目ナンバリング	G-LET26 76974 SJ38										
授業科目名 <英訳>	西洋史学（演習IV） European History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　金澤　周作				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	金5	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	西洋史学演習Ⅳ（西洋近代史演習）										

[授業の概要・目的]

この演習では、西洋の近代（18世紀半～20世紀初頭）を主体的に探求するのに必要な作法を学ぶ。そのために、まとまった分量の欧米の研究文献を精読することを課す。

[到達目標]

・西洋近代の諸事象について、歴史学的な意識を持って考えられるようになる。
・歴史学的な諸論点を理解することができるようになる。

[授業計画と内容]

近代史研究は、対象とする場所（国や地域）と時期とテーマに応じて非常に専門化と細分化が進んでいる。しかし、異なる地域・時代を扱う研究者や、他の学問分野の人々と有意義な対話をしてゆこうとするならば、ある種の広いパースペクティヴを持たざるを得ないだろう。そこで、本演習では、1～2回目にイントロダクションを行ったうえで、3～13回に、大きくまた斬新なテーマを多方面から詳細に扱っている研究文献Glenda Sluga, The Invention of International Order: Remaking Europe after Napoleon (Princeton University Press, 2021)を、分担を決めて読んでいく。そして14～15回で総括をする。こうして、広い視野を学び、さまざまな方法論に触れ、同時に西洋史研究に不可欠な、英語文献を正確に読解する力を養う。さらに、内容について活発な議論がなされることを期待している。

第1回　西洋近代史について
第2回　ヨーロッパ国際秩序について
第3回　Introduction、chapter 1 - Diplomacyを読む
第4回　chapter 2 - War and Peace 、chapter 3 - Politicsを読む
第5回　chapter 4 - Public and Private、chapter 5 - Europeを読む
第6回　chapter 6 #8211 Multilateralism、chapter 7 #8211 Libertiesを読む
第7回　chapter 8 - Science、chapter 9 - Societyを読む
第8回　chapter 10 - Credit and Commerceを読む
第9回　chapter 11 - Religionを読む
第10回　chapter 12 #8211 Christianityを読む
第11回　chapter 13 - International Financeを読む
第12回　chapter 14 #8211 Humanity、chapter 15 - Realpolitikを読む
第13回　chapter 16 - History、Epilogue: Paradoxesを読む
第14回　本書の総括
第15回　全体の総括・議論

西洋史学（演習IV）(2)へ続く↓↓↓

西洋史学（演習IV）(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

演習内報告（回数は人数によって異なる）が80%、演習内での議論での貢献が20%。いずれにおいても、上記到達目標に照らし、受講生の達成の度合いに基づいて判断する。

[教科書]

Glenda Sluga 『The Invention of International Order: Remaking Europe after Napoleon』（Princeton University Press, 2021）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

各回の英語文献の予習は必須。内容理解を深めるために、関連する日本語文献も復習を兼ねて適宜読み進めていくこと。

（その他（オフィスアワー等））

受講者に対するこの演習の効果は、文献を事前にどれだけしっかり読み込んだかに左右される。ただ読むだけではなく、疑問点を洗い出して調べる、議論の問題点を探る、など主体的に挑んでいくことが要求される。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学108

科目ナンバリング	G-LET26 76974 SJ38										
授業科目名 <英訳>	西洋史学（演習IV） European History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　金澤　周作				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	金5	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	西洋史学演習Ⅳ（西洋近代史演習）										

[授業の概要・目的]

この演習では、西洋の近代（18世紀半～20世紀初頭）を主体的に探求するのに必要な作法を学ぶ。そのために、個別の自由発表を行うことを課す。

[到達目標]

・西洋近代の諸事象について、歴史学的な意識を持って考えられるようになる。
・歴史学的な諸論点を理解することができるようになる。

[授業計画と内容]

近代史研究は、対象とする場所（国や地域）と時期とテーマに応じて非常に専門化と細分化が進んでいる。しかし、異なる地域・時代を扱う研究者や、他の学問分野の人々と有意義な対話をしてゆこうとするならば、ある種の広いパースペクティヴを持たざるを得ないだろう。そこで、1回のイントロダクションの後、2～14回に、各受講者に、日ごろの研究成果を報告してもらい、批判的に議論をし、幅広い地域の諸テーマについて皆で理解を深め、15回目に総括する。

第1回　授業のねらいについて
第2回　研究報告1、史実に注目して議論する
第3回　研究報告2、学説史に注目して議論する
第4回　研究報告3、先行研究に注目して議論する
第5回　研究報告4、時代区分に注目して議論する
第6回　研究報告5、トランスナショナルな視点から議論する
第7回　研究報告6、グローバルな視点から議論する
第8回　研究報告7、比較史の観点から議論する
第9回　研究報告8、言語論的転回を意識して議論する
第10回　研究報告9、ジェンダーの視点を意識して議論する
第11回　研究報告10、階級に注目して議論する
第12回　研究報告11、帝国に注目して議論する
第13回　研究報告12、資本主義に注目して議論する
第14回　研究報告13、ネイション、エスニシティに注目して議論する
第15回　全体の総括

[履修要件]

特になし

西洋史学（演習IV）(2)へ続く↓↓↓

西洋史学（演習IV）(2)

[成績評価の方法・観点]

演習内報告（回数は人数によって異なる）が80%、演習内での議論での貢献が20%。いずれにおいても、上記到達目標に照らし、受講生の達成の度合いに基づいて判断する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
金澤周作監修 『論点・西洋史学　』（ミネルヴァ書房、2020年）

[授業外学修（予習・復習）等]

自由報告を行うための準備はおこたりなく進めるものとし、演習での指摘を活かして勉学を継続すること。

（その他（オフィスアワー等））

受講者に対するこの演習の効果は、自分の報告のためにどれだけしっかり準備したか、そして他の報告にどれだけ批判的に介入し質問や提言などの形で貢献したかに左右される。ただ漫然と読んでまとめる、聞いて理解するというだけではなく、疑問点を洗い出して調べる、議論の問題点を探る、など主体的に挑んでいくことが要求される。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET26 76961 LJ38										
授業科目名 <英訳>	西洋史学（講読） European History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　小山　哲				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火4	授業形態	講読	使用言語	日本語
題目	ポーランド書講読										

[授業の概要・目的]

ポーランド語で書かれた歴史書を精読することをつうじて、ポーランド語の読解力の向上を図るとともに、ポーランドにおける歴史認識や歴史研究の現状について理解を深めることを目標とする。

[到達目標]

・歴史学の研究で用いられるポーランド語の語彙や語法を習得する。
・ポーランドとその周辺地域の歴史について、ポーランド語のテキストをつうじて基本的な事項を理解する。

[授業計画と内容]

この授業では、次の本の第5章以降を講読する。

Andrzej Chwalba, Wojciech Harpula, Polska-Rosja. Historia obsesji, obsesja historii, Wydawnictwo Literackie: Krak#243w, 2021.

本書は ポーランドとロシアの関係史のなかから争点となりがちな問題をとりあげて、ポーランドのジャーナリストとポーランド近現代史の専門家が語り合った、対話形式の本である。第5章は、18世紀のポーランド分割の時代を扱っている。
授業は受講者による訳読と、担当者による解説を中心に進める。ポーランド語の歴史叙述で用いられる語彙に親しむとともに、ポーランド・ロシア間の歴史認識をめぐる論点ついての理解を深めることを目指す。

第1回　オリエンテーション
第2〜14回　訳読と解説
第15回　フィードバック

[履修要件]

ポーランド語の初級文法を習得していることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業中の訳読の実績）によって評価する。

西洋史学（講読）(2)へ続く↓↓↓

西洋史学（講読）(2)

[教科書]

授業でテクストを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

・あらかじめテキストを読んでおくことが授業に参加する前提である。
・授業中に訳読について指摘された点を授業後にもう一度確認しておくと、さらにポーランド語の文献を読み進むうえで効果的であろう。

（その他（オフィスアワー等））

読解力を高めるためには、ある程度の分量のテキストを読み続けることが不可欠である。受講生には、継続して出席し、十分な予習をしたうえで授業にのぞむことを期待する。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学110

科目ナンバリング	G-LET26 7M322 SJ38											
授業科目名 <英訳>	西洋史学(演習) European History (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　小山　哲 文学研究科　教授　金澤　周作 文学研究科　講師　安平　弦司					
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	金3	授業形態	演習	使用言語	日本語	
題目	大学院演習											

[授業の概要・目的]

この授業では、受講する大学院生が各自の専門研究の成果を発表し、授業に参加する院生・教員全体でその発表にかんして問題点を指摘し議論する。本演習をつうじて、受講者の大学院における研究の発展に資するとともに、西洋史上の様々な時代・地域にかかわる研究テーマ、研究の視角や手法、史料の特徴とその利用の方法などについて相互に理解を広め、また深める場とする。

[到達目標]

・西洋史学を専門的に研究するうえで重要な研究テーマ、歴史研究にかかわる理論や方法、各時代・地域の史料の固有の特徴や分析の手法について、相互に発表を聴き合い、議論することをつうじて、理解を深める。
・自分の関心のある研究テーマについて発表を行なうことにより、受講生各自の専門的な研究の深化をめざす。
・修士課程の受講生の場合には、演習での議論をふまえて修士論文の完成度を高めることが求められる。また、博士後期課程の受講生については、演習での発表と議論の成果をふまえて課程博士論文を作成することが期待される。

[授業計画と内容]

各受講生は第１～30回の授業の中で、原則として2回（前期・後期に各1回）、個人研究の成果を発表する。研究報告は、修士課程の院生には修士論文作成のための中間報告であり、博士後期課程の院生には、学位論文作成の節目となる。それ以外にも、その都度、興味を持ったテーマや、新しい研究動向などについて報告し、時代と地域を越えた議論の機会を提供することも重要である。また院生全員、教員全員が参加して議論することにより、オープンで集団的、客観的な研究指導を行う場としての意味を持つ。

フィードバックについては、授業中に指示する。

[履修要件]

大学院生のみ。

[成績評価の方法・観点]

授業中の討論への参加、2回（前期・後期各1回）の報告にもとづき、到達目標に示した諸点をふまえて総合的に評価する。

西洋史学(演習)(2)へ続く↓↓↓

西洋史学(演習)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
特になし。

[授業外学修（予習・復習）等]

・受講生には年2回の発表が課されるため、そのための準備を授業時間外に行なうことが必要である。
・他の受講生の発表を聴いて議論に積極的に参加するために、西洋史学を研究するうえで重要な課題・理論・研究手法についてあらかじめ幅広く学んでおくこと。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学111

科目ナンバリング	G-LET27 67031 LJ38										
授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　吉井　秀夫				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	金2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	朝鮮三国時代墓制の変遷と棺・槨・室										

[授業の概要・目的]

３～６世紀の朝鮮半島と日本列島の各地では、多大な労力を用いて多様な古墳が築造された。本講義では、棺・槨・室を中心とする埋葬施設の構造と空間原理などに着目しつつ、朝鮮半島各地の三国時代墓制の変遷過程を検討する。

[到達目標]

朝鮮三国時代の墓制の展開と特質についての基本的な知識を得る。
墓制を比較研究するための方法論を学ぶ。
東アジア的な広がりの中で日本考古学を研究する視角の基礎を身につける。

[授業計画と内容]

おおむね以下の順序で講義を行う
第1回　墓制を比較検討する視角をめぐって
第2回　考古学からみた墓制・葬制
第3回　棺・槨・室をめぐる諸問題（１）－棺・槨・室の定義
第4回　棺・槨・室をめぐる諸問題（２）－木棺・木槨の構造復元法
第5回　棺・槨・室をめぐる諸問題（３）－墳丘との関係
第6回　竪穴系埋葬施設における棺・槨・室（１）－新石器時代～初期鉄器時代－
第7回　竪穴系埋葬施設における棺・槨・室（２）－原三国時代－
第8回　竪穴系埋葬施設における棺・槨・室（３）－木槨墓における「棺」－
第9回　竪穴系埋葬施設における棺・槨・室（４）－石槨墓における「棺」－
第10回　横穴式石室の受容と棺の変化（１）－錦江流域の場合（１）
第11回　横穴式石室の受容と棺の変化（２）－錦江流域の場合（２）
第12回　横穴式石室の受容と棺の変化（3）－栄山江流域の場合
第13回　横穴式石室の受容と棺の変化（4）－洛東江以西地域の場合
第14回　横穴式石室の受容と棺の変化（5）－洛東江以東地域の場合
第15回　朝鮮三国時代墓制の特質－日本列島の比較から

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点評価（小レポートなど）約30%、学期末レポート　約70%

考古学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

考古学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

各回の講義で紹介する論文を是非よんで欲しい。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学112

科目ナンバリング	G-LET27 67031 LJ38										
授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　吉井　秀夫				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	水3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	瓦センの製作技術の検討―朝鮮半島出土例を中心に―										

[授業の概要・目的]

朝鮮半島から出土した瓦センの観察に基づき、瓦センの製作技術の分析方法と歴史的評価について検討する。

[到達目標]

朝鮮半島から出土した瓦センの検討を通して、考古資料を観察・記録・解釈するための基本的な知識と方法を身につける。
東アジア的な視角から瓦セン研究を進めるための知識と方法を身につける

[授業計画と内容]

おおむね以下の通り講義をおこなう。
第1回　朝鮮半島瓦センの研究史
第2回　平瓦の製作技術をめぐって（1）―佐原眞「平瓦桶巻作り」を読む―
第3回　平瓦の製作技術をめぐって（2）－崔兌先「韓国平瓦製作法の変遷に関する研究」を読む－
第4回　平瓦桶巻作りの民俗例―ビデオ『製瓦匠』をみる―
第5～7回　朝鮮半島の平瓦を観察する
第8～10回　朝鮮半島のセンを観察する
第11～第13回　高句麗瓦を観察する
第14回　朝鮮半島瓦センの特質
第15回　フィードバック

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

レポート試験70%
平常点評価30%　（講義に対する小レポートなど）

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

講義中、数回にわたって瓦の観察をおこない、その成果報告をもとに議論を進める。そのため、観察した瓦に関連する学習や、観察成果のレポート作成などを行う必要がある。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学113

科目ナンバリング	G-LET27 67031 LJ38										
授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	京都産業大学文化学部　客員教授 山本　雅和				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	金2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	世界遺産を掘る！（「古都京都の文化財」の考古学）										

[授業の概要・目的]

平安遷都から明治維新まで千年以上日本の都であった京都には、数多くの文化財があります。その中でも各時代を物語る代表的な文化遺産として、17件の寺院・神社・城郭が、世界遺産「古都京都の文化財」に選定されました。
授業では、世界遺産「古都京都の文化財」を対象として、考古学による遺跡の研究法を紹介するとともに、文化財保護の意義および整備・活用について学習します。

[到達目標]

世界遺産「古都京都の文化財」についての知識を得る。
史跡・名勝を対象とする考古学的研究法の実践を理解する。
文化財の保護と整備・活用の具体例を学習する。

[授業計画と内容]

第１回　ガイダンス・「古都京都の文化財」についての意識調査
第２回　概説「古都京都の文化財」
第３回　上賀茂神社（賀茂別雷神社）・下鴨神社（賀茂御祖神社）
第４回　延暦寺
第５回　東寺（教王護国寺）
第６回　仁和寺
第７回　醍醐寺
第８回　平等院
第９回　天龍寺
第10回　金閣寺（鹿苑寺）
第11回　銀閣寺（慈照寺）
第12回　西本願寺（本願寺）
第13回　二条城
第14回　「古都京都の文化財」の整備・活用
第15回　まとめ

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点評価　：30%（授業内容についての質問・感想、小レポートなど）
期末レポート：70%

考古学(特殊講義) (2)へ続く↓↓↓

考古学(特殊講義) (2)

[教科書]

各回の授業で資料を配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で取り上げる「古都京都の文化財」の寺院・神社・城郭を訪問して、授業内容を復習するとともに現状を検分してください。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学114

科目ナンバリング	G-LET27 67031 LJ38										
授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	名古屋大学人文学研究科　教授 梶原　義実				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期集中	曜時限	集中講義	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	古代寺院の考古学										

[授業の概要・目的]

飛鳥時代に日本に仏教が導入されたことは、日本の古代社会の変革の大きな要因となった。本講義では、古代寺院の立地や遺構、出土瓦やその生産組織等の考古学的分析から、とくに地域社会において、古代寺院の造営がどのようなインパクトを与えたのかについて考察することを目的とする。

[到達目標]

考古学からみた古代寺院についての知識を取得することを目標とするとともに、授業の内容はもとより、講義者の研究のあり方が、自身の研究姿勢を考えるなんらかの手掛かりになることを期待している。

[授業計画と内容]

基本的に以下の計画に沿って講義を進める。ただし、授業の進度や受講生の興味。理解度によって、適宜変更もあり得る。
第１回　イントロダクション：本講義における視座
第２回～第８回　国分寺造瓦組織に関する研究
　第２回：国分寺の考古学的研究史と問題の所在
　第３回：国分寺瓦の展開に関する事例研究（１）西海道
　第４回：国分寺瓦の展開に関する事例研究（２）東海道
　第５回：国分寺瓦の展開に関する事例研究（３）山陽道・山陰道・南海道
　第６回：国分寺瓦の展開に関する事例研究（４）東山道・北陸道
　第７回：国分寺の造営に関する考察（１）ー造営の進捗状況ー
　第８回：国分寺の造営に関する考察（２）ー造瓦組織の編成ー
第９回～第14回　古代寺院に関する景観論的研究
　第９回：古代寺院の立地研究と問題の所在
　第10回：古代寺院の立地に関する事例研究（１）畿内以東
　第11回：古代寺院の立地に関する事例研究（２）畿内以西
　第11回：古代寺院の選地傾向についての考察
　第12回：霊峰信仰・水源祭祀と古代寺院
　第13回：古墳・祖先信仰と古代寺院
　第14回：古代寺院をめぐる景観構成
第15回（補論）　日本考古学をめぐる現状と課題への私見

[履修要件]

特になし

考古学(特殊講義) (2)へ続く↓↓↓

考古学(特殊講義) (2)

[成績評価の方法・観点]

レポートによって評価する（100%）。レポートについては到達目標の達成度に基づき評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

日本考古学一般や、歴史考古学についての諸文献を読んでおくことが望ましい。また、遺跡や博物館に足を運び、本授業で扱う古代瓦などを含め、考古遺物を直接みておくことを推奨する。

（その他（オフィスアワー等））

下記メールアドレスまで連絡してください。
kajiwara.yoshimitsu.j1@f.mail.nagoya-u.ac.jp

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET27 67031 LJ38										
授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	総合博物館　准教授　村上　由美子				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	水3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	環境考古学概説										

[授業の概要・目的]

遺跡出土木材を対象資料として多様な情報を引き出し、環境史、技術史を論じるための方法を示す。近年の環境考古学、植物考古学の研究動向を踏まえたうえで、本講義ではとくに木材利用史に焦点をあてて、縄文時代から近世にかけての木材利用の変遷を辿り、人間活動と周辺環境との関わりの歴史を明らかにする。そうした観点から、地域の環境史や技術史を学ぶための題材としても出土木製品や植物遺体は有用であり、博物館や資料館の展示に活かされることも多い。木製品の樹種や資源獲得の基盤となった植生との関係を視野に入れることにより、ひとつの木製品の背景には当時のどのような暮らしや文化、環境があったかを読み取ることが可能である。受講生は、木製品などの有機質遺物から得られる情報をもとに、歴史の一端を論じていく過程を学び、地域の環境史を解明して活用していくための基礎を身につける。

講義の後半では、前半の講義内容を踏まえて受講生の専門や興味に即した題材を選び、「地域の博物館で環境史をテーマとした小規模な展示を企画する」との設定のもと展示の計画を立案し、発表を行う。受講生は自らの知見とアイデアを展示という形に集約させる経験を積む中で、「歴史を伝える力」を伸ばしていく。

[到達目標]

遺跡で得られる情報をもとに環境史を論じていく方法や枠組みについて理解を深め、一つの素材を対象として通史的に俯瞰する視野を持つ。また、発掘調査報告書の自然科学分析報告を読解する力を身につけるとともに、木製品の基本的な観察法を習得し、個々の情報をもとに歴史像を復原し、提示する方法を学ぶ。

[授業計画と内容]

授業のうち１回は、総合博物館において遺跡出土木製品を実際に観察し、木取りや加工痕など木器に残る情報を読み取って記録する作業に取り組む。そして上述のように授業の後半では、受講者が展示計画を立てて発表を行う時間を設ける。各回の授業計画は以下の通りとするが、受講者の理解度や関心に応じて適宜調整する。

第1回　環境考古学・植物考古学の研究史と方法
第2回　縄文時代の木製品と木材利用
第3回　縄文―弥生移行期の木製品と木材利用
第4回　弥生時代の木製品と木材利用（１）―農具と容器の用材を中心に―
第5回　弥生時代の木製品と木材利用（２）―広葉樹から針葉樹へ―
第6回　古墳時代の木製品と木材利用
第7回　講義内容に関連した見学（学内ないし京都市内で実施）
第8回　古代の木製品と木材利用
第9回　中近世の木製品と木材利用
第10回 出土木製品から捉えた農具の歴史

考古学(特殊講義) (2)へ続く↓↓↓

考古学(特殊講義) (2)

第11回 中国の木製品研究概観と日本の木器との比較
第12回 木の考古学と関連諸分野（１）－自然科学－
第13回 木の考古学と関連諸分野（２）－人文科学－
第14回 「環境史」に関連した展示計画（受講者による発表と評価）
第15回　展示計画の講評と講義のまとめ

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

　毎回提出する小レポート（30%），展示計画についての発表内容（30%），期末レポート（40%）を総合して講義の理解度や応用力をみる。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で配付するレジュメや資料、提出した小レポートの内容を再検討すること
発表に向けての準備を随時行い、題材を集めておくこと

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学116

科目ナンバリング	G-LET27 67031 LJ38										
授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	農学研究科　教授　　杉山　淳司				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	月4	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	わが国固有の用材観や木の文化に触れながら、木材の仕組みや分析により得られる情報について学習する。										

[授業の概要・目的]

木材は樹木として長い間自らの体を支え、また材として我々の文化や生活を支えてきた。今日では環境保全はもとより、持続可能な資源としてもますます注目が高まっている。本講義では、木材の多様かつ丈夫な仕組みとその内部に刻まれる情報を、歴史的、考古的な木製品や建築物と関連させて学習する。また、ルーペや顕微鏡による木材識別実習や大学周辺の野外樹木識別実習や建造物見学(合せて３ないし４回）などを通して、木材そのものや木製品調査に必要な手法を学習する。

[到達目標]

木材の形成、物性、利用について概観することで、われわれの用材観を考察する基礎的な知識を養う。
木材組織と樹木観察実習を通して、標準的な木材に関する知識やそれらの識別法について自主的に学べる能力を養う。
木材の内部に記録される様々な情報を引き出す先端科学について学習する。

[授業計画と内容]

1.授業の概要と進め方。
2.木材とは
3.木材科学の基礎
4.樹木の見分けかた（吉田構内）
5.樹木の見分けかた（吉田構内）
6.樹木の見分けかた（吉田山）
7.針葉樹材・広葉樹材の巨視的特徴
8.針葉樹材・広葉樹材の解剖学的特徴
9.木材の見分けかた
10.各論：仏像・建造物
11.各論：出土材
12.木材学、情報学、考古学の接点
13.年輪年代・気候学
14.情報学と考古学の接点
15.フィードバック(質問事項に対する回答）
それぞれのトピックで完結するのではなく相互に関連させながら講義をすすめる。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業への積極性 20点）、小レポート（２回, 20点x2）ならびに期末レポート（40点)により評価するが、独自の工夫がみられるものについては高い点を与える。

考古学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

考古学(特殊講義)(2)

[教科書]

対面授業の場合：
テキストについては印刷物等を適宜配布する。また、実習に必要な観察用サンプルやルーペを配布する。
対面授業ができない場合：
Pandaシステムにテキストを掲示する。また、実習用のキットについては受け取り日時と場所を指定するか、郵送とする。

[参考書等]

（参考書）
自習用参考書として：
林　将之　葉で見分ける樹木　小学館
佐竹他　フィールド版　日本の野生植物　木本、平凡社
佐伯　浩　この木なんの木　海青社
尼川大録、長田武正、検索入門　樹木①、樹木②、保育社
中川重年　検索入門　針葉樹、保育社
山崎隆之　一度は拝したい京都の仏像　学研新書
鈴木三男　日本人と木の文化、八坂書房
小原二郎　木の文化　鹿島出版会

[授業外学修（予習・復習）等]

適宜講義中に指示する。具体的には：
１）　身の回りの木製品の観察とその報告。
２）　樹木の観察とその報告。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学117

科目ナンバリング	G-LET27 67031 LJ38										
授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　下垣　仁志				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	金3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	前方後円墳の世界										

[授業の概要・目的]

百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録(2019年)も相俟って、このところ前方後円墳への社会的関心が高い。また古墳時代は、国家形成期として考古学・文献史学からの学問的注目を集めてきた。本講義では、前方後円墳を主たる分析材料として、国家形成理論のひとつ「権力資源論」を導きの糸にしながら、「イデオロギー」「経済」「軍事」「領域」「社会関係」の側面から、前方後円墳をはじめとする大型古墳が日本列島の国家形成に決定的な役割をはたしたことを解説する。

[到達目標]

前方後円墳というモニュメント的な構築物から国家形成という広大な歴史事象に迫るための、考古学的な手法や手順を理解できるようになる。

[授業計画と内容]

1. イントロダクション【1週】
2. 前方後円墳の世界【3週】
3. 近年の国家形成論【2週】
4. 前方後円墳とイデオロギー【2週】
5. 前方後円墳と経済【2週】
6. 前方後円墳と軍事【1週】
7. 前方後円墳と領域【2週】
8. 前方後円墳と社会関係【2週】

＊計15週実施する。
＊事前に受講生に周知のうえ、講義の順番を一部変更することもありうる。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

学期末のレポートにより成績を評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
都出比呂志 『前方後円墳と社会』（塙書房、2005年）ISBN:4827311978
小林行雄 『古墳時代の研究』（青木書店、1961年）ISBN:4250610012

考古学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

考古学(特殊講義)(2)

下垣仁志 『古墳時代の国家形成』（吉川弘文館、2018年）ISBN:9784642093521

[授業外学修（予習・復習）等]

古墳に関する情報を、書籍や実地見学などをつうじて意欲的に吸収しておくこと。状況が許せば、博物館や展覧会に積極的に足を運ぶことも推奨する。
そのほか・・・・・・事前に受講生に周知のうえ、講義の順番を一部変更することもありうる。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET27 67031 LJ38										
授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　下垣　仁志				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	金3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	前方後円墳の時代										

[授業の概要・目的]

木簡などの文字史料に恵まれている7世紀以後と対照的に、古墳時代の同時代史料は希少であり、当該期の主要検討対象は考古資料にならざるを得ない。律令国家の前史をなす重要な古墳時代の集団内／間関係を究明するうえで、前方後円墳をはじめとする古墳がはたす役割はきわめて大きい。

本講義では、前方後円墳の汎列島／特定地域／特定古墳群などにおける展開様相を俎上に載せ、古墳時代の社会・政治状況の解明を目指す。

[到達目標]

古墳時代を代表する考古学的遺構である前方後円墳の社会的・政治的意義について、複数の側面から理解できるようになる。

[授業計画と内容]

1. イントロダクション【1週】
2. 前方後円墳の概要【1週】
3. 古墳観の推移【3週】
4. 古墳群と前方後円墳【2週】
5. 前方後円墳の地域展開【3週】
6. 前方後円墳の列島展開【3週】
7. 前方後円墳と古代史の接点【2週】

＊計15週実施する。
＊事前に受講生に周知のうえ、講義の順番を一部変更することもありうる。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

学期末のレポートにより成績を評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
下垣仁志 『古墳時代の国家形成』（吉川弘文館）ISBN:9784642093521
和田晴吾 『古墳時代の王権と集団関係』（吉川弘文館、2018年）ISBN:9784642093507
近藤義郎 『前方後円墳の時代』（岩波書店、1983年）ISBN:978-4000045469（文庫(岩波文庫、2020

考古学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

考古学(特殊講義)(2)

年)あり）

[授業外学修（予習・復習）等]

古墳(時代)に関する情報を、書籍や実地見学などをつうじて意欲的に吸収しておくこと。状況が許せば、博物館や展覧会に積極的に足を運ぶことも推奨する。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学119

科目ナンバリング	G-LET27 67031 LJ38										
授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	京都橘大学　文学部　准教授 中久保　辰夫				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	木2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	日本古代の土器文化と東アジア交流										

[授業の概要・目的]

日本古代土器は、遺跡・遺構年代の特定、広域流通網の解明など、考古学研究上、欠かせない情報を秘めている。そして、土器の分析を通じて、中国大陸や朝鮮半島各地との交流を復元できるだけでなく、日本固有の土器文化についても検討することが可能である。
この授業は、東アジア世界における異文化受容と日本古代特有の文化形成の関連性について、土器資料から読み解くGlocalな視座を提供する。講義で扱う時代は、「倭の五王」の時代から遣隋使や遣唐使が活躍する時代であり、最新の発掘調査成果とともに研究の最前線を紹介する。そして、考古学的な土器分析手法と遺跡調査への応用を体得できるようになることを目指す。

[到達目標]

・古代東アジア世界の異文化交流に関する幅広い知識を獲得し、国際的な視座と地域に根差した視点という複眼的な視野を身につけることができる。
・古墳時代から平安時代を中心とした考古学的研究手法の一端を把握することができる。
・土器資料を用いた、学際的な分析手法の一端を体得することができる。

[授業計画と内容]

基本的に以下の計画で講義を進める予定であるが、各項目の講義の順序は固定したものではなく、受講者の背景や理解の状況に応じて適切に決める。

第1回：ガイダンス　考古学者にとっての土器資料とは
第2回：遺跡の年代を把握するための基礎（１）　古墳時代土器編年の現状と課題
第3回：遺跡の年代を把握するための基礎（２）　飛鳥・奈良時代土器編年の現状と課題
第4回：遺跡の年代を把握するための基礎（３）　平安時代土器編年の現状と課題
第5回：世界各地の土器文化
第6回：土器の製作者と地域間交流
第7回：古環境の復元と酸素同位体比年輪年代法
第8回：「倭の五王」の時代と窯業生産のはじまり（１）
第9回：「倭の五王」の時代と東アジアの饗宴（２）
第10回：発掘調査から報告書刊行まで―土器の分析手法―
第11回：『播磨国風土記』と古代の饗宴、酒造り
第12回：奈良時代・平安時代の窯業生産
第13回：考古学が復元する古代食の世界と東アジア交流
第14回：土器資料からみた唐風文化と国風文化
第15回：日本古代土器の３つの貌

それぞれのトピックで完結するのではなく相互に関連させながら講義をすすめる。

考古学(特殊講義) (2)へ続く↓↓↓

考古学(特殊講義) (2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点評価（授業中課題の回答内容、小テスト）約40%
学期末レポート　約60%

[教科書]

使用しない
適宜、資料を配布する。

[参考書等]

（参考書）
高橋照彦, 中久保辰夫, 上田直弥 編 『古代日本とその周辺地域における手工業生産の基礎研究』（大阪大学大学院文学研究科考古学研究室、2017年）（科研報告書なので手に入りにくいかもしれません。必要な部分を授業中に配布します。）
兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室 『『播磨国風土記』の古代史』（神戸新聞総合出版センター、2021年）ISBN:978-4343011312

（関連ＵＲＬ）

https://sitereports.nabunken.go.jp(講義中に紹介する遺跡の発掘調査報告書を探し、閲覧する際に参考になります。)

[授業外学修（予習・復習）等]

感染対策を十全に行ったうえで、博物館や資料館にある古墳出土品や集落遺跡出土古代土器を熟覧すると、講義の内容がより深く理解できると思いますので、おすすめします。

（その他（オフィスアワー等））

質問などは、メールなどで受け付けることも可能です。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学120

科目ナンバリング	G-LET27 67031 LJ38											
授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　吉井　秀夫 文学研究科　教授　下垣　仁志 人文科学研究所 教授　FORTE，Erika					
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月5	授業形態	特殊講義	使用言語	英語	
題目	East Asian Origins: Ancient History and Material Culture											

[授業の概要・目的]

In this special lecture, we offer an overview of various archaeological studies about the prehistoric and ancient East Asia, with the results of our researches and studies. We also examine the characteristics of the archaeological studies of the East Asia in Japan, by comparison of the studies in Europe and the US.
The department of archaeology in Kyoto University has excavated archaeological sites in Japan, Korea, and China, and has gathered various artifacts from all areas of the world. These archaeological data will be introduced in this special lecture.

Study Focus: Visual, Media and Material Culture; Knowledge, Belief and Religion.
Modules: Mobility & Research 1; Mobility & Research 2; Research 3.

[到達目標]

By the end of this special lecture, student will get familiar with the artifacts of East Asia, and have general understanding of the issues about the prehistoric and ancient archaeology in East Asia.

[授業計画と内容]

This special lecture will be offered in accordance with the following general structure. The detailed plan for each class will be announced in the introduction.

1 Introduction (1 week)
　Introduction of the special lecture.

2 History of the East Asian archaeology in Japan (5weeks)
　This section will outline the history of archaeological investigations, studies and gathering artifacts in Japan, Korea and China by Japanese archaeologists,

3 Archaeology of daily life cultures in prehistoric and ancient Japan(4weeks)
　This section will outline prehistoric and ancient daily life cultures (clothes, foods, toilet and so on) from structural remains and artifacts excavated in Japan.

4 The Eastward Transmission of Buddhist Culture from Archaeological Perspective (3weeks)
　This section will deal with the transmission of Buddhism to central Asia, with a focus on the material culture of the Tarim Basin area (present Xinjiang Uyghur Autonomous Region in China), a region crossed in antiquity by the network of routes known as the Silk Road.

5 Discussion (1 week)

6 Feedback(1week)

考古学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

考古学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

Attendance and participation: 40%, Course Essay:60%

[教科書]

使用しない
Not Used

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する
To be announced in class

[授業外学修（予習・復習）等]

The participants are expected to spend a certain amount of time outside of this class reading the reference papers and books announced in class.

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-LET27 67031 LJ38										
授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　千葉　豊 文学研究科　助教　伊藤　淳史				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	月3	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	縄文・弥生時代研究の諸問題										

[授業の概要・目的]

１万年あまりに及ぶ縄文時代と、その後の１千年近くにわたる弥生時代は、狩猟採集社会から水稲農耕社会へ、そして初期的な国家の萌芽へと、社会のありようが大きく変容しながら列島史の基盤が形成されていく重要な時期にあたる。本講義では、基本的に文字史料では解明することのできないこれら縄文・弥生時代の社会について、関連する考古学的研究の現在の到達点を検証することを通じて学ぶとともに、さまざまな物質文化の研究手法について認識を深め、問題意識を醸成したい。

[到達目標]

考古学の最も基礎的な目的である、遺跡・遺物といった物質的資料から歴史を復原するための研究手法について、特性が的確に理解できるようになる。またその理解を通じて、考古学調査者や研究者として、実証的に資料を取り扱い研究を遂行する実践力を身につけるとともに、文化財として資料が現代社会にもつ意義について認識できるようになる。

[授業計画と内容]

以下に記すように、第１週をガイダンスとして、講義計画全体の概略説明に充てるほか、残り14週について、前半の２～８週を縄文時代（千葉担当）、後半の９～15週を弥生時代（伊藤担当）を扱う。本年度は土器研究を主要な対象としつつ、関連するその他の事象にも触れながら進める。また、講義に際しては、京都大学のキャンパスも縄文・弥生時代の重要な遺跡であることから、野外における遺跡現地の巡検や出土資料を前にした議論なども適宜とりいれ、各自の意見も求めながら理解を深めていくような形態も予定している。

第１週　イントロダクション（千葉・伊藤）
第２週　縄文土器研究の画期となった論説(1)
第３週　縄文土器研究の画期となった論説(2)
第４週　土器から年代と地域を読む(1)
第５週　土器から年代と地域を読む(2)
第６週　土器研究の展望－分類から系統へ－
第７週　京都大学構内にある縄文集落
第８週　環状集落をどう理解するか－縄文集落研究の課題－
第９週　「弥生式」時代から「弥生」時代へ－学史の確認から－
第10週　弥生時代のはじまりをめぐる議論－前期の土器編年から－
第11週　土器様式と地域色－近畿地方の中期弥生土器研究から－
第12週　弥生社会の西日本と東日本－東海以東の弥生土器との比較から－
第13週　弥生社会の広域変動(1)－中～後期の弥生土器様相の変化から－
第14週　弥生社会の広域変動(2)－集落・墓制研究などの現状から－
第15週　弥生から古墳へ－庄内式をめぐる研究動向から－

考古学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

考古学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（講義中の発言や小課題の内容などからうかがわれる参加意欲で評価する）。

[教科書]

毎回資料を配布する。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

指示された論考や資料等は熟読し内容を確認しておくこと。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学122

科目ナンバリング	G-LET27 67031 LJ38										
授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 准教授　向井　佑介				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・前期	曜時限	火2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	中国古代の墓制と霊魂の祭祀										

[授業の概要・目的]

古代中国では、人間のたましいは精神をつかさどる「魂」と肉体をつかさどる「魄」からなり、人間が死ぬと「魂」が「魄」から分離すると信じられた。とりわけ儒教が理想とする古代の制度によれば、「魂」は廟で祀り、「魄」は墓に葬るものであり、両者が混交することは許されなかった。しかし、漢代には埋葬後も墓での祭祀がおこなわれ、墓前や墓側に死者の霊魂を祀る建物が設けられた。こうした墓での祭祀が衰退していくのが、後漢末の動乱をへて華北を統一した曹魏の時代である。この講義では、こうした中国古代墓制と霊魂祭祀の展開をふまえ、とくに近年新たに発見された前漢海昏侯劉賀墓や曹操高陵、洛陽曹魏大墓などの事例に着目し、その考古学的な研究成果をもとに、古代中国の他界観や霊魂観をさぐることを目的とする。

[到達目標]

中国古代の墓制については、中国考古学の主要な研究テーマとして、長い研究の蓄積がある。さらに近年の中国における考古学的調査の急速な進展により、時代・地域ごとの調査と研究は大きく進んだ。ただ、他界観や霊魂観については、研究者ごとに見解が異なる部分があり、必ずしも議論が尽くされているとはいえない。この講義では、先行研究の議論をふまえ、考古資料・図像資料・文献史料を総合的に分析し、物質資料から形而上の観念へとせまる方法を学ぶことを目標とする。

[授業計画と内容]

①伝統中国の霊魂観
②秦始皇帝陵と兵馬俑坑
③前漢皇帝陵の調査
④馬王堆漢墓の発掘
⑤前漢海昏侯墓の発見
⑥前漢海昏侯墓をめぐる諸問題
⑦槨墓から室墓へ
⑧墓中の神坐
⑨墓主図像の変遷
⑩墓と宗廟の祭祀
⑪曹操高陵の発見
⑫近年発見の曹魏大型墓をめぐる諸問題
⑬石牌銘文からみた曹魏墓の副葬品
⑭石牌銘文からみた曹魏の喪葬儀礼
⑮厚葬から薄葬へ

考古学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

考古学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点20%と学期末レポート80%をあわせて評価する

[教科書]

毎回レジュメを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

日頃から自身の専門以外のさまざまな学問分野に目を向けるとともに、学内外の博物館施設などを利用して積極的に実物資料を見学するよう努めること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学123

科目ナンバリング	G-LET27 67031 LJ38										
授業科目名 <英訳>	考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)					担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 准教授　向井　佑介				
配当学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2023・後期	曜時限	火2	授業形態	特殊講義	使用言語	日本語
題目	中国中古の墓制と他界観										

[授業の概要・目的]

中国の墓制はおおむね戦国時代から前漢代にかけて竪穴式埋葬施設から横穴式埋葬施設へと交代し、また人間や動物の殉葬・犠牲にかわって木製や陶製の俑が副葬されるようになる。こうした墓制の変化は当時の人びとの他界観の変化を反映したものと考えられ、漢代には大量の副葬品をともなう巨大な墓が無数に造営された。こうした厚葬の習俗は、魏晋代に衰えて薄葬化していくものの、北朝では再び巨大な墳丘と陵園をともなう厚葬墓が造営され、それが隋唐時代の陵墓に継承された。この講義では、先行する漢代と後続する隋唐以降の墓制を視野に入れながら、魏晋南北朝を中心とした時期の墓制について検討する。墓の埋葬施設の構造、墳丘や陵園・墓園などの地上施設、墓室内の装飾や副葬品に対する考古学的分析によって当該時期の墓制の変遷を整理するだけでなく、壁画の図像学的検討や関連する文献・碑刻史料の解釈を加えて、当時の人びとの観念にせまることを授業の目的とする。

[到達目標]

中国魏晋南北朝時代の墓制は、朝鮮三国や日本の古墳時代の墓制を理解するうえで無視することができない。鏡や帯金具など、特定の文物をめぐる交流については長い研究の歴史があり、墓の構造や空間利用についても近年ようやく研究が進みつつあるとはいえ、他界観については研究者ごとに見解が異なっている。その主な原因は、考古資料から当時の人びとの観念にせまる方法論の未熟さにあるといってよい。この講義では、考古資料の分析に加えて、同時代の文献史料と図像資料の分析を重点的におこなうことにより、物質資料から形而上の観念へとせまる方法を学ぶことを目標とする。

[授業計画と内容]

①中国古代の墓と犠牲
②殉葬から俑へ
③墓制にみる漢晋変革
④近年における呉墓の新発見
⑤魏晋墓に用いられた雲母の葬具
⑥招魂葬をめぐる議論
⑦南朝墓「竹林七賢図」の新発見
⑧安岳三号墓の発見と研究
⑨北魏壁画墓の発見
⑩北魏初期の墓制と他界観
⑪北魏の墓制変革
⑫方山永固陵のインパクト
⑬東魏・北斉の皇帝陵と貴族墓
⑭隋煬帝墓の発見
⑮北朝隋唐墓の他界観

考古学(特殊講義)(2)へ続く↓↓↓

考古学(特殊講義)(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点20%と学期末レポート80%をあわせて評価する。

[教科書]

毎回レジュメを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

日頃から自身の専門以外のさまざまな学問分野に目を向けるとともに、学内外の博物館施設などを利用して積極的に実物資料を見学するよう努めること。

（その他（オフィスアワー等））

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学124

科目ナンバリング	G-LET27 77042 SJ38										
授業科目名 <英訳>	考古学(演習II) Archaeology (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　教授　　下垣　仁志				
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	金4	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	演習II										

[授業の概要・目的]

本演習では、担当者(受講者)による発表とその後の討議をつうじて、考古学の具体的な方法論と知識を身につけるとともに、発表と討論の作法を習得する。さらに、学部生は卒業論文に向けて自身の研究テーマを絞り、大学院生はみずからの研究をいっそう深化させることを目指す。

[到達目標]

考古資料や関連文献から情報をひきだし、具体的な方法論に即して考察を構築する手法を習得できるようになる。発表内容を理解したうえで、より高次な議論へと発展させるための討論の作法を身につける。

[授業計画と内容]

年間を通じて、考古学に関する発表と討論の技術を磨いてゆく。前期は、各自の問題意識と関心にあわせ、研究発表と課題論文の発表などを課す(参加人数に応じて後者を省略する場合もある)。後期は、受講者が各自の研究関心に沿ったテーマを設定し、それに関する研究報告と討論をおこなう。初回に受講人数に合わせて発表予定を組むので、万障繰りあわせて出席すること。
＊コロナ禍の状況次第では、授業方式を変更する事態も起こりうる。変更時には可及的速やかに連絡をするので、受講生は授業関連の連絡をこまめにチェックすること。

受講者数によって変動するが、おおむね以下のように進める予定である。
【前期】
第1回　前期の授業計画の説明・報告順序の設定など
第2～15回　報告および討論
【後期】
第1～15回　各自の研究テーマに関する報告および討論

[履修要件]

考古学の専門性がかなり高くなるので、考古学実習をすでに履修しているか、履修予定の学生であることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

発表内容・討議への参加度合い・レポートの出来栄えなどから総合的に評価する。発表者の無断欠席は、単位認定を放棄する行為とみなす。やむを得ない事情による欠席時には代替課題を課す。

考古学(演習II)(2)へ続く↓↓↓

考古学(演習II)(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

与えられた課題をこなし、発表・レポート作成に結実させるべく、関連遺物・遺跡の積極的な観察・踏査をおこなうこと。また各自、博物館見学・現地説明会見学・資料調査・発掘調査に積極的に参加・関与することで、テーマの発見と考古学への知見を深められたい。

（その他（オフィスアワー等））

課題をクリアすべく、できるだけ多くの文献にあたり知識を深められたい。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

歴史文化学125

科目ナンバリング	G-LET27 7M334 SJ38										
授業科目名 <英訳>	考古学(演習IV) Archaeology (Seminars)					担当者所属・職名・氏名	文学研究科　准教授　千葉　豊 文学研究科　教授　吉井　秀夫 文学研究科　教授　下垣　仁志				
配当学年	1回生以上	単位数	4	開講年度・開講期	2023・通年	曜時限	木1	授業形態	演習	使用言語	日本語
題目	修士論文指導										

[授業の概要・目的]

修士論文作成を目的とした研究に関して中間発表をおこない、教員や他の出席者から批評を受け、よりよい論文の完成をめざす。各人が研究の進捗状況にしたがって、段階的に成果を発表する。

[到達目標]

授業での中間発表およびそれに関する質疑応答をもとに、修士論文を書き上げる。

[授業計画と内容]

５月の連休頃までに各自研究テーマを確定する。前期末までの発表では、そのテーマにかかわる研究史や問題点を整理し、夏休みを中心とした作業計画・研究計画を提示する。後期前半には、夏休み中におこなった資料収集成果やその分析成果の途中経過を整理・発表する。後期後半の報告では、論文目次案を提示した上で、研究成果を総括する。受講者数により日程は調整するが、おおむね以下の通りで進める予定である。

前期
第１回　ガイダンス
第２～８回　研究テーマの検討
第９～15回　第１回報告

後期
第１～７回　第２回報告
第８～15回　第３回報告

[履修要件]

修士論文の作成と提出が前提となる。
本演習とは別に、忘れずに修士論文を登録すること。

[成績評価の方法・観点]

演習時の発表内容で評価する。

[教科書]

使用しない

考古学(演習IV)(2)へ続く↓↓↓

考古学(演習IV)(2)

[参考書等]

（参考書）

[授業外学修（予習・復習）等]

卒業論文を書き上げるために、できる限りの時間を用いて資料収集・遺物の実見と検討・分析などの作業を進めること。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーはとくに設けないが、修士論文作成に関する相談には、常時、対応する。電話やメールなどで、あらかじめ教員のアポを取ること。

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。